

国際スケート連盟

特別規程、技術規程

シングル&ペア・スケーティング

および

アイス・ダンス

2022

注記) ISU組織規程およびISU規程において、人を指すものとして男性形（スケーター／競技者，役員，ISUメンバー所属員など，または彼，彼らなどの代名詞）が使われている場合，当該項目において別段の定めがないかぎり，女性を含むものとする。

ISU組織規程・一般規程も参照のこと。

INTERNATIONAL SKATING UNION

Regulations laid down by the following Congresses:

1st	Scheveningen	1892	31st	Vienna	1965
2nd	Copenhagen	1895	32nd	Amsterdam	1967
3rd	Stockholm	1897	33rd	Maidenhead	1969
4 th	London	1899	34th	Venice	1971
5 th	Berlin	1901	35th	Copenhagen	1973
6 th	Budapest	1903	36th	Munich	1975
7 th	Copenhagen	1905	37th	Paris	1977
8 th	Stockholm	1907	38th	Davos	1980
9 th	Amsterdam	1909	39th	Stavanger	1982
10th	Vienna	1911	40th	Colorado Springs	1984
11th	Budapest	1913	41st	Velden	1986
12th	Amsterdam	1921	42nd	Davos	1988
13th	Copenhagen	1923	43rd	Christchurch	1990
14th	Davos	1925	44th	Davos	1992
15th	Luchon	1927	45th	Boston	1994
16th	Oslo	1929	46th	Davos	1996
17th	Vienna	1931	47th	Stockholm	1998
18th	Prague	1933	48th	Québec	2000
19th	Stockholm	1935	49th	Kyoto	2002
20th	St. Moritz	1937	50th	Scheveningen	2004
21st	Amsterdam	1939	51st	Budapest	2006
22nd	Oslo	1947	52nd	Monaco	2008
23rd	Paris	1949	53rd	Barcelona	2010
24th	Copenhagen	1951	54th	Kuala Lumpur	2012
25th	Stresa	1953	55th	Dublin	2014
26th	Lausanne	1955	56th	Dubrovnik	2016
27th	Salzburg	1957	57th	Sevilla	2018
28th	Tours	1959	—	Online voting	2020
29th	Bergen	1961	—	Online voting	2021
30th	Helsinki	1963	58th	Phuket	2022

I. 特別規程

シングル&ペア・スケーティング アイス・ダンス

目次

概要		頁
規程条項	300 シングル&ペア・スケーティングおよび アイス・ダンスの競技種目	9

競技会規程

シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンス

A. 総則

規程条項	335 競技会の競技部分	9
	336 競技会スタッフ	10
	342 必要とされるリンク	10
	343 音楽	11
	344 競技会のスケジュール	12
	345 競技会開催中の公式通達	12
	346 ビデオ録画	12
	349 演技予定要素表	13
	350 スタートの呼び出し	13
	351 スケーターおよび役員の行動	13
	352 ISUジャッジング・システム - 採点システム	13
	353 ISUジャッジング・システム - 結果の決定と発表	15
	354 ISUメンバー単位のチーム成績	21
	355 世界ランキングの算出方法	22
	358 賞	22
	365 競技会中のエキシビション	22
	366 プロトコール	22
	367 独自形式	23

B. ISU選手権大会—特別規程

規程条項	375 割当	24
	376 選手権大会のスケジュール／期間	24
	377 選手権大会への参加	24
	378 ISU選手権大会に対するエントリー	25
	379 曲名	30

概要			頁
規程条項	381	ISUイベント・マネージャーおよびリージョナル・アシスタント・イベント・マネージャー	30
	393	メダルの授与	31
	394	メダル	31
	396	アイス・ショーの広告	32

C. オリンピック冬季大会

規程条項	400	オリンピック冬季大会のエントリー	32
	401	オリンピック冬季大会の役員の任命	34
	402	オリンピック冬季大会のジャッジ団	35
	403	オリンピック冬季大会における抽選	37

シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンスの 役員に関する規程

A. 役員の推薦と任命

規程条項	410	役員の推薦および任命の手続き	38
	411	役員の推薦および任命にかかわる全般的事項	41
	412	レフェリーの推薦および任命にかかわる個別要件	44
	413	ジャッジの推薦および任命にかかわる個別要件	46
	414	テクニカル・コントローラーの推薦および任命にかかわる個別要件	48
	415	テクニカル・スペシャリストの推薦および任命にかかわる個別要件	51
	416	データ&リプレイ・オペレーターの推薦および任命にかかわる個別要件	53
	417	ISUセミナー	55

B. 競技会役員の任命

規程条項	420	国際競技会役員の任命（全般）	57
	421	ISU選手権大会役員の任命（特別規程）	59
	422	オリンピック冬季大会の役員の任命（特別規程）	59

概要		頁
C. 役員の義務および権限		
規程条項	430	全般および個別の義務および権限
	431	競技会におけるレフェリーおよびジャッジのミーティング
	432	競技会におけるテクニカル・パネルのミーティング
	433	報告書
		60 65 66 67
D. 役員の業務に対する評価		
規程条項	440	役員の業務に対する評価
		69
エキシビションに関する規程		
規程条項	450	エキシビション
		77

II. 技術規程

シングル&ペア・スケーティング／アイス・ダンス

シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンスの技術規程総則

			頁
規程条項	500	スケート・ブレードおよび衣装の定義	79
	501	衣装	79
	502	滑走時間	79
	503	転倒	80
	504	ショート・プログラム／リズム・ダンスおよび	81
		フリー・スケーティング／フリー・ダンスの採点	

競技会のための技術規程

シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンス

A. 総則

規程条項	511	参加申込者および役員パネルの発表	85
	512	抽選	85
	513	滑走順の抽選	85
	514	ウォームアップ時間	89
	515	中断、音楽の不具合、不運な条件、不完全な演技	90

B. ISU選手権大会—特別技術規程

規程条項	520	競技者の抽選	94
	521	ジャッジ団の抽選	95

表

I.	滑走順グループのサイズ	101
II.	ウォームアップ・グループのサイズ	102

III. 技術規程

シングル&ペア・スケーティング

A. シングルおよびペア・スケーティングの要素		頁
規程条項	610 シングルおよびペア・スケーティングにおける要素の要件および違反要素／違反動作	103
B. シングル・スケーティング		
規程条項	611 シングル・スケーティングのショート・プログラム	105
	612 シングル・スケーティングのフリー・プログラム	109
C. ペア・スケーティング		
規程条項	619 ペア・スケーティングにおける要素の要件	113
	620 ペア・スケーティングのショート・プログラム	115
	621 ペア・スケーティングのフリー・スケーティング	118

IV. 技術規程

アイス・ダンス

A. アイス・ダンスの定義			頁
規程条項	701	アクシス	122
	702	パターン	122
	703	一連のステップ	123
	704	ステップ, ターン, 動作	124
	705	ダンス・ホールド	132
	706	音楽用語の定義	134
B. パターン・ダンス			
規程条項	707	イントロダクション	135
	708	要求事項と採点	137
C. リズム・ダンス			
規程条項	709	リズム・ダンス	141
D. フリー・ダンス			
規程条項	710	フリー・ダンス	143
E. パターン・ダンスの発表および抽選ならびに リズム・ダンスおよびフリー・ダンスの要件の発表			
規程条項	711		146

I. 特別規程

シングル&ペア・スケーティング アイス・ダンス

第300条

シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンスの競技種目

1. シングル&ペア・スケーティング, すなわち, 女子シングル・スケーティング, 男子シングル・スケーティング, ペア・スケーティング (構成は女子1名, 男子1名) は, ISU組織規程第39条第3項b) (i)に定められているとおり, 次の部分からなる.
 - a) ショート・プログラム
 - b) フリー・スケーティング
2. アイス・ダンスは女子1名, 男子1名で構成され, ISU組織規程第39条第3項b) (ii)に定められているとおり, 次の部分からなる.
 - a) パターン・ダンス
 - b) リズム・ダンス
 - c) フリー・ダンス

第301条～第334条 (予備)

シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンスの競技会規程

総則

第335条

競技会の競技部分

A. シングルおよびペア・スケーティングの競技会の競技部分

1. ISU選手権大会, オリンピック冬季大会, ユース・オリンピック冬季大会, オリンピック冬季大会の予選競技会, およびISUグランプリおよびグランプリ・ファイナル (シニアおよびジュニア) におけるシングルおよびペア・スケーティングはショート・プログラムおよびフリー・スケーティングからなる.
2. 国際競技会におけるシングルおよびペア・スケーティングは次の部分からなる.
 - a) ショート・プログラムおよびフリー・スケーティング
 - b) フリー・スケーティング (シニアのみ)

B. アイス・ダンスの競技会の競技部分

ISU選手権大会, オリンピック冬季大会, ユース・オリンピック冬季大会,

オリンピック冬季大会の予選競技会、ISUグランプリおよびグランプリ・ファイナル（シニアおよびジュニア）におけるアイス・ダンスはリズム・ダンスおよびフリー・ダンスからなる。

2. 国際競技会におけるアイス・ダンスは次の部分からなる。

- a) リズム・ダンスおよびフリー・ダンス
- b) パターン・ダンスおよびフリー・ダンス
- c) フリー・ダンス（シニアのみ）

C. 競技および滑走の順番

- a) ショート・プログラム／リズム・ダンスあるいはパターン・ダンスを先に滑走し、その後、フリー・スケート／フリー・ダンスを滑走する。
- b) 女子、男子、ペア、アイス・ダンス・カップルは別々に滑走する。
- c) ショート・プログラム／リズム・ダンス、フリー・スケート／フリー・ダンス、パターン・ダンスの競技において、氷に乗れる競技者は、一度に1人／ペア／カップルのみである。

**第336条
競技会スタッフ**

競技会では、組織委員会に任命された下記スタッフが必要となる。

- a) 競技者を呼び出し、得点および結果を読み上げる放送係ひとり
- b) シングル／ペアは計時係一人以上、アイス・ダンスは計時係二人以上
- c) リザルト計算コンピューター・オペレーター一人以上
- d) 競技会の秩序ある運営等を助ける上記以外の補助競技会スタッフ（必要な場合）

第337条～第341条（予備）

**第342条
必要とされるリンク**

- 1. ショート・プログラム／リズム・ダンス、フリー・スケート／フリー・ダンス、パターン・ダンスの競技用氷域は長方形でなければならない、長辺が60m、短辺が30mであることが望ましい。もし異なる場合は、それより大きくてはならず、また長辺が56m、短辺が26mより小さくてはならない。役員が氷上に着席することは許されない。ジャッジおよびレフェリーはリンクサイドに、テクニカル・パネルは高い位置に着席することが望ましい。

2. 国際競技会の開催には屋根付きのリンクが少なくとも1つ必要である。暖房設備があればなおよい。ISU選手権大会、オリンピック冬季大会およびユース・オリンピック冬季大会の開催には2つの屋内リンクが必要である。ISUイベント、オリンピック冬季大会、ユース・オリンピック冬季大会、オリンピック冬季大会の予選競技会のリンクは暖房が効いていなくてはならない。

第343条 音楽

1. プログラムは必ず音楽に合わせて滑らなければならない。
2. 競技者は、第112条で定められているとおり、競技会の要綱で発表されたフォーマットと形式で、優れた音質の競技用音楽を用意しなければならない。
 - a) 選手は音楽の正確な演奏時間（滑走時間ではない）を公表しなければならない。また、受付時に音楽を提出するにあたり、その演奏時間が正しいことを選手、コーチ、あるいはチーム・リーダーが保証しなければならない。
 - b) ショート・プログラム／フリー・プログラム／カップルが用意するパターン・ダンス／リズム・ダンス／フリー・ダンスの音楽は、プログラムごとに、（CDで用意する場合）異なるディスクまたは異なるトラックに記録されていなければならない。
 - c) 選手は、第112条で定められているとおり、競技会の要綱で発表されたフォーマットと形式で、音楽ごとに予備のディスクを用意しなければならない。
3. 競技に用いる音楽は、高品質の電子レコーダー、たとえばMP3プレーヤーもしくはそれに類するもの、コンピューター、CDプレーヤーを用いて再生しなければならない。競技会では、このうち1種類あるいは2種類を使用する。大会の組織委員会は競技用リンクおよび練習用リンクに適切な音楽再生装置を用意しなければならない。その装置の仕様は大会要項に記載されなければならない。
4. 周波数および／または電源電圧の変動に対しては十分な対策を講じなければならない。
5. 練習用リンクや競技用リンクにおける音楽のボリューム・レベルは医事委員会が決定するが、その際、会場のどの部分においても音圧が85～90dBを超えないレベルとしなければならない。
6. 競技会で用いるために提出された音楽ファイルは、すべて、競技会終了後、組織委員会が消去する。

7. 公式練習がない場合、組織委員会は、電子的に提出された音楽がまちがいでなく当該選手の音楽であると確認する機会を選手、コーチ、またはチーム・リーダーに与えなければならない。

第344条 競技会のスケジュール

1. 2つの競技部分からなる競技会は、少なくとも2日にわたって行うべきだが、連続3日を超えて継続してはならない。
2. 組織委員会の裁量により、ショート・プログラム／リズム・ダンスまたはパターン・ダンスは、フリー・スケーティング／フリー・ダンスの前日としてもよいし、ショート・プログラム／リズム・ダンスまたはパターン・ダンスが終了したあと、間隔を少なくとも4時間開けられるのであれば、当日としてもよい（ISUのジュニア・グランプリ・シリーズ、グランプリ・シリーズおよびグランプリ・ファイナル、ISU選手権大会を除く）。
3. 競技会は、午前9時より前に開始してはならない。また、午後11時までに終了する予定としなければならない。

第345条 競技会開催中の公式通達

ISU選手権大会、オリンピック冬季大会、ユース・オリンピック冬季大会、国際大会が開催されている間、公式通達はすべて英語で行わなければならない。

第346条 ビデオ録画

大会を組織するISUメンバー、場合によってはISUが、競技会の競技部分ごとにビデオ録画をレフェリーに提供しなければならない。

第347条～第348条（予備）

第349条

演技予定要素表

各スケーター／ペア／カップルは演技予定要素表を提出しなければならない。演技予定要素表とは、競技会におけるパターン・ダンス以外の競技部分において予定している要素を記した公式書類を指す。

第350条

スタートの呼び出し

1. 各演技に先立ち、これから競技を行う者の名前を氷上および選手更衣室ではっきりと呼び出さなければならない。
2. スケーター／ペア／ダンス・カップルは、名前を呼ばれてから30秒以内に、競技の当該競技部分（ショート・プログラム／リズム・ダンス、フリー・スケート／フリー・ダンス、あるいは、パターン・ダンス）における開始の姿勢を取らなくてはならない。この時間が経過しても開始の姿勢が取られていない場合、レフェリーは、第353条n)に定める減点を適用しなければならない（最終得点から減点する）。スタートの呼び出しから60秒が経過しても開始の姿勢が取られていない場合、その競技者は棄権したものとみなされる。

第351条

スケーターおよび役員の行動

1. 滑走中の競技者に合図を送るような言動など、役員による激励や助言はいかなるものであっても許されない。
2. 競技者は、ショート・プログラム／リズム・ダンス、フリー・スケート／フリー・ダンス、パターン・ダンスの滑走前、観客に対してお辞儀をしてはならない。演技終了後、観客の拍手に対し感謝する意味でお辞儀をすることは許される。
3. 競技者は、公式練習中およびイベント中、氷上でヘッドホン、イヤープッドなどを使用してはならない。

第352条

ISUジャッジング・システム — 採点システム

1. ISUイベント、オリンピック冬季大会、ユース・オリンピック冬季大会、オリンピック冬季大会の予選競技会において、結果は、電子的に計算しなければならない。

2. ISUイベント以外の国際競技会においては競技会を主催するISUメンバーが、また、ISUイベント、オリンピック冬季大会、ユース・オリンピック冬季大会においてはISUが、コンピューター・プログラムを含めて結果の正確性に責任を負い、また、責任をもってデータの入力と公式結果の作成を行う経験豊かで有能なオペレーターを準備しなければならない。

3. オンラインの採点システムと掲示装置

a) 役員用画面

ジャッジとレフェリーは1人ずつ独立に採点を行う。テクニカル・コントローラーおよびテクニカル・スペシャリストの決定は、データ・オペレーターが記録する。その際に使用するシステムは、タッチ・スクリーンもしくはそれに類似するものとする。ISUに認可されたビデオ・リプレイ・システムを内蔵したシステムとしてもよい。各ジャッジ、レフェリー、テクニカル・パネルが入力した内容は、計算用のコンピューターへ送る。なお、このコンピューターは、包括的なバックアップ・システムを備えていることが望ましい。

b) 電光掲示装置／スコアボード

ISU選手権大会においては電光掲示装置を使用しなければならない。スコアボードには、前競技部分（ショート・プログラム／リズム・ダンス）の順位、現競技部分における現在の順位、現在の総合順位を表示する。理事会の判断により、観客が興味をもつ情報などを追加で表示することができる。

4. オフラインの得点計算

オンラインで得点計算ができない場合、以下のように処理する。

a) ジャッジが5名以下でテクニカル・パネル（テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト）なしの場合

- i) ジャッジのパネルを「テクニカル・ジャッジ」（最大2名）と「パフォーマンス・ジャッジ」（可能であれば3名以下）に分割する。
- ii) 「テクニカル・ジャッジ」は全ての要素を記録し、各要素にGOEを与えるものとし、「パフォーマンス・ジャッジ」はプログラム・コンポーネンツのみを与えるものとする。「パフォーマンス・ジャッジ」は独立して採点するものとするが、「テクニカル・ジャッジ」は個別要素の決定に際して意見交換してもよい。
- iii) 「テクニカル・ジャッジ」の1人がレフェリーの役割を担う。レフェリーおよびテクニカル・パネルの責務とされている減点を決定するのは、その1人のみである。

- b) テクニカル・パネル（テクニカル・コントローラーおよびテクニカル・スペシャリスト）ありの場合、あるいは、ジャッジが5名を超える場合
 - i) ジャッジは5名を超えているがテクニカル・パネルなしの場合には、上述のa) (i)に従う。
 - ii) 全員を結ぶ通信手段（ヘッドセットなど）を「パフォーマンス・ジャッジ」／ジャッジと「テクニカル・ジャッジ」／テクニカル・パネルとの間に築く必要がある。この通信手段は、パネルで作業する「パフォーマンス・ジャッジ」／ジャッジに、特定されコールされた要素を確実に知らせるためのものである。
 - iii) 「テクニカル・ジャッジ」／テクニカル・パネルは、テクニカル・パネルの責務として、全ての要素を記録し減点を適用する。ジャッジは、要素ごとのGOEとプログラム・コンポーネンツを与えるものとする。
 - iv) レフェリーが別に任命されていない場合、「テクニカル・ジャッジ」／ジャッジの1人がレフェリーの役割を担うものとする。レフェリーの責務とされている減点を決定するのは、その1人あるいはレフェリーのみである。
- c) 「役員用マーキング・シート」は演技ごとに集めなければならない。データはコンピューターに入力して結果を計算するか、手作業で結果を計算する。結果の計算は第353条に従って行う。

第353条

ISUジャッジング・システム — 結果の決定と発表

1. 計算の基本原則

- a) パターン・ダンスの各セクションおよび各要素（ショート・プログラム／リズム・ダンス／フリー・ダンスで要求されている要素やウェルバランス・フリー・スケーティング・プログラムの要素）は、ISUコミュニケーションで公表された価値尺度（SOV）表に記載された基礎値（BV）を持つ。
- b) 各ジャッジはシーケンス／セクション／要素ごとにひとつ、あるいは、ISUコミュニケーションでそう定められた場合にはふたつの出来栄え（GOE）を評価する。各GOEは、ISUコミュニケーションでシーズンごとに発表されるSOV表で示される正または負の数的価値を持つ。

- c) パネルにおける実施要素の出来栄え（GOE）は、ジャッジが与えたGOEの数的価値から上下カット行い平均値を算出する。
- d) 上下カット後の平均値計算は、最も高い値と最も低い値を取り除き、残りの値を平均する。ジャッジの人数が5名に満たない場合、計算において最も高い値と最も低い値を取り除くことはしない。
- e) この平均値が、各セクション／要素に対する最終のGOEである。パネルのGOEは四捨五入して小数点以下2桁まで求める。
- f) 各セクション／要素に対するパネルのスコアは、そのセクション／要素に対するGOEの上下カット後の平均値をその基礎値に加算して決定する。
- g) すべてのセクション／要素に対するパネルのスコアを加算し、総要素点とする。
- h) シングル&ペア・スケーティングでは：
 - i) ジャンプ・コンビネーションおよびジャンプ・シーケンスは、含まれたジャンプの基礎値を加算したものを基礎値、難度が最も高いジャンプのものをGOEの数的価値とし、1つの単位として評価する。
 - ii) 余分な要素または規定された数を超える要素は、いかなるものも、競技者の結果にカウントされない。最初に試みた（または許された回数に試みた）要素のみが考慮される。
 - iii) シングル・スケーティングのショート・プログラムおよびフリー・スケーティングでは、プログラム中の難度が均等に分布していることを評価するため、プログラム後半に開始されたジャンプ要素の基礎値（GOEの値ではない）は特別に1.1倍される。ただし、1.1倍されるジャンプ要素は、ショート・プログラムにおいては最後の1つのみ、フリー・スケーティングにおいては最後の3つのみとする。プログラム後半に行われたジャンプ要素について基礎値に係数を乗ずる際は、それぞれ四捨五入して小数点以下2桁まで求める。後半部分の開始は規定時間の中央からであり、許されている前後10秒は考慮に入れない。ただし、3分以内の中断があった場合（第515条第4項b））、1.1倍されるのはプログラム後半に開始されたジャンプ要素のうち中断前に行われたもののみとする。

- i) アイス・ダンスでは：
 - i) コンビネーション・リフトは最初に行われた2つのショート・リフトの基礎値を合算したものにGOEを適用し、1つの単位として評価する。コンビネーション・リフトのGOEは、最初に行われた2つのショート・リフトに対応するGOEの合計値と等しい。
 - ii) アイス・ダンス技術委員会が発表し、可能な場合にはISUコミュニケーションで公表されたステップ・シーケンスは女性が行ったステップ・シーケンスと男性が行ったステップ・シーケンスの基礎値を合算したものにGOEを適用し、1つの単位として評価する。GOEは、当該ステップ・シーケンスに対応するGOEの合計値とする。
 - iii) アイス・ダンス技術委員会が発表し、可能な場合にはISUコミュニケーションで公表されたターン・シーケンスは女性が行ったターンのタイプの基礎値と男性が行ったターンのタイプの基礎値を合算したものにGOEを適用し、1つの単位として評価する。GOEは、当該ターン・タイプに対応するGOEの合計値とする。
- j) 各ジャッジは、0.25から10まで0.25刻みでプログラム・コンポーネンツを採点する。
- k) 上下カット後の平均値は本条d)項に従って計算する。
- l) プログラム・コンポーネンツの各項目の上下カット後の平均は四捨五入して小数点以下2桁まで求める。
- m) プログラム・コンポーネンツの各項目に対するパネルの点は、さらに以下の係数（シニア，ジュニア共通）を乗じ、演技構成点ができるかぎり総要素点と等価になるようにする。

男子：	ショート・プログラム：	<u>1.67</u>	フリー・スケーティング：	<u>3.33</u>
女子：	ショート・プログラム：	<u>1.33</u>	フリー・スケーティング：	<u>2.67</u>
ペア：	ショート・プログラム：	<u>1.33</u>	フリー・スケーティング：	<u>2.67</u>
アイス・リズム・ダンス：		1.33	フリー・ダンス：	<u>2.00</u>
ダンス：	パターン・ダンス：	<u>1.17</u>		

係数を乗じた点数は四捨五入して小数点以下2桁まで求め、全項目について加算する。合計が演技構成点（プログラム・コンポーネンツ・スコア）となる。

n) 本規程において定められた以下の違反には、次のとおり減点を適用する。

違反：	規程条項：	点数：
演技時間	第502条	5秒までの過不足ごとに-1.0
パターン・ダンス 演技時間	第707条, 第6項	パターン・ダンスに規定された最後のステップから最後の動き／ポーズまでに許容される時間を5秒超過するごとに-1.0
違反要素／違反動作	第504条, 第2項	要素違反ごとに-2.0
コスチュームおよび小道具	第501条, 第1項	プログラム全体に対して-1.0
コスチューム／飾りの一部が氷上に落下	第501条, 第2項	プログラム全体に対して-1.0
演技開始の遅れ	第350条, 第2項	開始が1～30秒遅れた場合、-1.0
転倒	第503条	<p>・シニアのシングル・スケーティング：</p> <p>1回目と2回目の転倒は-1.0, 3回目と4回目の転倒は-2.0, 5回目以降は転倒ごとに-3.0.</p> <p>*ジュニアのシングル・スケーティング：</p> <p>転倒ごとに-1.0.</p> <p>*ペア・スケーティングおよびアイス・ダンス：パートナーの片方が転倒した場合は転倒ごとに-1.0, パートナーの両方が転倒した場合は転倒ごとに-2.0</p>
演技の中断	第515条, 第4項. a)	<p>中断ごとに以下を適用する.</p> <p>10秒を超え, 20秒まで：-1.0</p> <p>20秒を超え, 30秒まで：-2.0</p>

		30秒を超え、40秒まで：-3.0
3分以内であれば中断箇所から再開してよい範囲の演技の中断.	第515条, 第4項b)	プログラム全体に対して-5.0
不運な条件は、プログラム開始前であれば3分の猶予が与えられる.	第515条, 第6項	プログラム全体に対して-5.0
振り付けに関する制限	アイス・ダンス：第709条第1項d), g), h), j)と第710条第1項f), h), j)	プログラム全体に対して-1.0
余分な要素 (アイス・ダンスのみ)	ISUコミュニケーションで公表された要求要素とコール原則	違反ごとに-1.0
音楽要件 (アイス・ダンスのみ)	第707条第5項, 第709条第1項c)(i)と(ii), 第710条第1項c)	プログラム全体に対して-2.0
テンポ指定 (アイス・ダンスのみ)	第707条第1項, 第5項および第709条第1項c)(iii)	プログラム全体に対して-1.0
許容時間を超えるリフト(アイス・ダンスのみ)	第704条, 第16項	リフトごとに-1.0

2. 各競技部分の結果の決定

- a) 各競技部分（ショート・プログラム／リズム・ダンス，フリー・スケート／フリー・ダンス，パターン・ダンス）における各競技者／ペア／カップルの競技部分の総得点（TSS：トータル・セグメント・スコア）は、総要素点と演技構成点を加え、本条第1項n)に記載されている違反に対して減点する。

- b) アイス・ダンスにおいて2課題のパターン・ダンスを行う競技会では、各課題の総得点に係数0.5を乗じる。
- c) 競技部分の総得点が最高のスケーター／ペア／カップルを1位、次に高いスケーター／ペア／カップルを2位などとする。
- d) 2名／組以上の競技者／組が同じ総得点となった場合、ショート・プログラム／リズム・ダンスおよびパターン・ダンスでは総要素点の高い者を上位とする。フリー・スケートティング／フリー・ダンスでは演技構成点の高い者を上位とする。これらも同点の場合には、関連する競技者（組）は同順位とする。
- e) 係数を乗ずる競技部分では、係数を乗じた競技部分の得点は四捨五入して小数点以下2桁まで求める。

3. 最終結果の決定

- a) 各競技部分、すなわち、ショート・プログラム／リズム・ダンスあるいはパターン・ダンスおよびフリー・スケートティング／フリー・ダンス、それぞれの総得点を合算したものが、競技会における当該スケーター／ペア／カップルの最終得点となる。最終得点が最高のスケーター／ペア／カップルを第1位とし、以下同様に順位を決定する。
- b) 最終結果で同得点が出た場合には、最後に滑走した競技部分の得点が最高のスケーター／ペア／カップルを1位などとする。最後に滑走した競技部分の得点が等しければ、その競技部分の順位が上位のものを最終結果で上位とする。アイス・ダンスにおいて、パターン・ダンスを2課題滑走する場合、両課題は等価である。どちらかの結果が優先されることはない。
- c) もしその競技部分が同順位なら、その前の競技部分の上位者を上位などとする。前の競技部分が存在しない場合、該当のスケーター／ペア／カップルは同順位とする。

4. 結果の公表

- a) 各競技の最終結果の発表において、除外された競技者（得点不足や棄権のため次の競技部分の資格を得られなかった競技者）は競技を完全に終了した競技者の下に並べ、このような除外された競技者は完了した競技部分までの順位に従って並べる。

失格者は順位を失い、中間結果および最終結果には失格者（DSQ）として公式に記される。競技を終了し当初は失格者より下位であった競技者は、それぞれの順位をくり上げる。

- b) 各競技部分の終了後、総要素点、プログラム・コンポーネンツの各項目に対するパネルの点、プログラム・コンポーネンツ、減点、各競技部分の総得点（TSS）を、各スケーター／ペア／カップルについて公表しなければならない。
- c) 各競技部分の終了後、すべての（実施）要素の基礎値（VB）と各ジャッジが与えたGOEおよびプログラム・コンポーネンツ点を記載した印刷物を発行する。フィギュア・スケートの競技会、選手権大会、イベント、オリンピック冬季大会においては、ジャッジの氏名および各ジャッジが与えた点数を公表する。
- d) 最終結果は競技終了後できるだけ早く公表する。公表内容は、スケーター／ペア／カップルごとに、以下のとおりとする。
 - 最終順位
 - 上記とは別に各競技部分の順位
- e) 競技終了後、各スケーター／ペア／カップルの総得点（最終スコア）を公表する。

第354条 **ISUメンバー単位のチーム成績**

国際競技会におけるISUメンバー単位のチーム成績を算出する方法は、理事会がISUコミュニケーションに公表するものとする。この計算式は、各カテゴリー（ノービス、ジュニア、シニア）における各競技種目、すなわち、女子シングル・スケーティング、男子シングル・スケーティング、ペア・スケーティング、アイス・ダンス、シンクロナイズド・スケーティング（該当する場合）の競技結果に基づくものとする。この算出方法は、シニア、ジュニア、ノービスの国際競技会を主催するISUメンバーが策定し、大会要項で適切に公表するものとする。

競技会終了後、最終チーム成績は個別競技会の表彰式がすべて終わったあとに発表し、最終プロトコールにも記載しなければならない。

第355条

世界ランキングの算出方法

世界ランキングの算出方法は、妥当なISU組織が策定し、ISUコミュニケーションに公表するものとする。

- a) 女子、男子、ペア・スケーティング、アイス・ダンス
 - b) ISUメンバー単位の結果（チーム成績および／または個人成績）
- 世界ランキングは、ISUウェブサイトにおいて公表・更新する。

第356条～第357条（予備）

第358条

賞

- 1. 賞は各競技の最終結果に対して与える。
- 2. 競技会を主催するISUメンバーは競技のどの部分の順位に対しても別個の賞を与えることができる。
- 3. ISUメンバーはISU選手権大会以外の競技会ではISU選手権メダルに似たメダルを与えてはならない。

第359条～第364条（予備）

第365条

競技会中のエキシビション

国際競技会の競技者は、その者の参加した競技会の全部分が終了し、その競技会の結果が発表された後でなければエキシビションを行うことができない。

第366条

プロトコール

- 1. シングルおよびペア・スケーティングならびにアイス・ダンス競技会のプロトコールは、競技会終了後に公表されなければならない。プロトコールには、以下に定める一般事項および特別事項が記載されていなければならない。
- 2. プロトコールに記載する一般事項
 - a) 大会の開催場所およびリンク名
 - b) 大会の開催日時

- c) ISU選手権大会のみ：ISU理事，シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンス技術委員会委員，ISU事務局長，スポーツ技術局員，財務部長および法律顧問の名簿
 - d) 参加したISU役員
 - e) 参加したISUメンバーおよびエントリー
 - f) 組織委員会の構成
 - g) イベント・スケジュール（オン・アイスおよびオフ・アイスのスケジュール）
 - h) 役員（競技部分がある場合は部分ごと）
 - i) リンクの種類（暖房の有無）
 - j) スケーティング・エリア／氷面のサイズ
 - k) 氷の状態
 - l) 申込人数および参加競技者数
 - m) 競技部分の特別条件，係数，滑走時間
 - n) アイス・ダンス競技がある場合，パターン・ダンス課題（滑走順に）
 - o) アイス・ダンスでは，リズム・ダンスのリズム／テーマ
- 3. 各競技種目（女子，男子，ペア，アイス・ダンス）のそれぞれについて，プロトコールに記載すべき特別事項は，第353条第4項を参照のこと。
 - 4. プロトコールにはレフェリーおよびテクニカル・コントローラーの署名がなければならない。
 - 5. ISU選手権大会のプロトコールには1位，2位，3位の者の写真が含まれていなければならない。国際競技会の場合，写真はなくともよい。
 - 6. プロトコールは，ISUのウェブサイトに掲載するため，競技会終了後，ISUイベントについては1週間以内に，国際競技会については2週間以内に，電子形式でISU事務局へ送付しなければならない（ISU選手権大会については第135条を参照のこと）。

第367条 独自形式

国際競技会における独自形式

特別規程および技術規程に関し，技術的な変更を加えたり，新たな方法やシステムを追加する場合は，第104条第11項b)に従うこと。

第368条～第374条（予備）

B. ISU選手権大会－特別規程

第375条 割当

ISU選手権大会の割当と期日に関する規程は第127条および第128条を参照のこと。

第376条 選手権大会のスケジュール／期間

2022～2023シーズンおよび2023～2024シーズンのISU選手権大会は7日間を超えてはならない。運営ISUメンバーは、すべての競技者に対し、最初の競技に先立ち2日間の自由練習を選手権大会会場に用意しなければならない。2024～2025シーズン以降、ISU選手権大会の開催期間は8日以内とする。ISU選手権大会において、運営ISUメンバーは、すべての競技者に対し、最初の競技日に先立ち1日間の自由練習を選手権大会会場に用意しなければならない。

予選ラウンドのある世界選手権大会については、予選ラウンドに参加する選手に対し、予選ラウンド最初の競技日に先立ち1日間の自由練習を選手権大会会場に用意しなければならない。また、選手権大会ラウンドの選手（直接エントリー）に対し、選手権大会最初の競技日に先立ち1日間の自由練習を選手権大会会場に用意しなければならない。

1. 各競技種目において、ショート・プログラム／リズム・ダンスとフリー・スケーティング／フリー・ダンスは同日に滑走してはならないが、最大で連続3日のうちには完了するべきである。

第377条 選手権大会への参加

1. 世界選手権大会への参加は、ISUメンバーに所属しているすべての競技者に開かれる。（例外については第109条第5項を参照）

2. ヨーロッパ選手権大会については、欧州のISUメンバーに所属し、かつ第109条第2項および第3項の要件を満たす競技者のみが競技に参加できる。
3. 四大陸選手権大会については、欧州以外のISUメンバーに所属し、かつ第109条第2項および第3項の要件を満たす競技者のみが競技に参加できる。

第378条

シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンスの ISU選手権大会に対するエントリー

1. シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンスのISU選手権大会については、名前を明記したエントリーが、当該選手権大会の第1日目（公式練習初日）の21日前に担当局員および大会組織委員会の双方に到着していなければならない。締め切り後の申し込みについては、一般規程の第115条第5項が適用される。
2. ISUフィギュア・スケート（シングル&ペア・スケーティング／アイス・ダンス）選手権大会のエントリー数
 - a) ISU欧州選手権、ISU世界ジュニア選手権、ISU世界選手権大会（世界選手権大会は2022～2023シーズンおよび2023～2024シーズンにのみ適用する）
 - i. 特別クラブを除くISUメンバーは、それぞれ、以下の第4項で述べられている総要素点のミニマムポイントに達している競技者を、各競技種目（男子、女子、ペア・スケーティング、アイス・ダンス）につき少なくとも1名／組、参加させることができる。
 - ii. 上記以外のエントリーは、第3項の定めによる。
 - b) ISU四大陸選手権大会のエントリー数
 - i. 特別クラブを除くISUメンバーは、それぞれ、以下の第4項で述べられている総要素点のミニマムポイントに達している競技者を、各競技種目（男子、女子、ペア・スケーティング、アイス・ダンス）につき最大3名／組、参加させることができる。
 - c) ISU世界選手権大会（2024～2025シーズン）のエントリー数
 - i. 特別クラブを除くISUメンバーは、それぞれ、以下の第4項および第5項で述べられている要件を満たしている競技者を、各競技種目（男子、女子、ペア・スケーティング、アイス・ダンス）につき少なくとも1名／組、参加させることができる。
 - ii. 上記以外のエントリーは、第3項の定めによる。

3. ISU選手権大会への追加（1を超える）エントリーの決定方法

a) 各選手権大会／種目におけるISUメンバーごとのエントリー枠

メンバー別のエントリー枠を決定するため、直近のシーズンの同じ選手権大会の該当する種目（男子、女子、ペア・スケートティング、アイス・ダンス）に参加していたISUメンバーは、この直近シーズンの選手権大会に参加した競技者の順位を合計して得られるポイントを獲得する。競技者は、最初の抽選に参加した時点で競技に参加したとみなされる。

ショート・プログラム／リズム・ダンスに参加したがフリー・スケートティング／フリー・ダンスの出場権を得られなかった競技者は、シングルでは18ポイントを、ペア／アイス・ダンス・カップルではショート・プログラム／リズム・ダンスの順位に等しいポイントを得る（この順位が18位より低い場合には18ポイントを得る）。フリー・スケートティング／フリー・ダンスに出場したが、最終成績で16位以下だった競技者（組）は16ポイントを得る（途中棄権した場合で、以下の条文に特に規定していない場合、もしも参加した競技者の数が16名よりも少なかったときには、競技者（組）数と同じポイントを得る）。

2024～2025シーズン以降のISU世界選手権大会において、予選ラウンドに出場したが選手権ラウンド（ショート・プログラム／リズム・ダンス）に勝ち残れなかった選手はポイントが与えられず、以下のb)項に定める競技者選出の対象にならない。

しかしながら、競技者（組）の棄権理由が、

- （ISUメディカル・アドバイザーが認める）病気あるいは怪我による棄権
- （レフェリーが認める）ウォームアップまたは演技中の予期せぬ用具の損傷による棄権

であり、フリー・スケートティング／フリー・ダンスの演技を滑走していないか、完了していない場合で、ショート・プログラム／リズム・ダンスで上位10位以内の成績だった場合、その競技者（組）は、本条でいう参加した選手とはみなされない。

選手権大会の1種目に3名の選手を参加させたISUメンバーについては、上位2名のみをポイントの対象とする。

- b) ISUメンバーが選手権大会の開催地に送ることができる競技種目（男子、女子、ペア、アイス・ダンス）別の競技者（組）数（メンバー別エントリー枠）は、下記の表によって決定する。

前年の選手権大会に参加しポイントの対象となる人数	今シーズンの選手権大会に3名参加させるために必要となるポイント	今シーズンの選手権大会に2名参加させるために必要となるポイント
2名 1名	13ポイント以下 2ポイント以下	28ポイント以下 10ポイント以下

4. 総要素点および合計総要素点のミニマムポイント

ISU選手権ヘントリーおよび参加するスケーター／ペア／カップルは、当該シーズンまたは前年シーズンに（組織規程第39条第7項および一般規程第107条第1～10項に従う）ISU公認の国際競技会において、ショート・プログラム／リズム・ダンスおよびフリー・スケATING／フリー・ダンス（個別に）の総要素点がミニマムポイントに達していなければならないし、2024～2025シーズン以降は、合計総要素点（ショート・プログラム／リズム・ダンスおよびフリー・スケATING／フリー・ダンスの合計）がミニマムポイントに達していなければならない。

要素点は、ISU欧州選手権大会／四大陸選手権大会、ISU世界選手権大会に参加する場合には第39条第7項および第107条第1項～第10項に記されたシニアカテゴリーの競技会で獲得した要素点、ISU世界ジュニア選手権大会の場合には同ジュニアカテゴリーの競技会で獲得した要素点とする。

総要素点のミニマムポイントおよび2024～2025シーズン以降は合計総要素点のミニマムポイントは、当該技術委員会およびスポーツ技術局員の共同提案にもとづいてISU理事会が決定し、毎年、8月1日より前にISUコミュニケーションに発表する。

5. ISU世界選手権大会（2024～2025シーズン以降）

a) 総則

- i. 世界選手権大会は、予選ラウンドと選手権ラウンドを同一会場で行う。予選ラウンドはフリー・スケATING／フリー・ダンスのみとする。選手権ラウンドはショート・プログラム／リズム・ダンスと最終のフリー・スケATING／フリー・ダンスとする。

- ii. 各競技種目の参加者数の上限：世界選手権大会の参加選手は、女子54人、男子54人、ペア・スケートシング32組、アイス・ダンス40組を上限とする。世界選手権大会については、選手権ラウンドへの直接エントリーと予選ラウンドエントリーがある。

b) 直接エントリー

- i. 直接エントリーは、女子と男子は24人、ペア・スケートシングは16組、アイス・ダンスは20組で、本条第3項a)およびb)の定めにより選定する。
- ii. 選定は以下の手順で行う。まず、直前年のISU世界シニア選手権大会で2人または3人の出場権を得たISUメンバーをリストアップし、続けてその他のISUメンバーをリストアップする。そして、メンバーごとに、ISU世界選手権大会でもっとも上位だったスケーターに直接エントリー枠を与える。
- iii. 2人または3人の出場権を得たISUメンバーのみで、女子または男子の24人、ペア・スケートシングの16組、アイス・ダンスの20組という直接エントリー枠を超えてしまった場合、その全員が直接エントリーとなるように枠を拡大する。そして、その分、予選ラウンドからショート・プログラム／リズム・ダンスに進める枠を減らす。

c) 予選エントリー

- i. 予選ラウンドエントリー：予選ラウンドのエントリーは、女子30人、男子30人、ペア・スケートシング16組、アイス・ダンス20組を上限とする。
- ii. 選手権ラウンドのショート・プログラム／リズム・ダンスに直接エントリーできなかったISUメンバーは、競技種目（男子、女子、ペア・スケートシング、アイス・ダンス）ごとに1人／組をエントリーすることができる。ただし、エントリー期限において、予選ラウンドの合計技術的要素点によるISUメンバーランキングで男子・女子については上位30位以内、ペア・スケートシングについては上位16位以内、アイス・ダンスについては上位20位以内に入っていないなければならない。
- iii. 予選ラウンドにエントリーする選手は、合計総要素点が第4項に概要を記すミニマムポイントに達していなければならない。

- iv. エントリー期限における予選ラウンド合計総要素点ランキングにリストアップされるISUメンバーの数が、男子・女子について30未満、ペア・スケートティングについて16未満、アイス・ダンスについて20未満であった場合、その分、予選ラウンドのエントリー枠は満たされないままとする。
- d) 予選ラウンドから選手権ラウンドのショート・プログラム／リズム・ダンスに進む数
- i. 予選ラウンドから選手権ラウンドのショート・プログラム／リズム・ダンスに進む数は、女子12人、男子12人、ペア8組、アイス・ダンス10組とする。
- ii. 第5項b) (iii) が適用された場合、予選ラウンドからショート・プログラム／リズム・ダンスへ進める人数は、その分、減ずることになる。
- iii. 直接エントリー枠が余った場合、使われなかった数だけ予選ラウンドから選手権ラウンドのショート・プログラム／リズム・ダンスに進む数を増やすものとする。
- iv. 予選ラウンドのエントリー数が選手権ラウンドのショート・プログラム／リズム・ダンスに進める数よりわずかに1～2しか大きくない場合、会長は、フィギュア・スケートティング担当ISU副会長、ISU代表、ISUイベント・コーディネーター（フィギュア・スケート担当）と協議の上、当該競技種目の予選ラウンドをキャンセルし、ショート・プログラム／リズム・ダンスのエントリー数を1～2、増やせるものとする。
- v. 予選ラウンドで得たスコア（ポイント）は選手権ラウンドで考慮されない。
- e) 選手権ラウンドにおけるショート・プログラム／リズム・ダンスからフリー・スケートティング／フリー・ダンスへの進出
ショート・プログラム／リズム・ダンスから最終のフリー・スケートティング／フリー・ダンスに進めるのは、女子24人、男子24人、ペア・スケートティング16組、アイス・ダンス20組とする。
6. ISU選手権大会において、各ISUメンバーは、競技種目ごとに、1エントリーあたり1補欠を登録することができる。補欠は、最初の抽選が始まる少なくとも1時間前までに、所属ISUメンバーが、当該種目に最初に申し込んでいた競技者の名前を取り消した場合にのみ競技することができる。

第379条

曲名

ショート・プログラム／リズム・ダンスおよびフリー・スケーティング／フリー・ダンスの曲名と作曲者名は、ISU選手権大会への参加申込み時に提出しなければならない。可能な場合には、これらも大会プログラムに印刷する。

第380条（予備）

第381条

ISUイベント・マネージャーおよび リージョナル・アシスタント・イベント・マネージャー

1. フィギュア・スケーティング担当のイベント・マネージャー、アシスタント・イベント・マネージャー、リージョナル・アシスタント・イベント・マネージャー（RAEM）

ISU理事会は、組織規程第38条に基づき、フィギュア・スケーティング担当のISUイベント・マネージャー1人、および、必要に応じて可能な場合にはアシスタント・イベント・マネージャー1人を任命するとともに、リージョナル・アシスタント・イベント・マネージャーの代替候補を任命する。

2. ISUフィギュア・スケーティング選手権大会およびISUグランプリ・ファイナルの協議および視察訪問

各フィギュア・スケーティング選手権大会において、イベント・マネージャーおよび／またはアシスタント・イベント・マネージャーは、選手権大会／ファイナルが開催されるまでの2年間の間に、少なくとも1回、テレビ局および広告会社との打ち合わせを含む開催地における協議および視察訪問に参加する。

3. ISUフィギュア・スケーティング選手権大会の現地における監視

各フィギュア・スケーティング選手権大会およびグランプリ・ファイナルでは、イベント・マネージャーおよび／またはアシスタント・イベント・マネージャーに加えて1名もしくは2名のリージョナル・アシスタント・イベント・マネージャーが、選手権大会／ファイナルに参加する。このうち少なくとも1名は、選手権大会／ファイナルの公式練習の始めから立ち会わなければならない。緊急の場合を除いて別の役割の仕事をしてはならない。彼らは、選手権大会／ファイナルに関連して使用されるすべてのスケーティング施設およびサービスの利用についての状態、適否、スケジュールに関するすべての技術的事項においてISUを代表する。加えて、必要があれば、レフェリーと他の役員および主催者との間の連絡役を果たす。

各ISUイベント・コーディネーション・チームの構成（イベント・マネージャー、アシスタント・イベント・マネージャー、リージョナル・アシスタント・イベント・マネージャー）は、副会長が年間予算の形で提案し、ISU

理事会により決定される。

4. 他のISUフィギュア・スケーティング・イベントにおける監視および現地参加

他のISUフィギュア・スケーティング・イベントについては、必要に応じて副会長が年間予算に含めて提案し、ISU理事会の決定を受けた上で、ISUイベント・マネージャー・チームが監視を行い、また、場合によってはイベント現地に参加する。

第382条～第392条（予備）

第393条

シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンスにおける メダルの授与

1. シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンスのISU選手権大会におけるメダルの授与式は下記のとおり行なう。
 - a) 最終結果を算出後、最初に3位の競技者、次いで2位、そして最後に選手権者を発表し、氷上の表彰台に呼び出す。
 - b) ISUの代表者が、優勝者には金のISUメダル、2位の者には銀のISUメダル、3位の者には銅のISUメダルを授与する。レフェリー、テクニカル・コントローラー、大会組織ISUメンバーの代表者がメダル受賞者を祝福する（第134条第3項参照）。

第394条

メダル

選手権メダルは、大会を組織するISUメンバーがISU事務局長に発注する。

第395条（予備）

第396条

アイス・ショーの広告

ISU選手権大会においては、リンクの内外にも、有料、無料の別なくプログラムにもアイス・ショーの広告があってはならない。もしそのような広告があった場合、ISUイベント・マネージャーおよび／またはISU代表がただちに介入しなければならない。

第397条～第399条（予備）

C. オリンピック冬季大会

第400条

オリンピック冬季大会のエントリー

A. 競技者のエントリー

1. オリンピック冬季大会において女子および男子、ペア・スケーティング、アイス・ダンスに参加できる選手数の上限も、ショート・プログラムおよびリズム・ダンスから最終のフリー・スケーティングおよび最終のフリー・ダンスへ進出できる選手数の上限も、各オリンピック冬季大会に関するIOC参加資格システムに従う。なおIOC参加資格システムは、ISUと協議の上IOCが定める。
2. 直前年の世界シニア選手権大会に参加したISUメンバーは、第378条第3項に定められたポイントを持つ。
3. シングル種目の女子および男子では24名、ペアでは16組、アイス・ダンスでは19組の参加者が上記第2項に概略を示した方法で決定される。第378条第3項に定められた必要ポイントを獲得したISUメンバーは、これに加え、オリンピック冬季大会直前の世界シニア選手権大会において、それぞれ2名／組あるいは3名／組がフリー・スケーティング／フリー・ダンスに進出していた場合、それぞれ2名／組あるいは3名／組の出場権を獲得する。本第3項において残るエントリーは、オリンピック冬季大会直前の世界シニア選手権大会においてフリー・スケーティング／フリー・ダンスに進出し、上位となったISUメンバーに与えられる。
4. 残る参加者枠は、オリンピック冬季大会の直前暦年の秋に実施されるISU指定のシニア国際競技会の順位に従ってISUメンバーに与えられる。このオープン・エントリー枠は、以下のメンバーにのみ与えられる。

- a) 出場権をこれまでに獲得したことのないISUメンバー。このようなISUメンバーごとに1名／組ずつ与えられる。
 - b) 2名／組あるいは3名／組のエントリーに必要なポイントは獲得したが、オリンピック冬季大会直前の世界シニア選手権大会において、フリー・スケーティング／フリー・ダンスに進出したスケーターがそれぞれ2名／組あるいは3名／組に満たなかったISUメンバー。このようなISUメンバーは、スケーター1名を予選にエントリーすることができる。ただし、当該スケーターは、オリンピック冬季大会直前の世界シニア選手権大会においてフリー・スケーティング／フリー・ダンスに進出したスケーターであってはならない。
- 5. オリンピック冬季大会へエントリーおよび参加するには、スケーター／ペア／カップルは、当該シーズンまたは前年シーズンに（組織規程第39条第7項および一般規程第107条第1項～第9項に従う）ISU公認の国際競技会において、ヨーロッパおよび四大大陸のISU選手権大会のために定めた総要素点のミニマムポイントに達していなければならない（第378条第4項を参照）。
 - 6. ただし、通常の手続きによる参加資格選定を行い、上述の第3項あるいは第4項によって主催ISUメンバーが参加資格を得られない競技種目（女子、男子、ペア・スケーティング、アイス・ダンス）があった場合、申し込むスケーター／ペア／カップルがオリンピック冬季大会出場に必要な総要素点のミニマムポイントを持つことを条件に、その主催ISUメンバーに対し、当該競技種目ごとに1名／組の参加を追加で申し込める権利が与えられる。
 - 7. 上記第2項および第3項の手順によって出場権を得たISUメンバーは、もし可能であれば、その世界シニア選手権大会後の9月15日までにISU事務局に、出場権のすべてを行使する予定であるか否かを通知しなければならない。出場権のすべてあるいは一部を行使する予定のないISUメンバーがあった場合、シングル・スケーティングについては24名、ペア・スケーティングについては16組、アイス・ダンスについては19組までの残りの出場枠は、上記第4項による出場権を増加させて満たす。
 - 8. IOCが定める期日内に第3項から第5項の資格による参加の意志を公表する権利を行使しなかったISUメンバーがあった場合、指定のシニア国際競技会（第4項）の最終結果に基づき、出場枠をまだ得ていないISUメンバーに予備エントリーを割り当てる。
 - 9. 正および予備のエントリー・リストは、当該ISUシニア世界選手権大会およびオリンピック予選競技会の後、10月30日までにISUコミュニケーションで公表する。

B. チーム・イベントのエントリー

オリンピック冬季大会のプログラムにおいて、現在実施されているイベントに加えてシングル&ペア・スケートティングおよびアイス・ダンスを伴うチーム・イベントがIOCにより採用された場合には、理事会が、IOCと協議の上、すべての関係する条件（チームおよび参加者の数、予選／参加／申し込み基準、技術形式、滑走順、結果の決定方法、役員参加、およびその他関連する技術的、組織に関する詳細）を決定する。

第401条 オリンピック冬季大会の役員の任命

1. オリンピック冬季大会およびオリンピック冬季大会の予選競技会におけるフィギュア・スケートティング競技のためのレフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、アシスタント・テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーターおよびOACメンバーは、第121条および第126条第9項に従って指名する。
2. オリンピック冬季大会を開催する国のISUメンバーはISU役員を兼務する者を含めてレフェリー／テクニカル・コントローラー／テクニカル・スペシャリストを、シングルおよびペア・スケートティングでは2名まで、またアイス・ダンスでは1名を推薦することができる。この推薦はオリンピック冬季大会前年の4月1日には担当スポーツ技術局員に提出されていなければならない。
3. 組織委員会は、指名されたレフェリー、テクニカル・コントローラー、（両）テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーター、OACメンバーが大会開始90日以前に連絡を受け取るように手配しなければならない。
4. 本条第1項によって指名された役員の名前は、ISUから関係するISUメンバーおよびナショナル・オリンピック組織委員会へ通知しなければならない。

第402条 オリンピック冬季大会のジャッジ団

1. オリンピック冬季大会のシングル&ペア・スケートティングならびにアイス・ダンス競技においては以下のとおりとする。
 - a) ジャッジ団は競技部分ごとに9名構成とする。種目ごとに、前年の世界選手権大会における当該種目の結果によってオリンピック冬季大会への参加資格を得たスケーターを有するISUメンバーから13名のジャッジを選出する（追加変更なし）。
 - b) 選出されたジャッジは、全員がオリンピック冬季大会の開催地に入り、現地において、以下のf) 項に定める方法でレフェリーが抽選を行い、各種目の各競技部分を担当する9名のジャッジ団を決定する。
 - c) 上記a)項の手順では、いずれかの種目において、最初の競技部分を担当するジャッジ団の9名に加え第2競技部分を担当する4名の追加ジャッジを選出するにはISUメンバー数が不足する場合、オリンピック冬季大会予選競技会の結果によって当該種目への参加資格を獲得したスケーター／カップルを有するISUメンバーから、オリンピック冬季大会にジャッジを派遣できる追加ISUメンバーを選出する。
 - d) 上記a)項およびc)項の手順では、いずれかの種目において、最初の競技部分を担当するジャッジ・パネルの9名に加え第2競技部分を担当する4名の追加ジャッジを選出するにはISUメンバー数が不足する場合、残りのISUメンバー（上記a)項およびc)項によって抽選に含まれることとなったISUメンバー以外）のうち、前年の世界選手権大会の各競技にスケーター／カップルが参加したISUメンバーから、オリンピック冬季大会にジャッジを派遣できる追加ISUメンバーを選出する。
 - e) オリンピック冬季大会の前のヨーロッパ選手権大会を開始する時点においてオリンピック冬季大会のいずれかの種目で最初の競技部分を担当するジャッジ団の9名に加え第2競技部分を担当する4名の追加ジャッジを選出するには任命されたジャッジ数が不足する場合、追加の抽選が必要となる。このようなジャッジ数不足が起きる原因としては、上記のa)、c)、d)項にある抽選の結果であるか、および／または、上記のa)、c)、d)項によりジャッジ枠に選出されたISUメンバーが結果としてジャッジを指名できなかったか、ヨーロッパ選手権大会の開始前に指名したジャッジを取り下げたかが考えられる。最初の競技部分を担当するジャッジ団の9名に加え第2競技部分を担当する4名の追加ジャッジを選出するために必要となるジャッジは、種目ごとに、すでにオリンピック冬季大会の他の種目において選出されてジャッジを指名しており、かつ、当該種目を2つ目の競技として務める意思があり、当該種目ではまだジャッジには選ばれていないISUメンバーの中から選出する。追加の抽選には関係する指名ジャッジの特定が必要であり、必要があればオリンピック冬季大会の前のヨーロッパ選手権大会の期間中に行う。

- f) 9名からなるジャッジ団を構成するため、オリンピック冬季大会の現地においてこの種目に選出されたすべてのジャッジの立会いのもと、当該種目の各競技部分の開始45分前にレフェリーが公開無作為抽選を行う。種目の最初の競技部分では、当該種目に選出されている13名のジャッジの中から9名のジャッジを選出する。ジャッジの席順は選出順とする。種目の第2競技部分では、最初の競技部分において選出されなかった4名のジャッジを第2競技部分の9名のジャッジ団へ自動的に割り当て、同時に、第1競技部分を担当した他のジャッジで抽選を行い、全体で9名からなるジャッジ団とする。この9名のジャッジについては、別個に抽選を行って席順を決定する。
- g) 担当競技部分が滑られている途中、ジャッジ団を構成するジャッジが1人、採点不能となった場合、予備ジャッジ（オルタネイト・ジャッジ）による代替は行わない。
- h) 基本抽選は、オリンピック冬季大会の予選競技会後に予選競技会の現地において行う。上記e)項にある追加の抽選は、必要であれば、オリンピック冬季大会の前のヨーロッパ選手権大会の現地において行う。これらの抽選結果はISUコミュニケーションで発表する。
- i) ジャッジに選出されたISUメンバーのスケーター／カップルがオリンピック冬季大会に参加しない場合でも、そのISUメンバーの選出されたジャッジはジャッジ団に含まれたままとする。
- j) オリンピック冬季大会およびオリンピック冬季大会のISU予選競技会のジャッジ団は、各部門において現行リストに登録されているISUレフェリーまたはISUジャッジのみで構成する。ジャッジ抽選に参加できるISUメンバーは、抽選前にISU選手権大会／オリンピック予選競技会でジャッジを務めた経験が2回以上あることと、当該部門のISU有資格ジャッジを有していることが条件である。そのようなジャッジのみが、オリンピック冬季大会に推薦される資格を持つ。さらに、ISU選手権大会におけるペア・スケーティングのジャッジ実績がないジャッジは、オリンピック冬季大会の抽選に先立つ48カ月の間に国際競技会とISUイベント、両方でペア・スケーティングのジャッジ職務を適切に果たした実績がないかぎり、ペア・スケーティングのジャッジを務めることができない。

2. 選出されたISUメンバーによる、ジャッジおよびサブスティテュート・ジャッジの指名に対しては、ISU一般規程、第138条第1項c)が適用される。
3. ISUメンバーから指名されたジャッジの名前は、抽選結果の公開後10日以内に以下へ通知しなければならない。
 - a) 自国のオリンピック委員会
 - b) オリンピック冬季大会フィギュア・スケーティング競技会の開催ISUメンバー
 - c) ISU事務局長
 - d) 担当スポーツ技術局員
4. オリンピック冬季大会におけるスケート・イベントの組織委員会は、レフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーター、ジャッジに適切な宿泊設備を提供する責任がある。

第403条 オリンピック冬季大会における抽選

抽選は、すべて、ISU選手権大会の規定にのっとり行う。ただし、各競技種目のショート・プログラム／リズム・ダンスについては、2日早く抽選を行うものとする。

第404条～第409条（予備）

シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンスの 役員に関する規程

A. 役員の推薦と任命

第410条 役員の推薦および任命の手続き

1. 一般規程第121条および第122条に従い、各ISUメンバーは、毎年4月15日以前に、推薦する個人の名前をISU事務局長に下記のとおり推薦する。
 - a) 国際レフェリーになるためのISUセミナーおよびISU試験を受ける者、および初めて任命される者
 - b) ISUレフェリーになるためのISUセミナーおよびISU試験を受ける者、および初めて任命される者
 - c) 国際ジャッジになるためのISUセミナーおよびISU試験を受ける者、および初めて任命される者
 - d) ISUジャッジになるためのISU試験を受ける者、および初めて任命される者
 - e) 国際テクニカル・コントローラーになるためのISUセミナーおよびISU試験を受ける者、および初めて任命される者
 - f) ISUテクニカル・コントローラーになるためのISUセミナーおよびISU試験を受ける者、および初めて任命される者
 - g) 国際テクニカル・スペシャリストになるためのISUセミナーおよびISU試験を受ける者、および初めて任命される者
 - h) ISUテクニカル・スペシャリストになるためのISUセミナーおよびISU試験を受ける者、および初めて任命される者
 - i) ISUまたは国際データ&リプレイ・オペレーターになるためのISUセミナーおよびISU試験を受ける者、および初めて任命される者
2. 推薦は次のように資格ごと、競技種目ごとに分けて提出し、ISUによる任命を受けなければならない。
 - a) レフェリーおよびジャッジ
 - シングル&ペア・スケーティング
 - アイス・ダンス
 - b) テクニカル・コントローラーおよびテクニカル・スペシャリスト
 - シングル・スケーティング
 - ペア・スケーティング
 - アイス・ダンス
 - c) データ&リプレイ・オペレーター
 - 全競技種目

3. 役員の推薦に際し、ISUメンバーは、役員の競技種目および資格について必要事項を記載した公式書類を添付しなければならない。
4. 第411条～第417条に従い、ISUメンバーは申し込む役職の資格条件に対し推薦する者の資格を確認しなければならない。
5. ISU試験、初任命、再任命に必要な国内活動について、ISUメンバーは大会のパネル・リストやISUメンバーまたはレフェリーのコメント等、各個の活動を裏付ける書類をISUメンバーの推薦と一緒に提出しなければならない。
6. 役員の推薦方法は以下のとおり。
 - a) 初回の任命：ISUメンバーから（テクニカル・スペシャリストおよびテクニカル・コントローラーは技術委員会／スポーツ技術局員からでもよい）。
 - b) 国際資格役員の継続任命：当該技術委員会から。ただし、一般規程第122条によりISUメンバーから通知があった場合を除く。
 - c) ISU資格役員の継続任命：当該技術委員会から。ただし、一般規程第122条によりISUメンバーから通知される場合を除く。
7. ISUメンバーのリストに対する登録の推薦を受ける役員は、原則として、推薦するISUメンバーの国の市民権を有していなければならない。
8. ISUメンバーのリストに対する登録の推薦を受ける役員が推薦するISUメンバーの国の市民権を有していない場合、当該役員は、その者を推薦するISUメンバーの国内に、推薦に先立って少なくとも12カ月間定住していなければならない。加えて、当該役員が市民権を有する国のISUメンバーから同意を得る必要がある。
9. a) すでにいずれかのISUメンバーのリストに記載されている役員が、別のISUメンバーのリストに対する登録の推薦を受けるには、以下の条件を満たさなければならない。
 - i) 当該役員が登録されるISUメンバーの国の市民権を取得しており、かつ永住地を持っていること、または
 - ii) 当該役員が二重の市民権を持ち、かつリストに登録されるISUメンバーの国に永住地を持っており、市民でもあること、
 - iii) 当該役員が以前に登録されていたリストのISUメンバーが同意していること。

- b) すでにいずれかのISUメンバーのリストに記載されている役員が、
- i) 永住地の国を変更することなく新たな市民権を取得した、または
 - ii) 二重の市民権を持ち、第2の市民権を有する国のISUメンバーのリストに登録されることに同意しているが永住地の国は変更しない、または
 - iii) 当該役員が以前に登録されていたリストのISUメンバーが同意しない

場合、当該役員は、当初登録されていたISUメンバーのリストに記載されていた年の4月15日から数えて12カ月を経過した後に初めて、別のISUメンバーのリストに対する登録の推薦を受けることが可能となる。

10. 本条第7項～9項の例外として、フィギュア・スケート担当副会長は、規程の全要件を満たすことを強く要求すると当該役員が個人的特殊事情によって窮状に陥るような場合、救済措置をとることができる。
11. 「市民権」および「永住」の解釈、またそれらを証明する文書に関しては理事会が発行する関連のISUコミュニケーションを参照されたい。
12. 候補者が役員になるためのISU試験の全部門に合格した場合には、直ちに役員に任命され、現在の当該ISUメンバーの役員の各リストに追加される。
13. 組織規程第20条第3項d)に従い、推薦された者の中から役員として任命するためには、最初に当該技術委員会の承認が必要であり、技術委員会は任命を推奨する者のリストを作成し、それをフィギュア・スケート担当ISU副会長に提出する。推薦された者が技術委員会の承認リストに含まれていなかった場合、推薦したISUメンバーは、最終決定権を持つフィギュア・スケート担当ISU副会長に提訴できる。当該技術委員会およびISU副会長による最終的な承認を得られた者のみが役員として認められる。推薦された候補者がISUによって任命を拒絶された場合には、拒絶理由が推薦したISUメンバーに通知される。
14. フィギュア・スケート担当ISU副会長は、当該技術委員会に諮問のうえ、以下の役員を推薦なしで任命することができる。
 - レフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーター、それぞれ最大3名まで
 - ジャッジ最大6名まで

フィギュア・スケーティング担当ISU副会長によって加えられる者は、本条が規定する資格要件をすべて満たしていなければならない。

15. ISU役員は職務が同じ国際役員（第430条，概要b)）を務める資格を有するため，ISU役員の名前は国際役員のリストに記載しない。
16. ISUレフェリーはISUジャッジまたは国際ジャッジ（第430条，概要c)）を務める資格を有するため，ISUレフェリーの名前はISUジャッジおよび国際ジャッジのリストに記載しない。
17. 国際レフェリーは国際ジャッジ（第430条，概要d)）を務める資格を有するため，国際レフェリーの名前は国際ジャッジのリストに記載しない。
18. 当該技術委員会およびフィギュア・スケーティング担当ISU副会長によって承認された役員の全リストは，第122条に従い，ISUメンバーに通知する。任命は8月1日をもって発令とし，翌年の7月31日まで有効である。
19. ISUメンバーは役員リストを受取り次第，直ちにその内容を確認しなければならない。訂正要求は，いかなるものも，2カ月以内に行わなければならない。この期間が経過した後は，そのリストにはまちがいが無いものとみなされる。リストに対するISUメンバーからの異議は2カ月以内にフィギュア・スケーティング担当ISU副会長に提出されなければならない。ISU副会長は提出された異議を考慮した後，最終決定を下すものとする。

第411条

役員の推薦および任命の全般的事項

1. 各ISUメンバーは，レフェリー，テクニカル・コントローラー，ジャッジに推薦した者が第102条による有資格者であることを保証しなければならない。これに違反した場合，当該ISUメンバーは次年度の役員推薦権を失い，また当該レフェリー，テクニカル・コントローラー，ジャッジはリストから除かれる。
2. ISUメンバーは，能力があり，信頼でき，訓練され，試験され，公平で，資格に相応しいISU規程の深い知識がある役員のみを推薦するように最大限の注意を払わなければならない。役員として推薦される者は，資格に伴う職務に相応しい実用レベルの英語知識を持っていなければならない。
3. 役員（第412条～第417条を参照）の推薦と任命に必要な個別要件として考慮される活動およびセミナー参加は，特に明記されていないかぎり，当該部門のものに限る。

4. 初回の任命では、推薦に先立つ活動要件を満たさなければならない期間において、当該役員の資格に必要な国際活動（必要な場合）および国内活動（必要な場合）が満足すべき活動であると、
 - 国際活動については当該技術委員会から
 - 国内活動については（役員がISUメンバーから推薦される場合）当該ISUメンバーから認められなければならない。
5. レフェリーおよびジャッジの再任命では、推薦はされていたが抽選に外れたために活動要件を満たせなかったからといって再任命不適格となることはない。
6.
 - a) いずれのISU役員も、当該資格の再任命に必要な活動および／またはセミナー／ウェビナー／オンライン学習モジュール参加の要件を7月31日以前に満たしていない場合、当該資格の国際役員に移される。以前保持していた地位に復帰するためには、翌年7月31日までに欠格となった事由を解消しなければならない。その時点までにこの要件が満たされなかった場合でも、国際役員の資格に対する要件が満たされているかぎり、国際役員のリストにはとどまることができる。
 - b) いずれの国際役員も、再任命に必要な活動および／またはセミナー／ウェビナー／オンライン学習モジュール参加の要件を7月31日以前に満たしていない場合、国際役員のリストから削除される。以前保持していた地位に復帰するためには、翌年7月31日までに欠格となった事由を解消しなければならない。この要件が満たされない場合、当該役員は再び初任命の要件を満たした上で規定に従い推薦されなければならない。
 - c) ただし、セミナー／ウェビナー／オンライン学習モジュール参加要件を満たせなかった理由が病気によると診断書で確認された場合、1年間にかぎり、上記a)およびb)項で規定された処置は取られない。
7. 不行状による停職後の役員復帰
 - a) 不行状を理由に規律委員会が役員を停職にした場合、停職の効果は、当該役員が有資格であるISU／国際の資格・競技種目のすべてに及ぶ。
 - b) 不行状を理由に規律委員会から一定期間の停職とされた役員は、以下のように、当該期間の終了とともに復職する。ただし、当該役員を擁するISUメンバーから別段の要請が出された場合は別である。

- (i) 不行状による停職が36カ月までの場合、当該役職の資格要件となる年齢や活動、セミナー出席の条件を復職前の7月31日時点で満たしていれば、当該役員は、元の役職に復職となる。停職期間中の国内競技会における活動は考慮の対象としない。これらの要件が満たされない（満たすことができなかった）場合、上記第6項の規定が適用される。
- (ii) 不行状により36カ月を超えて停職となった役員が復職するためには、国際役員としての初任命に必要な要件を満たした上で規定に従い推薦されなければならない。

8. ISU試験：

- a) ISU役員試験の合格基準はISUコミュニケーションで公表する。
- b) 役員となるためのISU試験は、それぞれについて、1人の候補者が3回を超えて受験することができない。2回目に不合格となった場合、2回目の受験から3回目の受験まで、少なくとも24カ月の間隔をあげなければならない。

9. 定義：第412条から416条においては以下のとおりとする。

- a) 国内競技会：シニアまたはジュニアのナショナル、地域、地区の選手権大会または競技会を意味する。アドバンスト・ノービスのナショナル、地域、地区の選手権大会または競技会も国際ジャッジ、国際テクニカル・スペシャリスト、国際テクニカル・コントローラー（アイス・ダンスのみ）の初任命に要する活動として考慮される。
- b) 国際競技会：ISUイベント、オリンピック冬季大会、または第107条第6項、第9項または第10項に従うその他の国際シニアまたはジュニア競技会で、活動要件としてみなされる競技部分に3組織以上のISUメンバーが参加しているとともに、以下の条件が満たされるもの。
 - シングル・スケーティングではエントリーが6名以上
 - ペア・スケーティングおよびアイス・ダンスではエントリーが4組以上

エントリー数とISUメンバー数が前述の最小値を上回り、かつ、第107条第11項に従って開催された国際アドバンスト・ノービス競技会への参加は、アイス・ダンスについてのみ、再任命に必要な活動として考慮される。

オープン国際競技会（第107条第14項）は活動要件として考慮されない。

- c) ジャッジング活動としてのトライアル・ジャッジング：抽選に外れたISUジャッジが行うISU選手権大会の競技部分におけるジャッジングを意味する。ただし、トライアル・ジャッジの監督者がトライアルに関する活動報告を当該技術委員会に提出しなければならない。
- d) 活動要件として考慮される国内競技会または国際競技会の数は、異なる競技会の数である。1つの競技会の異なるカテゴリー／競技種目は、異なる競技会とみなさない。

第412条

レフェリーの推薦および任命にかかわる個別要件

1. 国際レフェリーとして初めて任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
 - a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 経歴：
 - i) 推薦される直前の連続した3年間、ISUコミュニケーションの役員リストに国際ジャッジとして含まれていること。
 - ii) 当該競技種目について最高度の知識を有していること。
 - iii) 高いコミュニケーション・スキルを有していること。
 - iv) チーム環境で指示を受けて働けること。
 - c) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ36カ月間に以下の活動をしていること。
 - i) レフェリーとして、2つの国内競技会（第411条第9項a））。
 - ii) ジャッジとして（またはテクニカル・コントローラー（技術委員会委員のみ）として）：
 - 3つの国際競技会（第411条第9項b））。
 - d) セミナー参加：
 - i) 推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ48カ月間に、ISUジャッジセミナー（第417条第1項参照）を完了していること。
 - ii) 国際レフェリーに初めて任命される者のためのISUセミナー（第417条参照）を完了すること。
 - e) 試験：国際レフェリーになるためのISU試験に合格すること。

2. 国際レフェリーとして再任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ36カ月間に、レフェリー、ジャッジ、トライアル・ジャッジ、テクニカル・コントローラーのいずれかとして1回、国際競技会（第411条第9項b））で活動していること。
 - c) セミナー参加：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間に、ジャッジに初めて任命される者もしくは再任命される者のためのISUセミナーまたは国際レフェリーに初めて任命される者もしくは再任命される者のためのISUセミナー（第417条）を完了していること。国際レフェリー再任命のためのISUセミナーは、当該技術委員会が組織・管理するウェビナーであってもよい。
 - d) 活動要件および／またはセミナー参加要件を満たさなかった場合については、第411条第6項を参照のこと。
3. ISUレフェリーとして初めて任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 経歴：
 - i) 推薦される前の4年間、ISUコミュニケーションの役員リスト（第122条第2項）にISUジャッジおよび国際レフェリーとして含まれていること。
 - ii) 当該競技種目について最高度の知識を有していること。
 - iii) 高いコミュニケーション・スキルを有していること。
 - iv) チーム環境で指示を受けて働けること。
 - c) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ48カ月間に以下の活動をしていること。
 - i) レフェリーとして、2つ以上の異なる国際競技会（第411条第9項b））で活動していること。
 - ii) ジャッジとして（またはテクニカル・コントローラー（技術委員会委員のみ）として）、少なくとも3つのISUイベントまたはオリンピック冬季大会（そのうち少なくとも2つは、ISU選手権大会またはオリンピック冬季大会でなければならない）において活動していること。
 - d) セミナー参加：
 - i) 推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ48カ月間に、ISUジャッジセミナー（第417条第1項参照）を完了していること。
 - ii) ISUレフェリーに初めて任命される者のためのISUセミナー（第417条）を完了すること。
 - e) 試験：ISUレフェリーになるためのISU試験に合格すること。

4. ISUレフェリーとして再任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ36カ月間に、レフェリー、ジャッジ、トライアル・ジャッジ、テクニカル・コントローラーのいずれかとして少なくとも1回、国際競技会（第411条第9項b)）で活動していること。
 - c) セミナー参加：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間に、ジャッジに初めて任命される者もしくは再任命される者のためのISUセミナーまたはISUレフェリーに初めて任命される者もしくは再任命される者のためのISUセミナー（第417条）を完了していること。ISUレフェリー再任命のためのISUセミナーは、当該技術委員会が組織・管理するウェビナーであってもよい。
 - d) 活動要件および／またはセミナー参加要件を満たさなかった場合には、第411条第6項を参照のこと。

第413条

ジャッジの推薦および任命にかかわる個別要件

1. 国際ジャッジとして初めて任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に24歳に達しなければならず、60歳に達してはならない。
 - b) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ36カ月間にジャッジとして以下の活動をしていること。
 - シングル&ペア・スケーティングでは、3つ以上の国内競技会（第411条第9項a)）において活動すること。
 - アイス・ダンスでは、2つ以上の国内競技会（第411条第9項a)）において活動すること。
 - c) セミナー参加：国際ジャッジに初めて任命される者のためのISUセミナー（第417条）を完了すること。
 - d) 試験：国際ジャッジになるためのISU試験の筆記部分および実技部分に合格すること。

2. 国際ジャッジとして再任命されるためには、役員は次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ36カ月間に、レフェリー、ジャッジ、テクニカル・コントローラーのいずれかとして1回、国際競技会（第411条第9項b））で活動していること。
 - c) セミナー参加：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間に、国際ジャッジに初めて任命される者または再任命される者のためのISUセミナー（第417条）を完了していること。国際ジャッジ再任命のためのISUセミナーは、当該技術委員会が組織・管理するウェビナーであってもよい。
 - d) 活動要件および／またはセミナー参加要件を満たさなかった場合については、第411条第6項を参照のこと。
3. ISUジャッジとして初めて任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 経歴：推薦される直前の連続した4年間、ISUコミュニケーションの役員（第122条第2項）に国際ジャッジとして含まれていること。
 - c) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ36カ月間に、ジャッジとして以下の活動をしていること。
 - シングル&ペア・スケーティングでは、4つ以上の国際競技会（第411条第9項b））で活動していること（シニア競技会とジュニア競技会が含まれていなければならない、また、ペア競技会とISUイベントが含まれていなければならない）。このISUイベントは、推薦に先立つ過去12カ月間に行われたものでなければならない。
ペア・スケーティングのジャッジ活動が不十分な役員は、推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ36カ月間に、ペア・スケーティングのジャッジに特化したISUセミナーに参加していなければならない。
 - アイス・ダンスでは、3つ以上の国際競技会（第411条第9項b））で活動していること（シニア競技会とジュニア競技会が含まれていなければならない、また、ISUイベントが含まれていなければならない）。このISUイベントは、推薦に先立つ過去12カ月間に行われたものでなければならない。

- d) セミナー参加：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ48カ月間に、ISU ジャッジセミナー（第417条第1項参照）を完了していること。国際ジャッジの試験とともに開催されるセミナーは、この要件を満たすセミナーとして認められない。
 - e) 試験：ISUジャッジになるためのISU試験の筆記部分および実技部分に合格すること。
4. ISUジャッジとして再任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ36カ月間に、レフェリー、ジャッジ、トライアル・ジャッジ、テクニカル・コントローラーのいずれかとして少なくとも1回、国際競技会（第411条第9項b）で活動していること。
 - c) セミナー参加：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間に、ISU ジャッジに初めて任命される者または再任命される者のためのISUセミナー（第417条）を完了していること。ISUジャッジ再任命のためのISUセミナーは、当該技術委員会が組織・管理するウェビナーであってもよい。
 - d) 活動要件および／またはセミナー参加要件を満たさなかった場合については、第411条第6項を参照のこと。

第414条

テクニカル・コントローラーの推薦および任命にかかわる個別要件

1. 国際テクニカル・コントローラーとして初めて任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 経歴：
 - i) 推薦される直前の連続した2年間、毎年ISUコミュニケーションの役員リストに国際ジャッジとして含まれていること。
 - ii) 当該競技種目の技術的側面について最高度の知識を有していること。
 - iii) 高いコミュニケーション・スキルを有していること。
 - iv) チーム環境で指示を受けて働けること。

- c) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間にテクニカル・コントローラーとして2つの国内競技会（第411条第9項a)）で活動していること。
 - d) セミナー参加：国際テクニカル・コントローラーに初めて任命される者のためのISUセミナー（第417条）を完了すること。
 - e) 試験：国際テクニカル・コントローラーになるためのISU試験に合格すること。
2. 国際テクニカル・コントローラーとして再任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間に、テクニカル・コントローラーとして2つの国際競技会（第411条第9項b)）または国内競技会（第411条第9項a)）で活動していること。ペア・スケーティングにおける活動はシングル・スケーティングにおける活動としても数える。シングル・スケーティングにおける活動はペア・スケーティングにおける活動としては数えない。
 - c) セミナー参加：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間に、国際テクニカル・コントローラーに初めて任命される者または再任命される者のためのISUセミナー（第417条）を完了していること。ペア・スケーティング・セミナーへの参加はシングル・スケーティング・セミナーへの参加としても数える。シングル・スケーティング・セミナーへの参加はペア・スケーティング・セミナーへの参加として数えない。国際テクニカル・コントローラー再任命のためのISUセミナーは、当該技術委員会が組織・管理するウェビナーであってもよい。
 - d) 活動要件および／またはセミナー参加要件を満たさなかった場合については、第411条第6項を参照のこと。
3. ISUテクニカル・コントローラーとして初めて任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 経歴：
 - i) 推薦される直前の連続した2年間、毎年ISUコミュニケーションの役員（第122条第2項）にISUレフェリーまたはISUジャッジとして含まれていること、あるいは、推薦される直前の連続した4年間、ISUコミュニケーションの役員にISUテクニカル・スペシャリストとして含まれていること。
 - ii) 推薦される前の4年間、ISUコミュニケーションの役員（第122条第2項）に国際テクニカル・コントローラーまたはISUテクニカル・スペシャリストとして含まれていること。

- iii) 当該競技種目の技術的側面について最高度の知識を有していること。
 - iv) 高いコミュニケーション・スキルを有していること。
 - v) チーム環境で指示を受けて働けること。
 - c) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ48カ月間にテクニカル・コントローラーとして国際競技会（第411条第9項b)）を含む3つ以上の競技会で活動していること、あるいは、ISUテクニカル・スペシャリストがISUテクニカル・コントローラーになる場合、推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ48カ月間にテクニカル・コントローラーとして2つ以上の国内競技会で活動していること。
 - d) セミナー参加：ISUテクニカル・コントローラーに初めて任命される者のためのISUセミナー（第417条）を完了すること。
 - e) 試験：
 - i) ISUテクニカル・コントローラーになるためのISU試験に合格すること、あるいは
 - ii) ISUテクニカル・コントローラーになるためのISUテクニカル・スペシャリスト向け実技ISU試験に合格すること。
4. ISUテクニカル・コントローラーとして再任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 活動：シングルおよびアイス・ダンスでは推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間に、ペア・スケートティングでは36カ月間に、テクニカル・コントローラーとして以下の活動をしていること。
 - 2つの国際競技会（第411条第9項b)），または、
 - 1つのISUフィギュア・スケート選手権大会または1つのグランプリ・イベントもしくはファイナル（シニアまたはジュニア）または1つのチャレンジャー・シリーズ（シニア）イベントおよび1つの国内競技会（第411条第9項.a)）
 ペア・スケートティングにおける活動はシングル・スケートティングにおける活動としても数える。ペア・スケートティングのレフェリー、ジャッジ、トライアル・ジャッジとしての活動またはペア・スケートティング・セミナーへの参加またはモデレーターとしての活動が追加されないかぎり、シングル・スケートティングにおける活動は、ペア・スケートティングにおける活動として数えない。
 - c) セミナー参加：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間に、ISUテクニカル・コントローラーあるいはISUテクニカル・スペシャリストに初めて任命される者または再任命される者のためのISUセミナー（第417条）を完了していること。 ペア・スケートティング・セミナーへの参加はシングル・スケートティング・セミナーへの参加としても数える。シングル・スケートティング・セミナーへの参加はペア・スケートティング・セミナーへの参加として数えない。 ISUテクニカル・コントローラー再任命のためのISUセミナーは、当該技術委員会が組織・管理

するウェビナーであってもよい。

- d) 活動要件および／またはセミナー参加要件を満たさなかった場合については、第411条第6項を参照のこと。

第415条

テクニカル・スペシャリストの推薦および任命にかかわる個別要件

1. 国際テクニカル・スペシャリストとして初めて任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
 - a) 年齢：推薦を受ける暦年に24歳に達しなければならず、70歳に達してはならない。
 - b) 経歴：
 - i) コーチ、元競技スケーター、ISU／国際ジャッジまたはレフェリーの中から採用される。
 - ii) 少なくとも毎週、現場で当該部門にかかわっていなければならない。
 - iii) 高いレベルのスケーター（最低でもナショナル・レベル）であったこと。
 - iv) 当該競技種目の技術的側面について最高度の知識を有していること。
 - v) 高いコミュニケーション・スキルを有していること。
 - vi) チーム環境で指示を受けて働けること。
 - c) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間にテクニカル・スペシャリストとして2つの国内競技会（第411条第9項a）で活動していること。
 - d) セミナー参加：国際テクニカル・スペシャリストに初めて任命される者のためのISUセミナー（第417条）を完了すること。
 - e) 試験：国際テクニカル・スペシャリストになるためのISU試験に合格すること。
 - f) 競技選手経歴を終えたあと、テクニカル・スペシャリストとして初めて推薦されるまで、少なくとも2シーズン待たなければならない。

2. 国際テクニカル・スペシャリストとして再任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間に、テクニカル・スペシャリストとして2つの国際競技会（第411条第9項b)）または国内競技会（第411条第9項a)）で活動していること。ペア・スケートティングにおける活動はシングル・スケートティングにおける活動としても数える。シングル・スケートティングにおける活動はペア・スケートティングにおける活動としては数えない。
 - c) セミナー参加：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間に、国際テクニカル・スペシャリストに初めて任命される者または再任命される者のためのISUセミナー（第417条）を完了していること。ペア・スケートティング・セミナーへの参加はシングル・スケートティング・セミナーへの参加としても数える。シングル・スケートティング・セミナーへの参加はペア・スケートティング・セミナーへの参加として数えない。国際テクニカル・スペシャリスト再任命のためのISUセミナーは、当該技術委員会が組織・管理するウェビナーであってもよい。
 - d) 活動要件および／またはセミナー参加要件を満たさなかった場合については、第411条第6項を参照のこと。
3. ISUテクニカル・スペシャリストとして初めて任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 経歴：
 - i) 推薦される前の4年間、ISUコミュニケーションの役員リスト（第122条第2項）に国際テクニカル・スペシャリストとして含まれていること。
 - ii) コーチ、元競技スケーター、ISU／国際ジャッジまたはレフェリーの中から採用される。
 - iii) 少なくとも毎週、現場で当該部門にかかわっていなければならない。
 - iv) 高いレベルのスケーター（最低でもナショナル・レベル）であったこと。
 - v) 当該競技種目の技術的側面について最高度の知識を有していること。
 - vi) 高いコミュニケーション・スキルを有していること。
 - vii) チーム環境で指示を受けて働けること。
 - c) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ48カ月間にテクニカル・スペシャリストとして国際競技会（第411条第9項b)）を含む3つ以上の競技会において活動していること。

- d) セミナー参加：ISUテクニカル・スペシャリストに初めて任命される者のためのISUセミナー（第417条）を完了すること。
 - e) 試験：ISUテクニカル・スペシャリストになるためのISU試験に合格すること。
4. ISUテクニカル・スペシャリストとして再任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間に、テクニカル・スペシャリストとして以下の活動をしていること。
 - 2つの国際競技会（第411条第9項b)），または、
 - 1つのISUフィギュア・スケート選手権大会または1つのグランプリ・イベントもしくはファイナル（シニアまたはジュニア）または1つのチャレンジャー・シリーズ（シニア）イベントおよび1つの国内競技会（第411条第9項a)）
 ペア・スケーティングにおける活動はシングル・スケーティングにおける活動としても数える。シングル・スケーティングにおける活動はペア・スケーティングにおける活動としては数えない。
 - c) セミナー参加：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間に、ISUテクニカル・スペシャリストに初めて任命される者または再任命される者のためのISUセミナー（第417条）を完了していること。ペア・スケーティング・セミナーへの参加はシングル・スケーティング・セミナーへの参加としても数える。シングル・スケーティング・セミナーへの参加はペア・スケーティング・セミナーへの参加として数えない。ISUテクニカル・スペシャリスト再任命のためのISUセミナーは、当該技術委員会が組織・管理するウェビナーであってもよい。
 - d) 活動要件および／またはセミナー参加要件を満たさなかった場合にについては、第411条第6項を参照のこと。

第416条

データ&リプレイ・オペレーターの推薦および任命にかかわる個別要件

1. 国際データ&リプレイ・オペレーターとして初めて任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
 - a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。

- b) 経歴：
 - i) コーチ、元競技スケーター、ISU／国際ジャッジまたはレフェリー、データ・オペレーションおよびビデオ・システムに関する優れた知識を持ったフィギュア・スケートに関わる人々の中から採用される。
 - ii) 当該競技種目の技術的側面に関する優れた知識を有していること。
 - iii) 高いコミュニケーション・スキルを有していること。
 - iv) チーム環境で指示を受けて働けること。
 - c) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間にナショナル・レベルでデータ・オペレーションおよびビデオ・システムの活動をしていること。
 - d) セミナー参加：データ&リプレイ・オペレーターのためのISUセミナー（第417条）を完了し、フィギュア・スケート担当ISU副会長から国際資格の推薦を受けること。
2. 国際データ&リプレイ・オペレーターとして再任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間に、データ&リプレイ・オペレーターとして2つの国際競技会（第411条第9項b)）または国内競技会（第411条第9項a)）で両資格の活動をしている。
どの競技部門における活動も数える。データ&リプレイ・オペレーターのためのISUセミナーにおけるモデレーターとしての活動は、両資格での活動として数える。
 - c) 活動要件および／またはセミナー参加要件を満たさなかった場合については、第411条第6項を参照のこと。
3. ISUデータ&リプレイ・オペレーターとして初めて任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 経歴：
 - i) コーチ、元競技スケーター、ISU／国際ジャッジまたはレフェリー、データ・オペレーションおよびビデオ・システムに関する優れた知識を持ったフィギュア・スケートに関わる人々の中から採用される。
 - ii) 当該競技種目の技術的側面に関する優れた知識を有していること。
 - iii) 高いコミュニケーション・スキルを有していること。

- iv) チーム環境で指示を受けて働けること。
 - c) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間にナショナル・レベルでデータ・オペレーションおよびビデオ・システムの活動をしていること。
 - d) セミナー参加：データ&リプレイ・オペレーターのためのISUセミナー（第417条）を完了し、フィギュア・スケーティング担当ISU副会長からISU資格の推薦を受けること。
4. 国際データ&リプレイ・オペレーターとして再任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない。
- a) 年齢：推薦を受ける暦年に70歳に達してはならない。
 - b) 活動：推薦を受ける暦年の7月31日に先立つ24カ月間に、データ&リプレイ・オペレーターとして以下の活動を両資格でしていること。
 - 2つの国際競技会（第411条第9項b)）、または、
 - 1つのISUイベントと1つの国内競技会（第411条第9項a)）どの競技部門における活動も数える。データ&リプレイ・オペレーターのためのISUセミナーにおけるモデレーターとしての活動は、両資格での活動として数える。
 - c) 活動要件および／またはセミナー参加要件を満たさなかった場合については、第411条第6項を参照のこと。

第417条

役員用ISUセミナー

1. ISUメンバーは単独または必要であれば他のISUメンバーと共同で、ISUジャッジの初任命、国際およびISUジャッジの再任命、国際およびISUレフェリーの再任命を目的としたISUセミナーの開催を申請し、組織することが求められる。そのようなISUセミナーの開催申請は、組織ISUメンバーからISU事務局長へ、当該技術委員会の委員長に送付するコピーを添えて1月1日までに行われなければならない。役員再任命のためのISUセミナーは、当該技術委員会が組織・管理するウェビナーであってもよい。
2. 役員用ISUセミナーの日程および場所、セミナーの目的、参加要件はISUコミュニケーションで発表する。

3. 役員がISUセミナーを完了するための申請は、以下のように行う。
 - a) 初任命のためのISUセミナーについては所属ISUメンバーから（テクニカル・スペシャリストは当該技術委員会またはスポーツ技術局員からでもよい）
 - b) ISU役員および国際役員の再任命のためのISUセミナー：所属ISUメンバーが申請する。オンライン学習モジュールの場合は役員本人が申請する。
4. テクニカル・コントローラーまたはテクニカル・スペシャリストになるためのISUセミナーおよび／またはテクニカル・コントローラーまたはテクニカル・スペシャリストになるためのISU試験に参加する役員の推薦については、最初に当該技術委員会の確認が必要であり、その後フィギュア・スケート担当ISU副会長に示して最終確認を受ける。
5. ISU選手権大会もしくはオリンピック冬季大会、または、レフェリー再任命のためのISUセミナーにおいてレフェリーとして活動したと認められるには、以下の条件を満たさなければならない。
 - 当該技術委員会の委員長あるいは委員とともにレフェリーとしてイニシャル・ジャッジズ・ミーティングを開催すること。
 - レフェリーとしてラウンド・テーブル・ディスカッションを開催すること。
 - 当該大会またはオリンピック冬季大会におけるレフェリーとしての活動が当該技術委員会によって認められると考えられること。
6. ISU選手権大会またはオリンピック冬季大会のイニシャル・ジャッジズ・ミーティング（レフェリーおよび当該技術委員会の委員長あるいは委員により行われる場合）およびラウンド・テーブル・ディスカッションは、ジャッジ再任命のためのISUセミナーとしてのみカウントされる（レフェリー再任命のためのISUセミナーとしてもレフェリーおよびジャッジの昇格のためのISUセミナーとしてもカウントされない）。
7. ISUグランプリ・ファイナル（ジュニアおよびシニアの一体開催）、ISU選手権大会、オリンピック冬季大会において当該種目のテクニカル・コントローラー（テクニカル・スペシャリスト）を務め、ミニセミナーが
 - イニシャル・テクニカル・パネル・ミーティング中、当該技術委員会の委員長あるいは委員および／またはスポーツ技術局員とともに執りおこなわれ、
 - 終了時、現地のスポーツ技術局員と協議の上で担当テクニカル・コントローラーが報告書を作成し、それをスポーツ技術局員の報告書に沿って提出した（第433条第2項参照）場合、担当した競技種目のテクニカル・コントローラー（テクニカル・スペシャリスト）として再任命されるためのISUセミナーとみなす。
8. レフェリー、ジャッジ、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリストとして役員用ISUセミナーにおいてモデレーター活動をした場合、当該資格の再任命を受けるためのセミナー出席要件を満たす。

第418条～第419条（予備）

B. 競技会役員の任命

第420条 国際競技会役員の任命（全般）

1. 第121条第2項に従い、国際競技会を開催するISUメンバーは役員を任命する権利を有する。例外は以下のとおり。
 - ISU選手権大会：第421条、521条を参照のこと。
 - 他のISUイベント：組織規定第16条第2項f) を参照のこと。
 - オリンピック冬季大会およびオリンピック冬季大会の予選競技会：第401条および第402条を参照のこと。
2. ISU会長による役員の任命は組織規定第16条第2項f) に従って行う。
3. 以下の役員が推奨される。
 - a) レフェリー
 - b) 最低5名、可能であれば最大9名で構成されるジャッジ団
 - c) テクニカル・コントローラー1名
 - d) テクニカル・スペシャリスト2名
 - e) データ・オペレーター1名
 - f) リプレイ・オペレーター1名
4. 国際競技会において実際に務めたレフェリー、テクニカル・コントローラー、（両）テクニカル・スペシャリスト、データ・オペレーター、リプレイ・オペレーターの名前は、指名されたが抽選に外れたジャッジの名前とともに、競技会終了後2週間以内に、組織ISUメンバーからISU事務局に通知されねばならない。
5. a) 全てのISUイベント、オリンピック冬季大会の予選競技会およびオリンピック冬季大会では、レフェリー、テクニカル・コントローラーおよびテクニカル・スペシャリストは同じISUメンバーから選んではならず、すべての所属はISUと称さなければならない。
b) 他のすべての国際競技会では、可能であれば、テクニカル・コントローラー、（両）テクニカル・スペシャリストは同じISUメンバーから選んではならず、すべての所属はISUと称さなければならない。酌量すべき状況であれば、例外として、ホストISUメンバーのナショナル・テクニカル・スペシャリスト1名あるいはナショナル・データ&リプレイ・オペレーター1名をテクニカル・スペシャリストあるいはデータ&リプレイ・オペレーター1名として用いることができる。この場合、その者は当該ISUメンバー代表のスペシャリストあるいはデータ&リプレイ・オペレーターと称さなければならない。

- c). 国際競技会の結果をISU選手権大会出場権の獲得、もしくは世界ランキングまたは世界ランキングの算出に使用するためには、以下の条件が満たされなければならない。
- i) テクニカル・コントローラーとテクニカル・スペシャリストが同一ISUメンバーから出ていないこと。
 - ii) ジャッジ団の構成が5人以上であること、また、ひとつのISUメンバーが過半数を占めるジャッジ団がないこと。
 - iii) 例外的な状況においては、ジャッジ5人以上という条件を満たすため、レフェリーの点数も含めて結果を出す。

第121条も参照のこと。

6. a) ベーシック・ノービス、インターミディエイト・ノービス、アドバンスト・ノービスの国際競技会における役員年齢の下限：ベーシック・ノービス、インターミディエイト・ノービス、アドバンスト・ノービスの国際競技会でナショナル役員を務めるには、21歳以上でなければならない。
- b) ベーシック・ノービス、インターミディエイト・ノービス、アドバンスト・ノービスの国際競技会における役員年齢の上限：ベーシック・ノービス、インターミディエイト・ノービス、アドバンスト・ノービスの国際競技会でナショナル役員を務めるには、75歳以下でなければならない。
7. 国際競技会の組織ISUメンバーは、ジャッジ団を構成するにあたって、参加ISUメンバーのできるだけ多数がジャッジ団にジャッジを確保できるよう配慮することが最も重要である。なお、いずれのジャッジ団においても過半数のジャッジを占めるISUメンバーがあってはならない。例外的に酌量すべき状況として、揃ったジャッジの人数がパネルを構成するには不足の場合、ISUジャッジング・システムの訓練を積んだホストISUメンバーのナショナル・ジャッジを1名起用してもよい。
8. シングルおよびペア・スケート競技も含む国際競技会におけるアイス・ダンスのジャッジ団を編成する場合、アイス・ダンス資格のみを持つジャッジをまず考慮しなければならない。
9. a) ISUグランプリ・ファイナル（シニアおよびジュニア）およびオリンピック冬季大会の予選競技会において、ジャッジ抽選は現地で行う。

- b) オリンピック冬季大会の予選競技会におけるパネルを構成する場合、可能であれば、競技会にスケーター／カップルをエントリーしているISUメンバーを優先する。

第421条

ISU選手権大会役員の任命（特別規程）

1. レフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、アシスタント・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーターおよびOACメンバーは、一般規程の第121条および第129条第4項に従って任命する。
2. 組織ISUメンバーは、ISU役員を兼務する者を含めて、レフェリー／テクニカル・コントローラー／テクニカル・スペシャリストをシングルおよびペア・スケATINGでは2名まで、またアイス・ダンスでは1名までを推薦することができる。この推薦は5月1日には担当スポーツ技術局員に提出されていなければならない。
3. 選任されたレフェリー、テクニカル・コントローラー、（両）テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーターおよびOACメンバーへの連絡は、選手権大会の開催日の少なくとも60日前に組織ISUメンバーから行わなければならない。
4. ISU選手権大会の組織委員会のメンバーは、当該選手権大会のレフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーター、OACメンバー、またはジャッジとして活動することができない。
5. ジャッジ団の構成には、第521条を適用する

第422条

オリンピック冬季大会の役員の任命（特別規程）

第401条と第402条を適用する。

第423条～第429条（予備）

C. 役員の義務および権限

第430条

全般および個別の義務および権限

概要

- a) 種々のISU公認イベントにおいて務めることができる役員の種別（「ISU」または「国際」）および関連する制約事項は、一般規程第121条に従う。
- b) 各部門（シングル&ペア・スケートティングまたはアイス・ダンス）のISU役員は、当該部門の同じ役割の国際役員を務める資格を自動的に有する。
- c) 各部門（シングル&ペア・スケートティングまたはアイス・ダンス）のISUレフェリーは、当該部門のISUジャッジまたは国際ジャッジを務める資格を自動的に有する。
- d) 各部門（シングル&ペア・スケートティングまたはアイス・ダンス）の国際レフェリーは、当該部門の国際ジャッジを務める資格を自動的に有する。
- e) 役員は、ISU倫理規程を完全に順守すること。
- f) 役員には以下のことが求められる。
 - 現行の一般規程、特別規程、技術規程、ISUコミュニケーションおよびマニュアル、ハンドブックおよび小冊子、ISUウェブサイトで発表される更新情報に記載された、自身の職務を遂行するために必要な全事項に各自精通していなければならない。
 - 職務の遂行に十分な視力、聴力および一般的な身体条件を備えていなければならない。
 - ISUに任命された役員として、自身が慎重にふるまうものとする。
 - いかなる場合でも、競技者に対する最良、偏見を示してはならない。
 - 完全な公平・中立を常に保たなければならない。
 - 滑走された演技にのみ基づいて採点および決定を行い、評判や過去の演技に影響されてはならない。
 - 観衆の喝采や不満は無視しなければならない。
 - 競技会中は、自身の採点や決定について、または他の役員の採点や決定について、務めている種目のレフェリーおよび／または（テクニカル・パネルのメンバーのみ）テクニカル・パネルに属する他のメンバー以外の者と話し合ってはならない。
 - 自身が務めている競技のレフェリーを通じずに、テレビのコメンテーターとなったり、メディア、テレビジョン、その他の者とコミュニケーションをとったりしてはならない。

- 携帯電話、タブレット、スマートウォッチなど電子的通信装置は、いかなるものであれ、役員が役員席にいるあいだ、電源を切らなければならない。
- ISU役員は、ISUフィギュア・スケート（シングル&ペア・スケーティング／アイス・ダンス）選手権大会またはオリンピック冬季大会のレフェリー、ジャッジやテクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、OAC委員として活動するシーズンにおいて、ISUフィギュア・スケート（シングル&ペア・スケーティング／アイス・ダンス）選手権大会またはオリンピック冬季大会のチーム・リーダー（またはアシスタント）として活動してはならない。
- 国際フィギュア・スケーティング競技会の役員は、その競技会に関して否定的な意見を公表してはならない。

1. レフェリーの義務と権限

- ISUイベント・マネージャーが不在である時、すべての参加資格規程とISU資格証明の順守状況を審査するとともに、計算関係の正確性を確認する。
- 競技会に先立ち、金属や硬質プラスチックを使用した医療機器の承認をメディカル・アドバイザー／競技会医師とともに行う（第141条第2項参照）。
- 滑走順の抽選および（アイス・ダンスの場合は）パターン・ダンスの抽選を行う。
- ジャッジ団を監督する（ジャッジがジャッジ席にいる間、以前に与えられた得点の記録や電子的な通信機器を持ち込む、他人と話し合う、エラーを動作や音で示す、隣に座るジャッジが入力した得点を覗くなどしないようにする）および必要な場合には、責任者として役員を代表して発言する。
- ISUガイドラインに従い、各競技部分に先立ちイニシャル・ジャジャズ・ミーティング（第431条参照）およびジャッジとのミーティングを開催する。
- ウォームアップ時間が第514条の定めに従っていることを確認する。
- 競技者が開始の姿勢を取るまでに必要とした時間を計測し、棄権や減点の対象となるか否かを判断する（第350条参照）。
- 第515条に従い、競技者の音楽を止める、あるいは再スタートするよう音楽の担当者に指示を出すなど、開始の遅延や再スタートに関して必要な行動を取る。
- 氷の状態が競技を行うに適しているか否かを判断する。
- 当該競技に関わるすべての抗議について判断を下す。
- 好ましくない事態が発生した場合、滑走領域の形と大きさを変える。
- 競技会を主催するISUメンバーまたは加盟クラブの同意を得て、他のリンクで競技を行うことを認める。

- プログラムの滑走時間のほか、中断が起きた場合にはその時間（第503条、第515条参照）、およびダンス・リフトの時間（アイス・ダンスのみ、副計時係の支援を受ける）を、計時係の支援をうけて計測する。
- カップルが選んだパターン・ダンス音楽のテンポとリズム・ダンスの指定された部分のテンポ（当てはまる場合）を計測する（アイス・ダンスのみ）。
- 以下の違反について、第353条第1項n)に従って減点を決定する——演技時間、演技の中断、中断箇所から再開してよい範囲の演技の中断、コスチューム／飾りの一部が氷上に落下、許容時間を超えるダンス・リフト（アイス・ダンスのみ）、テンポ指定（アイス・ダンスのみ）
- ジャッジ団とともに、要件や制限に対する以下の違反について、第353条第1項n)に従って減点を決定する——コスチューム／小道具、（アイス・ダンスのみ）振り付けおよび音楽。これらの減点は、全ジャッジとレフェリーからなるジャッジ団の多数決によって適用する。意見が50：50に割れた場合は減点しない。
- 担当競技全体をジャッジする。
- 観衆が競技会を中断したり秩序を乱したりした場合、正常に復するまで競技を延期する。
- 必要な場合、競技者を競技から除外する。
- 必要な場合、重要かつ正当な理由に基づいてジャッジをパネルから除外する。
- 競技中、コーチに対し、競技会の行われているリンクの氷上のどの部分にも立つことを禁止する。
- ISU組織規程あるいはISU規程に対する違反に関する事項を判断する。
- 表彰式に参加する。
- ラウンド・テーブル・ディスカッションの議長を、ISUガイドラインに従って務める（第431条参照）。
- ISUガイドラインに従い、競技に関する報告書（オンラインあるいは電子的な書式による）を作成する（第433条を参照）。

2. ジャッジの義務

- GOE得点およびプログラム・コンポーネンツ採点の全範囲を使わなければならない。
- 個々に採点しなければならず、審判中は他のジャッジと私語を交わしたり、エラーを動作や音で示したりしない。
- あらかじめ用意した採点を使用しない。
- レフェリーとともに、要件や制限に対する以下の違反について、第353条第1項n)に従って減点を決定する——コスチューム／小道具、（アイス・ダンスのみ）振り付けおよび音楽。これらの減点は、全ジャッジとレフェリーからなるジャッジ団の多数決によって適用する。意見が50：50に割れた場合は減点しない。

- 各競技部分に先立ち、ISUガイドラインに従ってレフェリーが開くイニシャル・ジャッジズ・ミーティング（第431条参照）およびミーティングに出席する。
- ISUガイドラインに従ってレフェリーが開くラウンド・テーブル・ディスカッション（第431条参照）に出席する。

3. テクニカル・コントローラーの義務と権限

- 要素の削除を認定あるいは訂正する。
- テクニカル・スペシャリストおよびデータ・オペレーターを監督し、必要な場合、実施された要素に対して、両テクニカル・スペシャリストが特定した実施要素の名称と難度レベル（LOD）について訂正を行う。ただし、テクニカル・コントローラーが訂正を要求しても両テクニカル・スペシャリストが反対した場合、両テクニカル・スペシャリストが行った最初の決定が維持される。要素の名称および／または難度レベル（LOD）について、両テクニカル・スペシャリストの意見が異なった場合には、テクニカル・コントローラーの意見が採用される。
- テクニカル・コントローラーは、上述の手順に従って特定された実施要素の名称および難度レベル（LOD）がデータ・オペレーターによって正確にシステムへ入力されたことを確認する責任があり、実施要素名および難度レベル（LOD）は、そのような確認が完了したとテクニカル・コントローラーが正式に確認したあと有効となる。
- 違反要素／違反動作の特定を認定あるいは訂正する。
- プログラムのいかなる部分で起きたものであっても、転倒の特定を認定あるいは訂正する。パターン・ダンスの助走部あるいは最終部のステップ／動作における転倒も含む。ただし、違反要素／違反動作または転倒についてテクニカル・コントローラーが訂正を要求しても両テクニカル・スペシャリストが訂正に反対した場合には、両テクニカル・スペシャリストによる最初の決定が維持される。違反要素や転倒について両テクニカル・スペシャリストの意見が異なった場合には、テクニカル・コントローラーの意見が採用される。
- 準備を整えるのに十分な時間、競技会の練習時間に立ち会う。
- 競技会の各競技部分に先立ち、ISUガイドラインに従って、イニシャル・テクニカル・パネル・ミーティング（第432条参照）、テクニカル・スペシャリストおよびデータ&リプレイ・オペレーターとのミーティングを開催する。
- ISUガイドラインに従ってテクニカル・パネル・ディスカッションの議長を務める（第432条参照）。

- 可能であれば、ISUガイドラインに従ってラウンド・テーブル・ディスカッションの議長を務めるレフェリーを補助する（第431条参照）。
- ISUガイドラインに従い、競技に関する報告書を作成する（第433条参照）。
- 表彰式に参加する。

4. レフェリーとテクニカル・コントローラーの連絡

競技会中、レフェリーとテクニカル・コントローラーは直接連絡を取り合えるようにしておくことが望ましい。

5. テクニカル・スペシャリストの義務

テクニカル・スペシャリスト

- 実施された要素を特定してコールする。
- 実施された要素の正確な難度レベル（LOD）を特定してコールする。
- 違反要素／違反動作を特定する。
- プログラムのいかなる部分で起きたものであっても、転倒を特定する。パターン・ダンスの助走部あるいは最終部のステップ／動作も含む。
- 余分な要素を特定し削除する。
- 準備を整えるのに十分な時間、競技会の練習時間に立ち会う。
- 競技会の各競技部分に先立ち、ISUガイドラインに従ってテクニカル・コントローラーが開くイニシャル・テクニカル・パネル・ミーティング（第432条参照）とミーティングに出席する。
- ISUガイドラインに従ってテクニカル・コントローラーが議長を務めるテクニカル・パネル・ディスカッションに出席する（第432条参照）。

6. データ・オペレーターおよびリプレイ・オペレーターの義務

データ・オペレーター

- コールされた要素を入力する。
- コールされた要素の難度レベル（LOD）を入力する。
- テクニカル・コントローラーの指示に従って、要素名あるいはLODを修正する。
- テクニカル・コントローラーおよび両テクニカル・スペシャリストに対し、コンピューターによって特定された余分な要素を示す。

リプレイ・オペレーター

- テクニカル・パネル、レフェリー、ジャッジが必要な場合にレビューできるよう各要素を別個に録画する。

データ&リプレイ・オペレーター

- (両) テクニカル・スペシャリストおよびテクニカル・コントローラーを補助する。
- 競技会の各競技部分に先立ち、ISUガイドラインに従ってテクニカル・コントローラーが開くイニシャル・テクニカル・パネル・ミーティング（第432条参照）とミーティングに出席する。
- 可能であれば、ISUガイドライン（第432条参照）に従ってテクニカル・コントローラーが議長を務めるテクニカル・パネル・ディスカッションに出席する。

第431条

競技会におけるレフェリーおよびジャッジのミーティング

1. ISU選手権大会、ISUイベント、オリンピック冬季大会におけるイニシャル・ジャッジズ・ミーティングおよびプレイベント・ミーティング

ISU選手権大会、ISUイベント、オリンピック冬季大会のジャッジは、レフェリー、および当該技術委員会の委員長あるいは委員、（居合わせている可能であれば）およびテクニカル・コントローラーがモデレーターとして司る競技会開始前のイニシャル・ジャッジズ・ミーティングと、競技会開始直前に行われ、レフェリーがモデレーターとして司るプレイベント・ミーティングに出席しなければならない。イニシャル・ジャッジズ・ミーティングにおいて、モデレーターはジャッジに対して、ジャッジの義務およびシングル、ペア・スケートティング、アイス・ダンスの採点に関する規程の概略について簡単に要約し、注意を喚起しなければならない。特に正式に発表された規程やその解釈の変更、明確化について注意を喚起しなければならない。プレイベント・ミーティングは、競技会の当該競技部分における要素の重要ポイントを中心とする。

国際競技会におけるジャッジズ・ミーティング

国際競技会のジャッジは、競技会開始直前に行われるジャッジズ・ミーティングに出席しなければならない。開催の日時や形式は、レフェリーが決定する。ただし、ISU選手権大会、ISUイベント、オリンピック冬季大会におけるイニシャル・ジャッジズ・ミーティングおよびプレイベント・ミーティングでカバーされる内容の概要は少なくとも取り扱わなければならない。

2. ラウンド・テーブル・ディスカッション (RTD)

国際競技会、ISU選手権大会、オリンピック冬季大会のジャッジは、レフェリーおよび（可能であれば）テクニカル・コントローラーとともに各種目終了後の非公開会議（ラウンド・テーブル・ディスカッション）に出席しなければならない。なお、この会議は各種目終了後可能なかぎり早く開催しなければならない。開催が当該種目の翌日より遅くなってはならない。テクニカル・コントローラーは、担当するイベントに関するラウンド・テーブル・ディスカッションに参加することができる。当該技術委員会の委

員長あるいは委員は、いずれのラウンド・テーブル・ディスカッションにも参加することができる。レフェリーは、可能なかぎり、当該競技会のビデオをRTDに提供すること。

ISUイベントの場合、レフェリーは、競技会のビデオをRTDに提供しなければならない。

会議では以下のトピックスについて議論する。目的は、ジャッジ間のフィードバックと、ISUが将来のジャッジングの指針を得る助けとなるよう統一見解を得ることである。

- 一般的なスケーティングの質
- 一部スケーターのエレメントおよび各プログラム・コンポーネンツに対する得点の範囲。この会議では採点の許容範囲を決定することはしない（決定はISU理事会によって確立された手順に従って役員評価委員会が行う）。
- 現行規定の妥当性および有効性
- マーキング・ガイド、機器、プリントアウト、内部および外部に対する情報の流れに対して考えられる改善策

ディスカッション中、ジャッジは自身の意見を表明することが望ましい。このディスカッションが、対象種目における個々のジャッジングを批判するために利用されることはない。

第432条

競技会におけるテクニカル・パネルのミーティング

1. イニシャル・テクニカル・パネル・ミーティング

国際競技会、ISU選手権大会、オリンピック冬季大会のテクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーターは、テクニカル・コントローラーがモデレーターとして司る競技開始前の非公開会議（イニシャル・テクニカル・パネル・ミーティング）に出席しなければならない。モデレーターは、役員に対し、テクニカル・パネルの義務およびコール基準について簡単に要約し、注意を喚起しなければならない。特に、正式に発表されたコール基準やその解釈の変更、明確化について注意を喚起しなければならない。

ISU選手権大会、オリンピック冬季大会、ISUグランプリ・ファイナル（ジュニア・シニア合同）におけるミーティングは、第417条第7項の規定を活用するため、当該技術委員会の委員長および／または委員および／またはスポーツ技術局員が司るものとする。

2. テクニカル・パネル・ディスカッション

国際競技会、ISU選手権大会、オリンピック冬季大会のテクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、そして、可能な場合にはデータ&リプレイ・オペレーターも、テクニカル・コントローラーがモデレーターとして司る各種目終了後の非公開会議（テクニカル・パネル・ディスカッション）に出席しなければならない。なお、この会議は各種目終了後可能なかぎり早く開催しなければならない。開催が当該種目の翌日より遅くなってはならない。

会議では以下のトピックスについて議論する。目的は、役員間のフィードバックと、ISUが将来の指針を得る助けとなるよう統一見解を得ることである。

- チームワークの評価
- 活動の評価
- 難しかった決定
- コール基準、機器、プリントアウト、内部および外部に対する情報の流れに対して考えられる改善策

第433条 報告書

1. アイス・ダンスのアドバンスト・ノービス競技会ならびにシングル、ペア、アイス・ダンスのジュニア競技会およびシニア競技会について、レフェリーは、競技会報告書（オンラインあるいは電子的な書式による）を作成しなければならない。報告書には標準書式として以下の事項を記載しなければならない。

- 大会組織のレベル
- 各競技部分のスケーティング・レベル
- ジャッジングのレベルおよび各ジャッジのルールを理解やルールの適用を伝達する能力
- ラウンド・テーブル・ディスカッションの概要
- （必要ならば）追加の所見
- 改善提案
- 計算方式の正確性（ISUイベントを除く）
- 棄権に関する文書

報告書を作成しなければならないのは、競技会が国際競技会の要件を満たしている場合のみ、すなわち複数のISUメンバーの参加があった場合のみである。そうでない場合、その旨、フェリーがISU事務局に通知しなければならない。

特に報告すべき事項があった場合、シングルとペアのベーシック・ノービス競技会、インターミディエイト・ノービス競技会、アドバンスト・ノービス競技会のレフェリーは、個別報告書でISUに通知しなければならない。アイス・ダンスにおいては、ベーシック・ノービス競技会とインターミディエイト・ノービス競技会について個別報告書でISUに通知しなければならない。

2. アイス・ダンスのアドバンスト・ノービス競技会ならびにシングル、ペア、アイス・ダンスのジュニア競技会およびシニア競技会について、テクニカル・コントローラーは、競技会報告書（オンラインあるいは電子的な書式による）を作成しなければならない。報告書には標準書式として以下の事項を記載しなければならない。

- チームワークの評価
 - テクニカル・スペシャリストの仕事に対する評価
 - データ・オペレーターの仕事に対する評価
 - リプレイ・オペレーターの仕事に対する評価
 - テクニカル・パネル・ディスカッションの概要
 - （必要ならば）追加の所見
 - 改善提案
3. レフェリーおよびテクニカル・コントローラーは、競技会終了後14日以内にそれぞれの報告書をISU事務局に送付しなければならない。なお、いかんともしがたい状況であるため提出期限を延長して欲しいとの要請が本来の送付期限までにあった場合、ISU事務局は、提出期限を最大で14日間延長することができる。
- また、ISU事務局は、報告書の写しを可及的速やかに次の者に送付しなければならない。
- a) 当該技術委員会の委員長および各委員
 - b) 当該 スポーツ技術局員

第434条～第439条（予備）

D. 役員の業務に対する評価

第440条

1. 役員評価委員会

- a) 役員評価委員会（OAC）の構成と義務は、組織規程第23条およびISUコミュニケーションに公表される関連の手續規則に定める。
- b) 全ISUイベント、オリンピック冬季大会、ユース・オリンピック冬季大会については、競技種目（シングル&ペア・スケートティングおよびアイス・ダンス）ごとにOAC委員2名を、組織規程の第16条第2項f)に従い、ISU会長が任命する。任命されたOAC委員は、関連の評価を、第440条およびISUコミュニケーションで公表された手續規則にのっとり行うものとする。

2. ISUイベント（およびオリンピック冬季大会、ユース・オリンピック冬季大会）におけるジャッジの逸脱採点に対する評価

- a) OAC委員は、エラーおよび／または（ナショナル）バイアスであるとOAC委員が判断した逸脱採点の指摘も含む報告書を各競技会の終了後に作成する（組織規程第23条およびISUコミュニケーションに公表される関連の手續規則を参照）。この報告書は、ISU事務局経由で当該技術委員会へと遅滞なく届けなければならない。
- b) 当該技術委員会は、ISU事務局へ提出されたOAC報告書について評価を行い、技術委員会としての報告書を可能なかぎり早くISU事務局に送らなければならない。エラーおよび／または（ナショナル）バイアスであるというOAC委員の判断を技術委員会が認めない場合、当該OAC委員と協議し、意見を調整しなければならない。不一致が解消されない場合は、フィギュア・スケートティング担当副会長が最終判断を下す。
- c) 当該技術委員会がOAC委員による指摘以外に採点の逸脱をみつけた場合、担当スポーツ技術局員に報告し、その逸脱をエラーおよび／または（ナショナル）バイアスであると判断すべきか指示を仰ぐものとする。

- d) 当該技術委員会は、アセスメント対象になりうると指摘されたジャッジの採点エラーを評価し、下記第6項およびISUコミュニケーションに公表される関連の手続規則に定められた基準にのっとってアセスメントを発行する。
- e) 指摘された（ナショナル）バイアスは、当該技術委員会および／または担当スポーツ技術局員および／またはフィギュア・スケーティング担当副会長および／または理事会がISU倫理規程違反の申立書を作成し、ISU規律委員会（DC）に提出する。（ナショナル）バイアスが採点誤りから発している場合も、アセスメント手続きと申立書のDC提出を行うものとする。評価手続きを進めた結果、採点には（ナショナル）バイアスが認められるものの証拠不十分でDCに持ち込むほどではないとの結論に達した場合は、当該技術委員会が当該ジャッジに対して警告書を発行する。この警告書やその発行をもたらした事実は、その後、同ジャッジの採点に含まれる（ナショナル）バイアスが評価対象競技会における採点のみからそう考えられるのか、それとも、複数競技会の採点を観察しないとわからない採点パターンによるものなのかの判断に用いられる。

3. 逸脱の判定方法

- a) 実施要素の出来栄え（GOE）
- i) 実施された要素ごとに全ジャッジの平均GOEをコンピューターで算出する。レフェリーのGOEは算入しない。
 - ii) 続いて、要素ごとに「算出された平均値」と各ジャッジのGOEの差をコンピューターで計算し、「偏差」を出す。
- b) プログラム・コンポーネンツ・スコア（演技構成点）
- iii) プログラム・コンポーネンツごとに全ジャッジの平均スコアをコンピューターで算出する。レフェリーの演技構成点は算入しない。
 - iv) 続いて、「算出された平均値」と各ジャッジの演技構成点・スコアの差をコンピューターで計算し、「偏差」を出す。
 - v) ジャッジごとに偏差を合計し、演技構成点すべての合計をもとにしたネット偏差を算出する（+とーの偏差は打ち消し合う）。
- c) 偏差の許容範囲やその後の全ての手続きは、ISUコミュニケーションに記すものとする。

4. ISUイベント、オリンピック冬季大会、ユース・オリンピック冬季大会におけるテクニカル・パネルの判定、データ&リプレイ・オペレーターの操作、レフェリーによる決定または競技会の進行の評価

a) もし：

- 当該競技会に任命されたOAC委員および／または
- ISU会長および／または
- ISU理事会および／または
- 当該スポーツ技術局員および／または
- 当該技術委員会および／または
- テクニカル・パネルの判定については（ジャッジの誰かあるいはレフェリーがなにがしかのまちがいを発見した場合）ジャッジによるラウンド・テーブル・ディスカッションの結論に従って担当レフェリーが、テクニカル・パネルの判定、データ・オペレーターもしくはリプレイ・オペレーターの作業、またはレフェリーによる決定もしくは競技進行が誤っていると判断した場合、該当する条項を指摘するとともに、その条項で求められている詳細所見を添えて、決定のまちがい、作業のまちがい、進行のまちがいを特定する報告書をフィギュア・スケーティング担当副会長へ提出するものとする。

b) フィギュア・スケーティング担当副会長は、報告書を受領したとき、あるいは、テクニカル・パネルの判定、データ・オペレーターもしくはリプレイ・オペレーターの作業、またはレフェリーによる決定もしくは競技進行のまちがいにみずから気づいたとき、当該技術委員会に通知するとともに、関連役員に対し、このまちがいを認めるかあるいは異議を唱えるか、2週間以内に書面で回答するよう求める。異議が申し立てられた場合、フィギュア・スケーティング担当副会長は、当該報告書と関連の記録ビデオ（存在する場合）を当該技術委員会およびフィギュア・スケーティング担当副会長が選んだ3人の役員にそれぞれ別個に送付し、各役員に各自の居住地でレビューしてもらうものとする。この役員は、全員が異なるISUメンバーの所属でなければならないし、レビュー対象となっているテクニカル・パネル・メンバー、データ・オペレーターもしくはリプレイ・オペレーター、レフェリー、さらには、決定や競技進行のまちがいの影響を受けるスケーターと同じISUメンバーの所属であってはならない。役員3人は、以下の構成とする。

- i) テクニカル・パネルの場合：ISUテクニカル・コントローラー1人
およびISUテクニカル・スペシャリスト1人
レフェリーの場合：ISUレフェリー2人
データ&リプレイ・オペレーターの場合：ISUテクニカル・コント
ローラー1人およびISUデータ&リプレイ・オペレーター1人
 - ii) 当該技術委員会の委員1人。評価対象が当該技術委員会の委員であ
る場合は当該技術委員会から役員を選ぶことはしない。その代わり、
それぞれ、ISUテクニカル・コントローラーまたはISUテクニカル
・スペシャリスト1人、3人目のISUレフェリー、2人目のISUデー
タ&リプレイ・オペレーターを選任する。
- c) 問題がテクニカル・パネルの判定ミスである場合、フィギュア・スケーテ
ィング担当副会長は、まず、その時点で残っているテクニカル・パネルに
よる判定の音声記録およびビデオ録画記録を確認し、問題となっているテ
クニカル・パネルの判定がテクニカル・パネルのマジョリティ判定とスプ
リット判定のいずれによるものか、あるいはデータ・オペレーターまたは
リプレイ・オペレーターのまちがった作業によるものかを判定する。そして
その後、まちがいとされる決定の原因となった役員について、上記b)項の
手続きを進めるものとする。
- d) 選ばれた役員および当該技術委員会は、関係する決定、作業、競技進行が
まちがっていたかどうかに関わらず、自身の結論をフィギュア・スケーテ
ィング担当副会長にそれぞれ提出する。対象となった決定、作業、または
競技進行にまちがいがあったと選任役員の過半数が判断した場合、フィギ
ュア・スケーティング担当副会長は、当該技術委員会の報告書を添え、当
該ケースと自身の評価結果も記載した詳細報告書を理事会に提出し、アセ
スメントに関する最終決定を仰ぐ、あるいは、軽微な失敗の場合、訓告状
を出すものとする。

5. レフェリーの報告書およびテクニカル・コントローラーの報告書の評価

当該技術委員会は、第433条の定めに従い提出された書類をもとに、ISUイ
ベント、国際競技会（オリンピック冬季大会およびユース・オリンピック
冬季大会を含む）に関するレフェリーの報告書ならびにテクニカル・コン
トローラーの報告書の質に対し、大変良い、良い、容認できる／平均的、
やや劣る、劣る評価を与える。当該評価は、当該のレフェリーならびにテ
クニカル・コントローラーの実績記録として残すものとする。報告書が
「劣る」と評価された場合、技術委員会は、下記第6項に従い、アセスメン
トを発行するものとする。

6. アセスメント

- a) 採点にまちがいがあった場合、スケーター／ペア／カップルに大きな違いを生じるテクニカル・パネルの判定をマジョリティのひとりとして支持した場合、レフェリーの決定や競技進行にまちがいがあった場合、レフェリーやテクニカル・コントローラーの報告書が「劣る」と評価された場合、データ&リプレイ・オペレーターの作業にまちがいがあった場合、それが初回であればアセスメント1、過去にアセスメント1を受けていた場合はアセスメント2、過去にアセスメント2を受けていた場合はアセスメント3とする。
- b) ジャッジに対するアセスメントは、基本的に、当該技術委員会が決する。テクニカル・パネルのメンバー、レフェリー、データ&リプレイ・オペレーターに対するアセスメントは理事会が決する。ただし、レフェリーまたはテクニカル・コントローラーの報告書が「劣る」と評価された場合のアセスメントは当該技術委員会（第5項参照）が決するものとする。

7. 降格

- a) 役員がアセスメントをくり返し受け、アセスメント3に達した場合、当該アセスメント（第2項d）、第4項c）、第6項b）の責任を負うISU組織は、その役員を以下のように降格するものとする（降格は即時有効とする）。
 - i) ISUクラスのジャッジ、レフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーターは国際役員の当該リストに移す。
 - ii) 国際クラスのジャッジ、レフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーターは国際役員の当該リストから削除する。
- b) 降格を決める前には以下の手続きを踏まなければならない。

アセスメント3が発行されたら、ISU事務局を通じ、当該役員およびそのISUメンバーに対し、降格の可能性を通知する。

当該役員は、通知受領から5日以内に、原因となったアセスメントを不服として下記3人以上による審問を要求することで降格に異議を申し立てることができる。

 - i) ジャッジの場合は当該技術委員会。
 - ii) レフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーターの場合はISU理事会のフィギュア・スケート部門（専門家を追加任命できる）。

求められた審問は遅滞なく開催しなければならない。開催日時は審問する側が決める。可能であり、かつ、特殊なケースで対面審問が必要だと審問側が判断しなければ、審問はテレビ会議で行う。

審問時、役員は、降格やその原因となったアセスメントが不適切だと考える理由を釈明する機会を与えられるものとする。なおその際、ビデオおよび／または音声の記録があればそれを裏付けとして用いることができる。

結審時、審問委員会は、異議が申し立てられたアセスメントを有効とすべきか無効とすべきかなどを記載した報告書を作成するものとする。そのアセスメントの有効・無効は、当該の技術委員会、理事会が決するものとする。異議が申し立てられたアセスメントが認定された場合、あるいは、当該役員が審問を放棄した場合、当該の技術委員会、理事会は、上記第6項a)に従い降格の手続きを進めるものとする。

審問に関連して発生する費用は基本的に当該役員の負担とする。ただし、審問委員会の判断で審問が対面となり、かつ、アセスメントが無効と判断された場合、当該役員の旅費・宿泊費はISUが負担するものとする。

8. アセスメントおよび降格が有効となる範囲と期間

- a) アセスメントや降格が有効となるのは、レフェリー、ジャッジ、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーターのうち当該資格についてのみである。
- b) ジャッジ、テクニカル・コントローラーおよびテクニカル・スペシャリストのアセスメントおよび降格が有効となるのは、シングル&ペア・スケーティングまたはアイス・ダンスのうちアセスメントあるいは降格を受けた競技種目についてのみである。
- c) レフェリーおよびデータ&リプレイ・オペレーターのアセスメントおよび降格が有効となるのは、シンクロナイズド・スケーティングを含む全競技種目とする。
- d) レフェリーの場合、シンクロナイズド・スケーティングも含め異なる競技種目について受けたアセスメントは合算する。
- e) テクニカル・コントローラーとしても活動しているテクニカル・スペシャリスト（あるいはその逆）の場合、これら役割に対して受けたアセスメントは合算する。

- f) 各アセスメントは、当該シーズンに加えて2シーズンの間有効であり、その有効期間内は、アセスメントの累積に数えられるものとする。
- g) 降格は、当該役員が第410条から第416条に定められた当該資格の初任命条件を満たし、降格前に所持していた資格に復するまで有効とする。
- h) もし、あるISUメンバーに所属するジャッジ（またはジャッジとして活動したレフェリー）の過半数が、不行状による資格停止処分、および／または、アセスメントおよび／または承認されたアセスメントによる降格処分を数年にわたって受けた場合、理事会の決定により、そのISUメンバーは警告を与えられるか、または理事会が決定した期間、ISU選手権大会および／またはオリンピック冬季大会およびユース・オリンピック冬季大会および／または国際競技会にジャッジを任命する権利を剥奪されることがある。ただし、理事会は、この権限を行使するにあたり、決定前5年を超える時期に起きたケースを通常考慮しないものとする。

9. 警告書、アセスメント、降格の通知

警告書、アセスメント、あるいは降格を決定したISU部門は、ISU事務局に対し、当該役員へ通知するとともに、そのコピーを当該役員が所属するISUメンバーおよび当該技術委員会へ送付するよう指示しなければならない。

10. 役員の義務違反および倫理的問題に対する制裁

- a) 採点ミス、テクニカル・パネルによる決定ミス、データ&リプレイ・オペレーターの作業ミス、レフェリーによる決定ミスや競技進行ミスはアセスメントの対象となる（上記第4項、第5項、第6項）。ISU倫理規程に対する違反を含め、第430条に定める役員義務に違反があり、それが（意図的、重大な過失、怠慢、軽率など）なにがしかの責任を負うべき形で行われていた場合、本質的に規律や倫理の問題として、組織規程第25条第9項に従い規律上の制裁の対象となる。たとえば以下のような場合であるが、これに限るものではない。
 - i) 正当な理由なく役員会議を完全にあるいは一部欠席した。
 - ii) 正当な理由なく抽選を完全にあるいは一部欠席した（レフェリーのみ）。
 - iii) 正当な理由なく競技会を完全にあるいは一部欠席した。

- iv) 報告書の提出がない、報告書の提出が遅かった、あるいは報告書が不完全だった（レフェリーおよびテクニカル・コントローラーのみ）。
- v) ISU倫理規程に違反した（（ナショナル）バイアスについては上記第2項を参照）。
- b) 役員に深刻な義務違反や倫理的問題があった場合、すみやかにISU規律委員会に報告すること。
- c) 規律上の制裁および／または警告書を受けたことのない役員に軽微な義務違反や倫理的問題があった場合、当該技術委員会および／またはスポーツ技術局員が疑われる違反を明記した警告書を作成し、役員の義務や倫理に対する違反をくり返すと規律委員会への苦情申し立てにつながる可能性があるとき当該役員に通知するものとする。
役員の義務や倫理に対する違反がくり返された場合は規律委員会に報告する。ただし、違反があまりに軽微で制裁に値しないと考えられる場合は、再度、警告書を発行するものとする。
- d) 役員に義務や倫理に対する違反があった場合、当該技術委員会および／または当該スポーツ技術局員および／またはフィギュア・スケート担当副会長および／またはISU理事会が規律委員会手続規則に従って規律委員会に提訴するものとする。
提訴された役員が当該技術委員会のメンバーであった場合、申立書は理事会が提出する。
- e) 申立書は、提出者自身の観察および／または、レフェリー、ジャッジ団のメンバー、テクニカル・パネルのメンバーなどの第三者から受け取った報告書に基づくものでなければならない。

第441条～第449条（予備）

エキシビションに関する規程

第450条 エキシビション

1. いかなる種類のエキシビションの交渉もスケーター自身ではなくそのスケーターの所属するISUメンバーと行なわなければならない。
2. 外国におけるエキシビションの通知は関連する両方のISUメンバーがISU事務局長に送付しなければならない。外国でエキシビションを開催するISUメンバーはその国のISUメンバーの同意を得るための申請をしなければならない。すべての金銭上の取り決めは関連するISUメンバー間によって承認されなければならない。
3. スケートー／カップルが外国に2カ月以上滞在する場合、スケーター／カップルの所属するISUメンバーはその外国のISUメンバーにエキシビションのための一般的な権限とそのスケーターのISUおよびその外国ISUメンバーの参加資格規定適用の責任を委任することができる。この場合、そのスケーター／カップルはエキシビションの依頼を受けたときにはその外国ISUメンバーに報告する。
4. 第109条第2項および第3項の条項はエキシビションにも適用される。
5. 関連するISUメンバーが事前に許可している場合にかぎり、有資格者は（第102条第2項に定められた）無資格者が参加者の主要な部分を占めるアイス・ショー、エキシビション、広告映画あるいはテレビ・ショーに参加しても良い。
6. 特別な場合、ISUの担当スポーツ技術局員はISUメンバーでない国におけるエキシビションに有資格者が参加することを許可できる。
7. ISU選手権大会の会場またはその近郊で競技開始前14日間は選手権大会の競技者によるエキシビションを行なってはならない。
8. フィギュア・スケATING競技開催中のエキシビションについては第365条を参照のこと。
9. 世界選手権大会の出場者で、ISUエキシビション・ツアーに招待された者は競技終了後40日以内に、20回を超えてエキシビションに出場してはならない。ただし、担当スポーツ技術局員は例外を設けることができる。この期間中のエキシビションはISUが運営するか承認したものでなければ、ISUエキシビション・ツアーに招待された者を含んではならない。
10. 有資格者が参加するエキシビション・ツアーを組織あるいは認可する権利は、ISUあるいはISUメンバーだけが有する。

11. 有資格者は1日1回にかぎりエキシビションに出場することが許される。エキシビションが1週間を超えて連続する場合は、3日または4日に1日、エキシビションのない日を設けなければならない。しかしながら、地理的に孤立した国でその様なエキシビションを見る機会が少ない国に対しては、担当スポーツ技術局員によって特別な協定が承認されることがある。
12. ISU理事会はISUの利益のために、エキシビションを運営するISUメンバーと財政的な協定を結ぶ。
13. ISU選手権におけるフィギュア・スケーティング・エキシビションの参加者は現金を受け取ることができる。ただし、スケーターの所属するISUメンバーの同意が必要であり、支払いはそのISUメンバーを通さなければならない。
14. 第137条（費用の支払い）の条項はエキシビションにも適用される。
15. エキシビション参加の除外については、第104条第16項および第125条第4項を参照のこと。

第451条～第499条（予備）

II. 技術規程

シングル&ペア・スケーティング／アイス・ダンス

技術規程総則

シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンス

第500条

スケート・ブレードの定義

競技会およびテストに使用されるフィギュア・スケーティング用のブレードは、両エッジ間の幅が一定で、断面の形状が平面ないし凹面状をなすように研磨されたものでなければならない。ただし、断面の形状にわずかにテーパをつけて、幅を狭めたりすることは許される。

第501条

衣装

1. ISU選手権大会およびオリンピック冬季大会、ユース・オリンピック冬季大会を含む国際競技会において、競技者の衣装は節度と品位のあるものでスポーツ競技会に適するものでなければならない。芝居じみている、けばけばしいデザインのものは許されない。ただし、選んだ音楽の特徴を反映する衣装とすることはかまわない。衣装（コスチューム）は当該競技種目用として不適切なほど過度に肌を出したように見えるものであってはならない。男子は下まで長いズボンを着用しなければならない。アクセサリや小道具は使えない。

上記ガイドラインを満たさない衣装には減点が与えられる（第353条第1項n参照）。

アイス・ダンスについては、この制限に対する例外規定をIDTCが発布できるものとする。

2. 衣装の飾りは取り外せてはならない。衣装の一部または飾りが氷上に落ちた場合、減点が与えられる（第353条第1項n参照）。

第502条

滑走時間

滑走時間はスケーター（ペア・スケーティングおよびアイス・ダンスではいずれかのスケーター）が動き始めるか、滑走し始めた時から、プログラムの最後に完全に停止したときまで、計測しなければならない。

1. ショート・プログラム
シニアおよびジュニアの女子，男子，ペア：2分40秒
2. フリー・スケートティング
3. シニア：

男子	4分
女子	4分
ペア	4分

 ジュニア：

男子	3分30秒
女子	3分30秒
ペア	3分30秒
4. シニアおよびジュニアのリズム・ダンス
2分50秒（アイス・ダンス技術委員会が下した別段の決定がISUコミュニケーションを通じて発表された場合を除く）
5. フリー・ダンス

シニア	4分
ジュニア	3分30秒

ショート・プログラム，リズム・ダンス，フリー・スケートティング，フリー・ダンスは，規程時間の前後10秒以内に終了すればよい。許された時間の範囲内にショート・プログラム，リズム・ダンス，フリー・スケートティング，フリー・ダンスを終了できなかった場合，当該スケーター／ペア／カップルに対し，5秒までごとの過不足につき，規定の減点（第353条第1項n）参照）が与えられる。ショート・プログラム，リズム・ダンス，フリー・スケートティング，フリー・ダンスにおいて，規定時間（+10秒）以降に開始された要素は，テクニカル・パネルから認定されず，従って無価値（ノーバリュウ）となる。計時係はレフェリーにそのことを連絡する。プログラムが規定時間範囲より30秒以上短かった場合，得点は与えられない。

第503条 転倒

転倒は，スケーターがコントロールを失い，その結果，体重の過半が身体のブレード以外の部分，たとえば片手または両手，片膝または両膝，背，片尻または両尻，腕の一部によって氷上に支えられた状態と定義する。転倒には，1回ごとに減点が与えられる（第353条第1項n）参照）。

第504条
ショート・プログラム／リズム・ダンスおよび
フリー・スケートティング／フリー・ダンスの採点

1. 要素点

ショート・プログラム／リズム・ダンスおよびフリー・スケートティング／フリー・ダンスにおける要素の価値尺度の表は、第353条第1項a)およびb)に従い、ISUコミュニケーションで公表・改訂する。この価値尺度は、全要素の基礎値と実施要素の出来栄え（GOE）として評価される11段階の数値で構成される。

a) 基礎値

要素の名称と、必要な場合には難度レベルも、テクニカル・パネルが決定する。基礎値は点数で表し、要素の難度が上がるほど高くなる。要素の難度は、以下の条件に応じて決定する。

シングル&ペア・スケートティング	アイス・ダンス
<ul style="list-style-type: none"> - ジャンプ（シングルおよびペア）およびスロウ・ジャンプ（ペア）について：難度順に並べたジャンプまたはスロウ・ジャンプの名称（トウ・ループ、サルコウ、ループ、フリップ、ルッツ、アクセル）および回転数による - リフト（ペア）について：リフトのグループ（1～5）、名称および難度レベルによる - ツイスト・リフト（ペア）について：回転数および難度レベルによる - デス・スパイラル（ペア）について：名称および難度レベルによる - その他の要素：名称および難度レベルによる。 	<p>難度レベルによる</p>

b) 要素の難度レベル

要素の難度レベルを決定する特性（特徴）の説明は、ISUコミュニケーションで公表・改訂する。

シングル&ペア・スケーティング	アイス・ダンス
リフト、ツイスト・リフト、デス・スパイラル（ペア）、スピンの、ステップ（シングルおよびペア）は、獲得した特徴の数に応じて5つの難度レベルに分類される。すなわち、獲得した特徴が無い場合にはベーシック・レベル、特徴が1つの場合にはレベル1、特徴が2つの場合にはレベル2、特徴が3つの場合にはレベル3、特徴が4つ以上の場合にはレベル4となる。	必須要素は、すべて、獲得した特徴の数に応じて5つの難度レベルに分類される。コレオグラフィック要素は、要素として定義される最低要件が満たされたとき当該要素として認められる。

c) 実施要素の出来栄え (GOE)

各ジャッジは、各要素の出来栄えを、エクセキューションのよい特徴および／または悪い特徴、エラーを考慮して、11段階のGOE尺度、すなわち+5, +4, +3, +2, +1, 基礎値 (BV), -1, -2, -3, -4, -5で採点する。第353条第1項h)の(i)および(ii)（シングル&ペア・スケーティング）および第1項i)（アイス・ダンス）に定められた要素は、「1つの単位」として評価する。GOEの採点ガイドラインは、ISUコミュニケーションで公表・更新する。

2. 違反要素／違反動作／違反ポーズ

演技中、第610条（シングル&ペア・スケーティング）、第704条第21項（リズム・ダンス）、第710条第3項（フリー・ダンス）で定められた違反要素／違反動作／違反ポーズを行った場合、それぞれに対して減点が与えられる（第353条第1項n)参照）。要素実行中に違反要素／違反動作を行った場合、違反要素／違反動作／違反ポーズに対する減点が適用されるとともに、当該要素は以下のようにコールされる。

- シングル&ペア・スケーティング：レベルB以上の要件が満たされた場合はレベルB
- アイス・ダンス：レベルB以上の要件が満たされた場合はレベルB, 満たされなかった場合はコレオグラフィック要素として認定されない（ノーレベル）。

上記以外の要素は「レベルなし」となる。

3. プログラム・コンポーネンツ（演技構成要素）

a) プログラム・コンポーネンツの定義

スケーター／ペア／カップルの演技全体を3つのプログラム・コンポーネンツに分けて採点する。3つのプログラム・コンポーネンツとは、コンポジション、プレゼンテーション、スケーティング・スキルのことである。

ペア・スケーティングとアイス・ダンスにおいては、両スケーターが等しく基準を満たさなければならない。

コンポジション

さまざまな種類の動きを意図をもって組み合わせる、独創的に組み合わせる、練り上げるなどして、調和、統一感、空間、形式、音楽構造とあらゆる面で全体として意味のある形に仕上げることができるか。

構成を評価する際には以下を考慮しなければならない。

- 統一感
- 要素中および要素間のつながり・つながり
- パターンおよび氷面の十分な利用
- 多次元的な動きと空間の利用
- 音楽のフレーズや表現形式を反映した振り付け

プレゼンテーション

音楽と構成を理解し、心を込め、全身かつ全力でそれを表現できているか。
プレゼンテーションを評価する際には以下を考慮しなければならない。

- 表現と投射
- エネルギーや動きの多様さ、メリハリ
- 音楽に対する感受性、タイミング
- ユニゾン、一体性、空間認識（ペア・スケーティング、アイス・ダンス）

スケーティング・スキル

ブレードとボディをコントロールし、ステップ、ターン、スケーティングなどスケートらしい動きができているか。

スケーティング・スキルを評価する際には以下を考慮しなければならない。

- 多彩なエッジ、ステップ、ターン、動き、方向
- エッジ、ステップ、ターン、動き、身体コントロールの精度
- バランスとなめらかな滑り
- 流れ
- パワーとスピード

b) プログラム・コンポーネンツの採点（演技構成の採点）

プログラムの演技終了後、第353条j)に従い、各ジャッジが、0.25から10まで0.25刻みの点数でプログラム・コンポーネンツを採点する。ジャッジが与える得点は、以下に示すプログラム・コンポーネンツの各段階に対応する：1未満 - きわめて劣る、1～1.75 - 非常に劣る、2～2.75 - 劣る、3～3.75 - 弱い、4～4.75 - まあまあ、5～5.75 - 平均的、6～6.75 - 平均以上、7～7.75 - よい、8～8.75 - 非常によい、9～9.75 - 卓越、10 - 傑出。0.25の刻みは、ある特徴は1つの段階にあり、他の特徴はその上の段階にあるというような演技を評価する際に用いる。

演技構成点の採点ガイドラインはISUコミュニケーションで公表・更新する.

4. 減点

減点は定められた規程違反に対して与えられる（第353条参照）.

第505条～第510条（予備）

III. 競技会のための技術規程

シングル&ペア・スケーティングおよび アイス・ダンス

A. 総則

第511条

参加申込者および役員パネルの発表

ISUイベント以外の競技会やカテゴリーにおいて規定順守を確認するため、ISUコミュニケーションで公表された世界ランキング考慮要件として、申し込み締め切り後、競技会の開始に先立つこと少なくとも7日までに、組織委員会は、参加申込者と役員の非公式発表を行わなければならない。世界ランキングの対象とならない競技会やカテゴリーの場合、本項の適用は任意である。

第512条

抽選

1. 滑走順の抽選は、すべての競技部分について、レフェリーが公開で行う。レフェリーは組織委員会に競技者および役員の名前の正しいスペリングを確認するよう、要求すべきである。
2. 滑走順の抽選は、競技者が立ち会っている場合には各競技者が行い、居なければ競技者の所属するISUメンバーの有資格役員代表または組織委員会の委員が行う。
3. 参加申込者と役員団の公式発表は、その競技会で滑走順の抽選を初めて行うとき、各競技会のレフェリーが行う。ISUイベントおよびオリンピック冬季大会については、手続きが異なる場合がある。

第513条

滑走順の抽選

イベントの各競技部分における競技者の滑走順抽選は、以下のように行う。

1. ショート・プログラム／リズム・ダンスまたはパターン・ダンス
 - a) i) 抽選の開始ISUメンバーを抽選する競技者を選ぶ。

- ii) 開始ISUメンバーに抽選されたISUメンバーから始め、アルファベット順に1人ずつ滑走順を抽選していく。

ISU選手権大会およびオリンピック冬季大会においては、この手続きを用いない（第520条第1項参照）。フィギュア・スケートのISUグランプリ・シリーズ（シニア）、ISUグランプリ・ファイナル（シニアおよびジュニア）においても、この手続きは用いない（第513条第1項c）。

- b) パターン・ダンスで2つのパターン・ダンスが滑走される場合には、以下のように行う。
- カップルを2グループに分ける。カップルの数が奇数の場合には第2グループのカップル数を第1グループより1組多くする。
 - 2つ目のパターン・ダンス課題は第2グループの1番目のカップルから開始し、第2グループの残りのカップルが抽選の順番でこれに続く。第2グループに続けて第1グループのカップルが1番目のカップルから滑走する。
 - 参加者が2カップルのみの場合にかぎり、本項の適用を除外できる。この場合、1番目のカップルがいずれのパターン・ダンスでも第1滑走者となる。ただし、両カップルが同意した場合に限る。
- c) フィギュア・スケートのISUグランプリ・シリーズ（シニア）、ISUグランプリ・ファイナル（シニアおよびジュニア）
- i) フィギュア・スケートISUグランプリ・シリーズ（シニア）：各ISUグランプリでは、まず、開催時におけるISU世界ランキングの順に参加選手をリストアップする。ショート・プログラム／リズム・ダンスの滑走順はISU世界ランキングの逆順とする。世界ランキングが同順位の場合は抽選で滑走順を決める。ISU世界ランキングのポイントを持たないスケーター／カップルはISU世界ランキングによるリストの後ろに、ISUメンバーのアルファベット順で並べるものとする。世界ランキング・ポイントのないスケーター／カップルについては第513条第1項a)に従って抽選を行い、滑走順を決める。
- ii) フィギュア・スケートISUグランプリ・ファイナル（シニアおよびジュニア）：ショート・プログラム／リズム・ダンスの滑走順はフィギュア・スケートISUグランプリ・シリーズ（シニアおよびジュニア）の最終ランキングの逆順とする。同順位の場合は抽選で滑走順を決める。

2. フリー・スケートティング／フリー・ダンス

- a) フリー・スケートティングの滑走順はショート・プログラム／リズム・ダンスまたはパターン・ダンスの結果から決める。
- b) 前に行われた競技部分の結果が確定し次第、レフェリーは少なくとも1名の選手の立ち会いのもとに、前に行われた競技部分の結果順となる形で、グループ数が最も少なくなるように競技者を同人数のグループに分割する（技術規程の表Iを参照）。
- c) 競技者の数を等しく分割することが不可能な場合には、最後に滑走するグループ（必要ならその前のグループも）の競技者数を第1グループよりも1人（1組）多くしなければならない。最下位のグループが最初に滑走し、残るグループの中で最下位のグループが次に滑走し、以下同様に行う。
- d) 前に行われた競技部分の終了時に2競技者以上が同順位となった場合、当該競技者は同じグループ内で抽選を行う。必要な場合には、直前に滑走するグループをその競技者数だけ少なくし、その分、直後のグループを多くする。
- e) 各グループ内の滑走順は抽選によって決める。各競技者は前の競技部分における順位にしたがって、すなわち同順位のカップルも含め上位競技者から順に抽選を行う。同順位の競技者の抽選の順番は、本抽選に先立つ予備抽選で決定する。

ISUイベント、オリンピック冬季大会、ユース・オリンピック冬季大会については以下のとおりとする。

- f) 女子および男子：最終2グループ（つまり上位選手）の滑走順は4つのサブグループに分けて抽選する。
 - i) ショート・プログラムの上位3名は最終グループの後半に滑るものとし、第1サブグループで抽選を行う。
 - ii) ショート・プログラムの4位、5位、6位は最終グループの前半に滑るものとし、第2サブグループで抽選を行う。
 - iii) ショート・プログラムの7位、8位、9位は最終ひとつ前のグループの後半に滑るものとし、第3サブグループで抽選を行う。
 - iv) ショート・プログラムの10位、11位、12位は最終ひとつ前のグループの前半に滑るものとし、第4サブグループで抽選を行う。
- g) ペア：最終2グループ（つまり上位選手）の滑走順は4つのサブグループに分けて抽選する。

- i) ショート・プログラムの上位2組は最終グループの後半に滑るものとし、第1サブグループで抽選を行う。
 - ii) ショート・プログラムの3位、4位は最終グループの前半に滑るものとし、第2サブグループで抽選を行う。
 - iii) ショート・プログラムの5位、6位は最終ひとつ前のグループの後半に滑るものとし、第3サブグループで抽選を行う。
 - iv) ショート・プログラムの7位、8位は最終ひとつ前のグループの前半に滑るものとし、第4サブグループで抽選を行う。
- h) アイス・ダンス：最終2グループ（つまり上位選手）の滑走順は4つのサブグループに分けて抽選する。
- i) リズム・ダンスの上位3組は最終グループの後半に滑るものとし、第1サブグループで抽選を行う。
 - ii) リズム・ダンスの4位、5位は最終グループの前半に滑るものとし、第2サブグループで抽選を行う。
 - iii) リズム・ダンスの6位、7位、8位は最終ひとつ前のグループの後半に滑るものとし、第3サブグループで抽選を行う。
 - iv) リズム・ダンスの9位、10位は最終ひとつ前のグループの前半に滑るものとし、第4サブグループで抽選を行う。
 - v) サブグループが上限より小さくなる場合は調整を行う。エントリー数が偶数の場合は等しい大きさのサブグループに分割し、奇数の場合は後から滑るほうのサブグループを前に滑るサブグループより1人あるいは1組大きくする。

フィギュア・スケートのISUグランプリ・シリーズ（シニア）およびISUグランプリ・ファイナル（シニアおよびジュニア）

フリー・スケート／フリー・ダンスの滑走順はショート・プログラム／リズム・ダンス終了時順位の逆順とする。

他の国際競技会においては、本条e)項からh)項に基づいて滑走順を定めるか、あるいは、ショート・プログラム／リズム・ダンスにおける順位の逆順とするか、オーガナイザーが選ぶ。なお、どちらの方法を選ぶのか、大会要項に記載すべきである。

3. 次の競技部分へ進むことができる成績を得た競技者の中の1人（組）以上が次の競技部分の開始前に棄権した場合、空いた枠が他の競技者に代わられることはなく、次の競技部分に進むことのできる競技者の最大数は棄権した競技者の数だけ減る。

次の競技部分の滑走順を抽選した後に棄権が発表された場合、滑走順およびウォームアップ・グループの滑走順は変更せず、棄権者の枠は空けたままとする。

4. 次の競技部分へ進むことができる成績を得た競技者の中の1人（組）以上が次の競技部分の開始前に失格となった場合、当初は次の競技部分に進むことができなかった競技者の中で先の競技部分で最も上位に位置する競技者が空いた枠に補充される。

そのような競技者は、第1ウォームアップ・グループの第1滑走者となり、他の競技者ととともにこのウォームアップ・グループを構成する。また、必要に応じて以下の措置をとる。

- i) 最初のサブグループに追加された競技者の滑走順は、追加で別途抽選を行って決定する。
- ii) 第514条第3項を適用する。

第514条 ウォームアップ時間

1. ウォームアップ時間は、すべての競技者に割り当てなければならない。
2. ウォームアップ・グループの最大競技者数およびその時間は下記のとおり（技術規程の表Ⅱ参照）：
 - a) シングル・スケーティング（ショート・プログラム、フリー・スケーティング）－6分間、最大6名
 - b) ペア・スケーティング - ショート・プログラム、フリー・スケーティング－6分間、最大4組
 - c) アイス・ダンス（パターン・ダンス）－3分間。音楽なしで30秒間の後、ISUアイス・ダンス音楽の最後（6番目）の曲を2分30秒間流す。最大6カップル
 - d) アイス・ダンス（リズム・ダンス、フリー・ダンス）
 - i) リズム・ダンス、フリー・ダンス（ジュニア／シニア）－5分間、最大5カップル
 - ii) フリー・ダンス（全ノービスカテゴリー）－3分間、最大5カップル
3. 第513条第4項の同順位者や追加者によってグループの人数が増加した場合、シングル・スケーティングにおいては、ウォームアップ・グループの最大許容人数を1名超えるグループまでは同一のウォームアップ・グループとしてよい。しかし、最大許容人数をシングル・スケーティングにおいては2名以上、ペアまたはアイス・ダンスの場合は1組以上超える場合、そのグループは別々にウォームアップする2つのサブグループに分割する。各サブグループのウォームアップはそれぞれのサブグループの競技滑走直前に行う。

4. ウォームアップは、そのウォームアップ・グループの競技滑走直前に行う。予期せぬ事態によって、競技部分が10分間以上中断した場合、関連する競技者には、第2項に定める競技部分ごとの時間を2回目のウォームアップとして与える。

第515条

中断、音楽の不具合、不運な条件、不完全な演技

1. 中断とは、競技者が演技を止めた瞬間あるいは演技を止めるようレフェリーが指示した瞬間のいずれか早いほうから、競技者が演技を再開した瞬間までを指す。
レフェリーは、いつが中断の瞬間であるのかを判断し、それを競技者、ジャッジ、テクニカル・コントローラーに伝える。競技者は、下記第2項、第3項、第4項、第5項に従ってプログラムを再開するものとする。
テクニカル・パネルは、中断が要素の入りあるいは要素中であったか否かを判断する。結果はテクニカル・コントローラーがレフェリーへ伝えるものとする。
2. 音楽の不具合：
音楽のテンポや質に問題があった場合、または、なにがしかの理由で音楽が中断あるいは停止した場合、競技者は、そうと気づいた時点あるいはレフェリーの合図音のいずれか早いほうで滑走を止めなければならない。
 - a) 音楽関連の問題がプログラム開始から20秒以内に起きた場合、競技者は、中断箇所から続けるか、最初からやり直すかを選ぶことができる。最初からやり直した場合、ジャッジおよびテクニカル・パネルはプログラムを最初から評価し、中断までの評価は破棄される。中断箇所から続けた場合、ジャッジおよびテクニカル・パネルは演技再開の瞬間から評価を継続し、中断までの評価は維持される。

- b) 音楽関連の問題がプログラム開始から20秒以降に起きた場合、競技者は、中断箇所から続けるものとする。ただし、中断が要素の入りあるいは要素中であった場合には、その要素の直前から再開する。中断前にテクニカル・パネルが当該要素を識別し、コールしていた場合、その要素は実施要素のリストから削除する。競技者は、プログラム再開後、当該要素をくり返すことができる。
- 音楽の不具合による中断は減点の対象としない。

3. 競技者やその装備と関係のない不運な条件 競技者やその装備と関係のない不運な条件、たとえば照明、氷質、氷上に投げこまれた物など、が発生した場合、競技者は、そうと気づいた時点で滑走を止め、その旨、レフェリーに報告することができる。なお、レフェリーが音で合図したら滑走を止めなければならない。

問題が解消されたら、競技者は、中断したところから再開する。なお、中断が要素の入りあるいは要素中であった場合には、その要素の直前から再開するものとする。中断前にテクニカル・パネルが当該要素を識別し、コールしていた場合、その要素は実施要素のリストから削除する。競技者は、プログラム再開後、当該要素をくり返すことができる。

中断が10分を超えて続いた場合は、第514条第2項に従い、2回目のウォームアップの時間が与えられるものとする。その後、競技者は、中断したところから再開する。なお、中断が要素の入りあるいは要素中であった場合には、その要素の直前から再開するものとする。

競技者やその装備と関係のない不運な条件による中断は減点の対象としない。

4. プログラム中に発生した競技者および／またはその装備と関係のある不運な条件

プログラム中に競技者本人あるいはその装備と関係のある不運な条件が発生した場合（たとえば健康問題、鼻血、ひものほどけ、衣装やスケート靴の破損などが挙げられるが、これに限るものではない）、あるいは、競技者がケガをした場合、競技者は、そうと気づいた時点あるいはレフェリーの合図音のいずれか早いほうで滑走を止めなければならない。音楽は、下記b)項に従ってレフェリーが音楽担当者に停止を命じた場合にのみ停止するものとする。

中断の長さ

a) 40秒以下

不運な条件を遅滞なく解消できる場合、競技者はレフェリーに報告する必要がなく、音楽の演奏も継続する。競技者が40秒以内に演技を再開した場合、レフェリーは第353条第1項n)に定められた減点を適用する。

b) 3分以下

競技者が40秒以内に演技を再開しなかった場合、レフェリーは音楽を停止するよう担当者に命じるとともに3分間の追加猶予を競技者に与える。この追加時間内に演技が再開された場合、レフェリーは第353条第1項n)に定められた減点5.0を適用する。この減点は、追加の3分間に先立つ40秒の中断もカバーするものである。

問題が解消されたら、競技者は、中断したところから再開する。なお、中断前にテクニカル・パネルがコールした要素の入りあるいは要素中に中断した場合には、その要素の直後から再開し、中断前のコールは維持されるものとする。

3分間の追加猶予後に再開が許されるのは各回の演技において1回のみである。その後また、競技者やその装備と関係のある不運な条件によって40秒以上の演技中断が起きた場合は棄権扱いとなる。

5. 医療行為が必要な場合、レフェリーは、合図音で演技を止めるよう競技者に指示し、その後、メディカル・プロトコル（コミュニケーション2267号あるいはその改訂版）に従う。また、音楽は止めるよう担当者に指示する。競技復帰の可否は、当該チームの医師（そのような医師がいない場合はオーガナイザーが手配した医師）と相談し、レフェリーが判断する。演技中断から3分以内にレフェリーが競技復帰を許可しなかった場合、その競技者は棄権となる。レフェリーが演技の継続を認めた場合、減点はなしとする。

問題が解消されたら、競技者は、中断したところから再開する。なお、中断前にテクニカル・パネルがコールした要素の入りあるいは要素中に中断した場合には、その要素の直後から再開し、中断前のコールは維持されるものとする。

6. プログラム開始前に起きた不運な条件と3分間の猶予

- i) コールされてから開始の姿勢を取るまでの間に競技者やその装備と関係のある不運な条件が発生し、60秒（第350条第2項）では解消できない場合、レフェリーは、第353条第1項n)に定める減点5.0を適用した上で、3分間の猶予を追加で与えるものとする。

- ii) 競技者が氷に乗ってからコールされるまでの間に競技者やその装備と関係のある不運な条件が発生し、演技開始までの時間では問題を解消できない場合、レフェリーは、第353条第1項n)に定める減点5.0を適用した上で、コールまで3分間の猶予を追加で与えるものとする。
7. ウォームアップ中の不運な条件
- ウォームアップ・グループの第1滑走者について競技者やその装備と関係のある不運な条件が発生し、スタートの呼び出しがあるまでの時間では問題を解消できない場合、レフェリーは、減点なしで、コールまで3分間の猶予を追加で与えるものとする。なお、上記第4項b)において本項は再開としてカウントしないものとする。
8. 許される中断回数の上限
- 許されるのは、プログラム開始前またはプログラム中に3分間以内の中断1回までである。競技者やその装備と関係のある不運な条件（医療系の問題を含む）によって40秒以上の演技中断が複数回起きた場合は棄権扱いとなる。
9. 不完全な演技
- 競技者が演技を完遂できなかった場合、得点が与えられることはなく、当該競技者は棄権とみなす。

第516条～第519条（予備）

B. ISU選手権大会－特別技術規程

第520条 競技者の抽選

1. 2022～2023シーズン以降のISU選手権大会において、ショート・プログラム／リズム・ダンスおよび予選となるフリー・スケートティング／フリー・ダンス（予選を行う場合）の滑走順抽選は、最新の世界ランキングに基づき、以下のように行う。世界ランキングは、ISUコミュニケーションに公表された方法で算出する。
 - a) 抽選では、まず、当該競技会のチーム・リーダーズ・ミーティングを開催する時点における最新のISU世界ランキングに従って選手を並べる。
 - b) 本技術規程の表Ⅰに従い、エントリー数に応じた滑走順グループに選手を分ける。
 - c) 滑走順グループごとに、選手を二等分してふたつのサブグループに分ける。選手の数が奇数の場合は、滑走順の数字が大きくなるほうのサブグループが1スケーター／ペア／カップル多くなるようにする。
 - d) サブグループごとに自由抽選を行う。なお、抽選は、世界ランキング上位のスケーター／ペア／カップルから順に行う。
 - e) 世界ランキングが同順位の競技者がいた場合、同順位の競技者間で別の抽選を行い、本抽選の順番を決める。滑走順のグループあるいはサブグループの境目が世界ランキング同順位であった場合、同順位の競技者全員を後ろのグループあるいはサブグループに入れ、その結果、前のグループあるいはサブグループは、後ろに追加された分だけ人数が減る。ただし、ショート・プログラム／リズム・ダンスおよび予選のフリー・スケートティング／フリー・ダンスの場合、この手続きでグループのサイズを変えることはせず、技術規程の表Ⅱに示すグループでウォームアップを行う。
 - f) ISU世界ランキングのポイントを獲得していないスケーター／ペア／カップルは、リストの末尾に国順に並べる。世界ランキングのないスケーター／ペア／カップルについては、基本的な抽選方法により、別個に抽選を行って滑走順を決める。
2. ショート・プログラム／リズム・ダンスの結果にもとづき、シングル・スケートティングでは上位24名、ペア・スケートティングでは上位16組（世界選手権大会では上位20組）、アイス・ダンスでは上位20組のみがフリー・スケートティング／フリー・ダンスに進出する。

2024～2025シーズン以降、ショート・プログラム／リズム・ダンスの結果がシングル・スケーティングでは1～24位、ペア・スケーティングでは1～16位、アイス・ダンスでは1～20位の選手のみが予選を通過し、最終のフリー・スケーティング／フリー・ダンスへ進むものとする。

3. フリー・スケーティング／フリー・ダンスの滑走順は、女子と男子については第513条第2項のf)、ペアについてはg)、アイス・ダンスについてはh)に従って決定する。
4. ショート・プログラム／リズム・ダンスで同順位の競技者が、シングル・スケーティングの24位、ペア・スケーティングの16位（世界選手権大会では20位）、アイス・ダンスの20位において発生した場合、同順位の競技者全員がフリー・スケーティング／フリー・ダンスに進出し、同じ（第1）グループで抽選を行う。必要に応じて第514条第3項を適用する。

2024～2025シーズン以降、ショート・プログラム／リズム・ダンスの結果が、シングル・スケーティングで24位、ペア・スケーティングで16位、アイス・ダンスで20位において同順位となった場合、同順位の選手全員が最終のフリー・スケーティング／フリー・ダンスへ進むものとする。そのとき、同順位の選手は全員、同じ（第1）グループに入るものとする。必要な場合には、規程第514条第3項を適用する。

第521条 ジャッジ団の抽選

1. ISU選手権大会のジャッジ団は、現行リストでISUジャッジと認められているジャッジのみで構成され、すべてのジャッジの所属はISUと呼称されなければならない。
2. 各ISUメンバーは毎年10月1日までに、ジャッジの数のみによる参加申込を行い、抽選に参加しようとしているISU選手権大会名および個別の競技種目名を示さねばならない。

申し込みが必要なのは以下の大会である。

- a) 欧州のISUメンバーのみが申し込める大会
 - i) ヨーロッパ・フィギュア・スケート選手権大会
- b) すべてのISUメンバーが申し込める大会
 - i) 四大陸フィギュア・スケート選手権大会
 - ii) 世界ジュニア・フィギュア・スケート選手権大会
 - iii) 世界フィギュア・スケート選手権大会

3. 申し込み時、各ISUメンバーは、ペア・スケーティング種目を担当できるジャッジか否かを明らかにしなければならない。ISU選手権大会におけるペア・スケーティングのジャッジ実績がないジャッジは、ISU選手権大会の抽選に先立つ48カ月の間に国際競技会とISUイベント、両方でペア・スケーティングのジャッジ職務を適切に果たした実績がないかぎり、ペア・スケーティングのジャッジを務めることができない。
4. 登録の原則および制約
- a) 各ISUメンバーは、所属するジャッジが当該種目の有資格者で、所属するスケーター／ペア／カップルが前年度の同じ選手権大会に少なくとも1名／組参加した種目に、1名のジャッジを（名前ではなく）数で登録できる。ただし、その参加選手は、少なくとも1つの競技部分を全うしている必要がある。
 - b) 1つのISUメンバーは1つの選手権大会の4種目すべてにジャッジを派遣することができる。
 - c) ISU選手権大会においては、1人のジャッジが複数種目を担当してはならない。
 - d) ISUメンバーは、選出された各ISU選手権大会の各種目に対して、サブスティテュート・ジャッジ1名を含むジャッジの名前を、そのISU選手権大会の初日（公式練習初日）の21日前までに登録する。
 - e) 推薦したジャッジにやむを得ない変更があった場合、担当スポーツ技術局員、ISU事務局、組織委員会に最も速い電子的通信手段で通知しなければならない。
 - f) ISUメンバーによって推薦されたジャッジは、参加しており役目を務められるはずであり、選出された場合には与えられた任務を遂行しなければならない。
 - g) ISU会長またはフィギュア・スケーティング部門副会長は、選手権大会においてジャッジ団を構成するためのジャッジが不足している場合、上記規則第a)項およびc)項による制約を改定してもよい。
5. 抽選手順
- a) すべてのISU選手権大会のジャッジ団の抽選は、毎年10月1日から11月15日の間に行う。抽選はすべてのISUメンバーに対して公開する。派遣費用は各ISUメンバーの負担であるが、各ISUメンバーは代表者を1名派遣することができる。抽選は、認定されたスイスの監査役の立会いの下、スイスで行う。抽選を取り仕切る人物はISU会長が任命する。

- b) ジャッジ団を構成する抽選は、どの種目から抽選を始めるかを定める予備抽選から始める。
 - c) 各ジャッジ団の構成は、最大9名、最小8名である。
 - d) 各選手権大会の各競技部分（ショート・プログラム、リズム・ダンス、フリー・スケーティング、フリー・ダンス）のジャッジ団を決める抽選は、第5項a)の本抽選およびその選手権大会が開催される現地において行う。
 - e) 各ISU選手権大会の抽選手順は別途記載する。
 - f) 競技会の各競技部分におけるジャッジ団の席順は、ジャッジ控え室において各種目のレフェリーが手作業で決定する。
6. ヨーロッパ選手権大会, 世界フィギュア・スケート選手権大会, 世界ジュニア・フィギュア・スケート選手権大会
- a) ヨーロッパ選手権大会のジャッジ団を構成するための抽選には、ジャッジを登録したヨーロッパのISUメンバーのみが参加する。世界選手権大会および世界ジュニア選手権大会のジャッジ団を構成するための抽選には、各選手権大会にジャッジを登録したすべてのISUメンバーが参加する。
 - b) ジャッジ団の抽選順は無作為抽選によって決めるが、ペア種目のジャッジ団は最後に抽選されなければならない。
 - c) 当該種目に対してジャッジを数により登録しており、前年の同じ選手権大会の同一種目にスケーター／ペア／カップルが参加し、そのスケーター／ペア／カップルが少なくとも1つの競技部分において演技を終了しているISUメンバーの中から13カ国のISUメンバーを選出する。
 - d) 参加可能なISUメンバーが必要数に満たない場合、最大13名からなるジャッジ団を構成するために、参加可能で採点する意思があるがまだ当該パネルに選出されていないISUメンバー全員の中で追加抽選を行う。
 - e) 9名からなるジャッジ団を構成するため、選手権大会の現地において、この種目に選出されたすべてのジャッジの立会いのもと、当該種目の各競技部分の開始45分前に、レフェリーが公開無作為抽選を行う。

- f) 種目の最初の競技部分では、当該種目に選出されている13名のジャッジの中から9名のジャッジを選出する。ジャッジの席順は選出順とする。
- g) 種目の第2競技部分では、最初の競技部分において選出されなかった4名のジャッジが、第2競技部分の9名のジャッジ団に自動的に割り当てられ、すでに第1競技部分を務めた他のすべてのジャッジは、9名からなるジャッジ団を構成するため抽選に参加する。ジャッジ9名の席順は別の抽選で決定する。
- h) 本選手権大会中において、選出され、名前で登録されているジャッジが出席しておらず、かつ同ISUメンバーの登録されたサブスティチュート・ジャッジが参加不可能であるとき、そのジャッジが所属する同じISUメンバーの別のジャッジで当該種目にサブスティチュート・ジャッジとして登録していないジャッジと交代することはない。もし必要であれば、すでに当該ジャッジ団に選出されているジャッジを除き、当該種目に参加可能なすべてのジャッジを対象として、抽選を行い、最大9名からなるジャッジ団を構成する。
- i) 第2競技部分における最大4名のジャッジを抽選するISUメンバー数が依然として不足している場合、当該種目に申し込みをしており、適格であり、当該パネルにまだ選出されていないISUメンバーを優先し、すべてのISUメンバーの中から4名までの予備ジャッジを抽選する。これらの予備ジャッジは、必要があれば7日間の標準通知期間において、現地に召集する。ただし、指名を受けたパネルを務める選出ジャッジ数が現地において不足しており、予備ジャッジをそれ以上召集できない場合は、出席しているすべてのジャッジのうち、すでに選手権の他のパネルに選出されているが当該パネルにはまだ選出されておらず、参加する意思があり、適格であり、務めることができる者の中から抽選を行う。

7. 四大陸フィギュア・スケート選手権大会

- a) 四大陸フィギュア・スケート選手権大会のジャッジ団を構成する抽選では、四大陸に所属するISUメンバーが最優先となる。
- b) ジャッジ団の抽選順は無作為抽選によって決めるが、ペア種目のジャッジ団は最後に抽選されなければならない。
- c) 四大陸のすべてのISUメンバーの中から、10ヶ国のISUメンバーを選出する。これらのISUメンバーは、当該種目に対してジャッジを数により登録しており、前年の四大陸フィギュア・スケート選手権大会の同一種目にスケーター／ペア／カップルが参加しており、そのスケーター／ペア／カップルが少なくとも1つの競技部分において演技を終了している必要がある（第4項a)参照）。

- d) 該当する四大陸ISUメンバーだけでは、いずれの競技種目であっても最初の競技部分を担当するジャッジが不足する場合、他の種目にジャッジを出して、かつ、ペア・スケートやアイス・ダンスも担当できるジャッジがいるとエントリー時に数字で示しているISUメンバー（フィギュア・スケート）から優先的にジャッジを選出し、当該ジャッジ団を完成させる。そこまでしてもなお当該種目の最初の競技部分を担当するジャッジが不足する場合、欧州のISUメンバーからジャッジを選出してジャッジ団を完成させる。
- e) 同選手権大会の場合、競技種目ごとに最初の各競技部分については、第7項d)およびe)に示されている手順に従うものとする。第2競技部分について、最大4名のジャッジを選出するにはISUメンバーが足りない場合、当該種目に申し込みをしていて適格であり、当該ジャッジ団に選出されていないISUメンバーを優先する形で、全ISUメンバーから最大4名の予備ジャッジを選出する。
- f) この種目に選出された全ジャッジ立会いのもと、各競技部分の開始45分前に、レフェリーが公開無作為抽選を行う。
- g) 最初の競技部分については、当該種目に選出されたジャッジ10人から9人を選出する。ジャッジの席順は選出順とする。最初の競技部分のジャッジ団が四大陸と欧州、両方のISUメンバーを含む場合、四大陸ISUメンバーのジャッジを先に選出する。その後、ジャッジ団が9人になるまで欧州ISUメンバーのジャッジを選出する。
- h) 各競技種目の第2競技部分については、まず、最初の競技部分に選出されなかったジャッジが自動的に選出される。続いて、最初の競技部分を担当したジャッジ全員から抽選し、9人のジャッジ団を完成させる。なお、このとき、当該競技種目にエントリーしている四大陸ISUメンバーのジャッジについて抽選を行い、その後、欧州ISUメンバーのジャッジについて抽選を行う。第2競技部分を担当するジャッジ9人の席順は、別途抽選で決定する。

8. a) ISU会長は、特別の場合には本条の適用において変更を行う権限を有する。会長に時期を逃さずに連絡が取れない場合、フィギュア・スケーティング部門の副会長が例外的な状況での変更を許可する。選手権大会の現地に会長およびフィギュア・スケーティング部門の副会長が不在である場合、ISU代表が例外的な状況での変更を許可する。
- b) 本条で規定されている締切日の後での申し込みについては、一般規程第115条第5項が適用される。

I. 滑走順グループのサイズ（第513条）

競技者数	シングル フリー・スケート ング 6人以下	ペア フリー・スケート 4組以下	フリー・ダンス 5組以下
2	1+1	1+1	1+1
3	1+2	1+2	1+2
4	2+2	2+2	2+2
5	2+3	2+3	2+3
6	3+3	3+3	3+3
7	3+4	3+4	3+4
8	4+4	4+4	4+4
9	4+5	3+3+3	4+5
10	5+5	3+3+4	5+5
11	5+6	3+4+4	3+4+4
12	6+6	4+4+4	4+4+4
13	4+4+5	3+3+3+4	4+4+5
14	4+5+5	3+3+4+4	4+5+5
15	5+5+5	3+4+4+4	5+5+5
16	5+5+6	4+4+4+4	4+4+4+4
17	5+6+6	3+3+3+4+4	4+4+4+5
18	6+6+6	3+3+4+4+4	4+4+5+5
19	4+5+5+5	3+4+4+4+4	4+5+5+5
20	5+5+5+5	4+4+4+4+4	5+5+5+5
21	5+5+5+6	3+3+3+4+4+4	4+4+4+4+5
22	5+5+6+6	3+3+4+4+4+4	4+4+4+5+5
23	5+6+6+6	3+4+4+4+4+4	4+4+5+5+5
24	6+6+6+6	4+4+4+4+4+4	4+5+5+5+5
25	5+5+5+5+5	3+3+3+4+4+4+4	5+5+5+5+5
26	5+5+5+5+6	3+3+4+4+4+4+4	4+4+4+4+5+5
27	5+5+5+6+6	3+4+4+4+4+4+4	4+4+4+5+5+5
28	5+5+6+6+6	4+4+4+4+4+4+4	4+4+5+5+5+5
29	5+6+6+6+6	3+3+3+4+4+4+4+4	4+5+5+5+5+5
30	6+6+6+6+6	3+3+4+4+4+4+4+4	5+5+5+5+5+5
31	5+5+5+5+5+6	3+4+4+4+4+4+4+4	4+4+4+4+5+5+5
32	5+5+5+5+6+6	4+4+4+4+4+4+4+4	4+4+4+5+5+5+5
33	5+5+5+6+6+6	3+3+3+4+4+4+4+4+4	4+4+5+5+5+5+5
34	5+5+6+6+6+6	3+3+4+4+4+4+4+4+4	4+5+5+5+5+5+5
35	5+6+6+6+6+6	3+4+4+4+4+4+4+4+4	5+5+5+5+5+5+5
36	6+6+6+6+6+6	4+4+4+4+4+4+4+4+4	4+4+4+4+5+5+5+5

II. ウォームアップ・グループのサイズ (第514条)

競技者数	シングル ショート・プログラム フリー・スケート ティング 6人以下	ペア・スケート ティング ショート・プログラム フリー・スケート ティング 4組以下	アイス・ダンス リズム・ダンス, フリー・ダンス 5組以下	アイス・ダンス パターン・ダンス 6組以下
4	4	4	4	4
5	5	2+3	5	5
6	6	3+3	3+3	6
7	3+4	3+4	3+4	3+4
8	4+4	4+4	4+4	4+4
9	4+5	3+3+3	4+5	4+5
10	5+5	3+3+4	5+5	5+5
11	5+6	3+4+4	3+4+4	5+6
12	6+6	4+4+4	4+4+4	6+6
13	4+4+5	3+3+3+4	4+4+5	4+4+5
14	4+5+5	3+3+4+4	4+5+5	4+5+5
15	5+5+5	3+4+4+4	5+5+5	5+5+5
16	5+5+6	4+4+4+4	4+4+4+4	5+5+6
17	5+6+6	3+3+3+4+4	4+4+4+5	5+6+6
18	6+6+6	3+3+4+4+4	4+4+5+5	6+6+6
19	4+5+5+5	3+4+4+4+4	4+5+5+5	4+5+5+5
20	5+5+5+5	4+4+4+4+4	5+5+5+5	5+5+5+5
21	5+5+5+6	3+3+3+4+4+4	4+4+4+4+5	5+5+5+6
22	5+5+6+6	3+3+4+4+4+4	4+4+4+5+5	5+5+6+6
23	5+6+6+6	3+4+4+4+4+4	4+4+5+5+5	5+6+6+6
24	6+6+6+6	4 +4+4+4+4+4	4+5+5+5+5	6+6+6+6
25	5+5+5+5+5	3+3+3+4+4+4+4	5+5+5+5+5	5+5+5+5+5
26	5+5+5+5+6	3+3+4+4+4+4+4	4+4+4+4+5+5	5+5+5+5+6
27	5+5+5+6+6	3+4+4+4+4+4+4	4+4+4+5+5+5	5+5+5+6+6
28	5+5+6+6+6	4+4+4+4+4+4+4	4+4+5+5+5+5	5+5+6+6+6
29	5+6+6+6+6	3+3+3+4+4+4+4+4	4+5+5+5+5+5	5+6+6+6+6
30	6+6+6+6+6	3+3+4+4+4+4+4+4	5+5+5+5+5+5	6+6+6+6+6
31	5+5+5+5+5+6	3+4+4+4+4+4+4+4	4+4+4+4+5+5+5	5+5+5+5+5+6
32	5+5+5+5+6+6	4+4+4+4+4+4+4+4	4+4+4+5+5+5+5	5+5+5+5+6+6
33	5+5+5+6+6+6	3+3+3+4+4+4+4+4+4	4+4+5+5+5+5+5	5+5+5+6+6+6
34	5+5+6+6+6+6	3+3+4+4+4+4+4+4+4	4+5+5+5+5+5+5	5+5+6+6+6+6
35	5+6+6+6+6+6	3+4+4+4+4+4+4+4+4	5+5+5+5+5+5+5	5+6+6+6+6+6
36	6+6+6+6+6+6	4+4+4+4+4+4+4+4+4	4+4+4+4+5+5+5+5	6+6+6+6+6+6

III. 技術規程

シングル&ペア・スケーティング

A. シングルおよびペア・スケーティングの要素

第600条～第609条（予備）

第610条

シングルおよびペア・スケーティングにおける 要素の要件および違反要素／違反動作

ジャンプ要素

「ジャンプ要素」には、単独ジャンプ、ジャンプ・コンビネーション、ジャンプ・シーケンスがある。

ジャンプ・コンビネーション

ジャンプ・コンビネーションにおいては、ジャンプの着氷足が、次のジャンプの踏み切り足となる。ジャンプとジャンプの間に氷上で完全に1回転回った場合（体重移動を伴わなければ、フリー・フットの氷へのタッチ・ダウンがあってもよい）でも、その要素はジャンプ・コンビネーションの定義の枠組みに入っている。オイラー（ハーフ・ループ）は、コンビネーションで2つの表内ジャンプの間で用いられると、SOV表に示された価値を持つ表内ジャンプとなる。

2つのジャンプからなるジャンプ・コンビネーションの第1ジャンプが失敗し「表外ジャンプ」になった場合、その一連の要素は依然としてジャンプ・コンビネーションとしてみなされる。

ジャンプ・シーケンス

ジャンプ・シーケンスとは2つまたは3つのジャンプからなるもので（回転数に制限はない）、第2および/または第3ジャンプがアクセル系ジャンプであり、第1/第2ジャンプの着氷カーブから直接の踏み換えでアクセル・ジャンプの踏み切りカーブに移るものを指す。

1つのジャンプから次のジャンプまでの間に氷上で1回転しても（フリー・フットが氷に触れるのは構わないが、体重移動があってはならない）、ジャンプ・シーケンスの定義からは外れない。ジャンプ・シーケンス中に行われたジャンプには完全な価値が与えられる。

スピン

姿勢：3つの基本姿勢がある。すなわち、キャメル姿勢（フリー・レッグが後方に位置し、その膝がヒップより高い姿勢、ただし、レイバック、ビルマンおよび類似のバリエーションはそれでもアップライト・スピンとみなす） シット姿勢（スケーティング・レッグの大腿部が少なくとも氷面に平行） アップライト姿勢（キャメル姿勢を除き、スケーティング・レッグを伸ばして、または

少し曲げて行うすべての姿勢)。

レイバック・スピンとは、頭部および両肩部が後ろに傾き背が弓形のアップライト・スピンである。フリー・レッグの位置は自由である。サイドウェイズ・リーニング・スピンとは、頭部および両肩部が横に傾き上体が弓形のアップライト・スピンである。フリー・レッグの位置は自由である。

2回転の基本姿勢を伴わないスピンはレベルがなく無価値（ノーバリュー）であるが、3回転に満たないスピンはスピンではなくスケーティング動作とみなされる。1つの姿勢で必要な最少回転数は途切れない2回転である。この要求が満たされない場合、その姿勢は数えられない。

いかなるスピンにおいても、チェンジ・エッジは基本姿勢の中で行われた場合にのみ数えられる。頭、両腕またはフリー・レッグの位置の変化、回転速度の変動は許される。

いかなるスピンにおける足換えにも、足換え前後にスピン姿勢が少なくとも3回転なければならない。

スケーターがスピンの入りで転倒した場合やスピン中でいかなる失敗をした場合にも、この転倒あるいは失敗直後のスピンまたは回転動作は（時間を埋める目的で）許されるが、このスピン／動作は要素としては数えられない。

（足換えの前後の）回転軸が離れすぎ、“2つのスピン”の基準（第1部分の後に（エグジット）のカーブがあり、第2部分への入り（エントリー）のカーブもある）が満たされる場合、足換え前の部分のみがコールされレベル特徴についての考慮がされる。

スピン・コンビネーション：最低でも2つの異なる基本姿勢を含まなければならない。スピン中のいずれでもよいが、これらの姿勢はそれぞれ2回転ずつなければならない。完全な価値を獲得するためには、スピン・コンビネーションは3つの基本姿勢をすべて含まなければならない。非基本姿勢の回転数は総回転数に数えられる。非基本姿勢への姿勢の変更は、姿勢の変更とはみなされない。足換えは踏み換えまたはジャンプの形で行ってよい。足換えや姿勢の変更を行うのは同時または別々のいずれでもよい。

単一姿勢のスピンと（シングルにおける）フライング・スピン（足換えや姿勢変更のない、フライング・エントランスのスピンを意味する）：非基本姿勢は許され、規定で要求されている総回転数に数えられるが、（この姿勢では）レベル特徴は獲得できない。

単一姿勢のスピンとフライング・スピンでは、スピンを終了する際のアップライト姿勢（ファイナル・ワインドアップ）は、そのようなファイナル・ワインドアップにおいて（チェンジ・エッジ、姿勢変化などの）特徴が追加されない限り、回転数にかかわらず別姿勢とはみなされない。

スピンのジャンプで開始されるときには、踏み切り前の氷上での回転は許されず、ステップ・オーバー（宙に浮かないでまたいでいる状態）は、ジャッジによってGOEで考慮がされなければならない。

ステップ・シーケンス

すべてのステップ・シーケンスは音楽の特徴に合わせて行われなければならない。音楽に合った短い停止は許される。ステップ・シーケンスは氷面を十分に活用していなければならない。

ターンとステップは、シーケンス全体にバランスよく分布していなければならない。

違反要素／違反動作は以下のとおり。

- サマーソルト型ジャンプ
- 不正なホールドでのリフト

B. シングル・スケーティング

第611条

シングル・スケーティングのショート・プログラム

1. a) シングル・スケーティング（シニアおよびジュニア）のショート・プログラムは、7つの規定された必須要素で構成する。必須要素の演技順序は任意である。
b) プログラムは、競技者が選んだ音楽に合わせて滑ること。歌詞を伴うボーカル音楽も選ぶことができる。
c) 必須要素（実行されていない）を規定されていない要素や余分な要素（実行された）で代替した場合、当該ボックスはブロックされ、実行された要素は必須要素ではないとみなす（ノーバリュー）。
d) ジャンプ、スピン、ステップ、失敗した要素であつてもくり返しなど、リストアップされていない要素や余分な要素は採点されず、よつて、種類の異なる要素の「ボックス」（スポット）をブロックすることもない。
2. シニアのショート・プログラムは下記の必須要素により構成される。
男子
 - a) ダブルまたはトリプルのアクセル・パウルゼン
 - b) トリプルまたはクワドラプルのジャンプ
 - c) 2つのジャンプによつて構成されるジャンプ・コンビネーションで、1つのダブルと1つのトリプルから、あるいは2つのトリプルから、あるいは1つのクワドラプルと1つのダブルまたはトリプルからなるもの
 - d) フライング・スピン

- e) 足換えを1回のみ行うキャメル・スピンまたはシット・スピン
- f) 足換えを1回のみ行うスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

女子

- a) ダブルまたはトリプルのアクセル・パウルゼン
- b) トリプル・ジャンプ
- c) 2つのジャンプによって構成されるジャンプ・コンビネーションで、1つのダブルと1つのトリプルあるいは2つのトリプルからなるもの
- d) フライング・スピン
- e) レイバック／サイドウエイズ・リーニング・スピン、または、足換えないシット・スピンまたはキャメル・スピン
- f) 足換えを1回のみ行うスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

3. ジュニアのショート・プログラムは下記の必須要素により構成され、3つのグループがある。各年の7月1日に発効する各グループは以下のとおり。

2022～2023

男子

- a) ダブルまたはトリプルのアクセル・パウルゼン
- b) ダブルまたはトリプルのループ・ジャンプ
- c) 2つのジャンプによって構成されるジャンプ・コンビネーションで、1つのダブルと1つのトリプルあるいは2つのトリプルからなるもの
- d) フライング・キャメル・スピン
- e) 足換えを1回のみ行うシット・スピン
- f) 足換えを1回のみ行うスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

女子

- a) ダブル・アクセル・パウルゼン
- b) ダブルまたはトリプルのループ・ジャンプ
- c) 2つのジャンプによって構成されるジャンプ・コンビネーションで、2つのダブル、あるいは1つのダブルと1つのトリプル、あるいは2つのトリプルからなるもの
- d) フライング・キャメル・スピン
- e) レイバック／サイドウエイズ・リーニング・スピン、または、足換えないシット・スピン
- f) 足換えを1回のみ行うスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

2023～2024

男子

- a) ダブルまたはトリプルのアクセル・パウルゼン
- b) ダブルまたはトリプルのルッツ・ジャンプ
- c) 2つのジャンプによって構成されるジャンプ・コンビネーションで、1つのダブルと1つのトリプルあるいは2つのトリプルからなるもの
- d) フライング・シット・スピン
- e) 足換えを1回のみ行うキャメル・スピン
- f) 足換えを1回のみ行うスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

女子

- a) ダブル・アクセル・パウルゼン
- b) ダブルまたはトリプルのルッツ・ジャンプ
- c) 2つのジャンプによって構成されるジャンプ・コンビネーションで、2つのダブル、あるいは1つのダブルと1つのトリプル、あるいは2つのトリプルからなるもの
- d) フライング・シット・スピン
- e) レイバック／サイドウェイズ・リーニング・スピン、または、足換えのないキャメル・スピン
- f) 足換えを1回のみ行うスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

2024～2025

男子

- a) ダブルまたはトリプルのアクセル・パウルゼン
- b) ダブルまたはトリプルのフリップ・ジャンプ
- c) 2つのジャンプによって構成されるジャンプ・コンビネーションで、1つのダブルと1つのトリプルあるいは2つのトリプルからなるもの
- d) フライング・キャメル・スピン
- e) 足換えを1回のみ行うシット・スピン
- f) 足換えを1回のみ行うスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

女子

- a) ダブル・アクセル・パウルゼン
- b) ダブルまたはトリプルのフリップ・ジャンプ
- c) 2つのジャンプによって構成されるジャンプ・コンビネーションで、2つのダブル、あるいは1つのダブルと1つのトリプル、あるいは2つのトリプルからなるもの
- d) フライング・キャメル・スピン
- e) レイバック／サイドウェイズ・リーニング・スピン、または、足換えのないシット・スピン
- f) 足換えを1回のみ行うスピン・コンビネーション

g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

4. 諸注意

ジャンプ

b) シニア男子ではいずれのトリプルあるいはクワドラブル・ジャンプを行ってもよく、c)でクワドラブルを行った場合に、異なる種類のクワドラブルをソロ・ジャンプで行うことができる。シニア男子、ジュニア男子、シニア女子では、a)でトリプル・アクセル・パウルゼンを行った場合、ソロ・ジャンプあるいはジャンプ・コンビネーションでくり返し行うことはできない。シニア女子はいずれのトリプル・ジャンプを行ってもよい。ジュニア女子および男子に関しては、規定されたダブルまたはトリプル・ジャンプのみが許される。

ジャンプ・コンビネーション

c) シニア男子において、ジャンプ・コンビネーションは同一のあるいは異なるダブルまたはトリプルまたはクワドラブル・ジャンプからなる。シニア男子では、b)でクワドラブルを行った場合に、異なる種類のクワドラブルをジャンプ・コンビネーションの中で行うことができる。シニア女子、ジュニア男子、ジュニア女子において、ジャンプ・コンビネーションは同一のあるいは異なるダブルまたはトリプル・ジャンプからなる。なお、いずれのカテゴリーにおいても、含まれる2つのジャンプは、ソロ・ジャンプと異なるものでなければならない。

同じジャンプがソロ・ジャンプとジャンプ・コンビネーションの一部として行われた場合、くり返されたジャンプはカウントされない。（くり返しがジャンプ・コンビネーション側で行われた場合、前述の要件を満たさない単独ジャンプのみをカウントしないものとする）

余分なジャンプが行われた場合、ノーバリュウとなるのは前述の要件を満たさない単独ジャンプのみである。ジャンプは実行順に考慮していく。

スピン

単一姿勢のスピンおよびスピン・コンビネーション：足換えの前および後でそれぞれ少なくとも3回転のスピン姿勢が取られていない場合、そのスピンは要件に従っておらず価値が与えられない。

フライング・スピンを除き、スピンをジャンプから始めてはならない。

d) フライング・スピン：

シニア：着氷姿勢が単一姿勢のスピンのものとは異なるあらゆるタイプのフライング・スピスが許される。

ジュニア：あらかじめ定められた種類のフライング・スピンのみが許される。

シニアおよびジュニア：ステップ・オーバーはジャッジがGOEで考慮する。

空中姿勢と異なってもよいが、着氷した姿勢で最低8回転しなければならぬ。

踏み切り前に氷上で回転することは許されない。要求される8回転は、着氷姿勢のどのような変形姿勢で行ってもよい。

e) 姿勢がひとつのスピン

男子ー1回のみ足換えを行うスピン：

シニア：競技者はキャメル姿勢あるいはシット姿勢を選択しなければならない、また、選択した姿勢はフライング・スピンの着氷姿勢とは異なるものでなければならない。スピンには1回のみ足換えが含まれなければならない、足換えは踏み換えでもジャンプでもよいが、各足とも、選んだ基本姿勢で6回転以上しなければならない。

ジュニア：シットまたはキャメルいずれか指定された姿勢のみを行うことが許される。スピンには1回のみ足換えが含まれなければならない、足換えは踏み換えでもジャンプでもよいが、各足とも、選んだ基本姿勢で6回転以上しなければならない。

e) 女子 - レイバックあるいはサイドウェイズ・リーニング・スピン：

8回転の間アップライト姿勢に起き上がってしまうことなく、基本的にレイバックまたはサイドウェイズ・リーニング・スピンとみなせる姿勢が保たれるならば、どのような姿勢でもよい。要求された8回転の後にビールマン姿勢を取ることもできる。足換えは許されない。

女子 - 姿勢がひとつで足換えがないスピン

選べる姿勢はひとつだが、そのバリエーションは複数利用してもよい。選んだ姿勢による回転数は8回転以上でなければならない。

男子および女子 - フライング・スピンの着氷姿勢と姿勢がひとつのスピンの姿勢と同じであった場合、実行順が後ろのほうのスピンは採点の対象とならないが、スピンの枠（ボックス）は埋まることになる。

f) スピン・コンビネーション：

スピンには1回のみ足換えが含まれなければならない、各足での回転数は6回転以上でなければならない。足換えは踏み換えでもジャンプでもよい。足換えと姿勢変更は同時に行っても別々に行ってもよい。スピン・コンビネーションの一般的要件は第610条を参照のこと。

ステップ・シーケンス

ステップ・シーケンスには、表外ジャンプ（回転数は問わない）や表内ジャンプ（1回転以下）を含めることができる。ステップ・シーケンスで1回転以下の表内ジャンプを飛んだ場合、そのジャンプはコールもされないしボックスを占めることもない。

第612条

シングル・スケーティングのフリー・プログラム

1. フリー・スケーティングはジャンプ、スピン、ステップおよびその他のつなぎの動作などの、両足滑走を極力含めずに行うフリー・スケーティング要素をバランスよく含み、競技者の選んだ音楽に調和したプログラムからなる。歌詞を伴ったボーカル音楽も許される。

シニア・ウェルバランス・プログラム

男子の場合、ウェルバランスフリー・スケーティング・プログラムに含まれるべき要素は以下のとおり。

- 最大7つのジャンプ要素（そのうち1つはアクセル系ジャンプでなければならない）
- 最大3つのスピン（そのうち1つはスピン・コンビネーション，1つはフライング・スピンまたはフライング・エントランス・スピン，1つは1種類のポジションのみのスピンでなければならない）
- 最大1つのステップ・シーケンス
- 最大1つのコレオグラフィック・シーケンス

女子の場合、ウェルバランスフリー・スケーティング・プログラムに含まれるべき要素は以下のとおり。

- 最大7つのジャンプ要素（そのうち1つはアクセル系ジャンプでなければならない）
- 最大3つのスピン（そのうち1つはスピン・コンビネーション，1つはフライング・スピンまたはフライング・エントランス・スピン，1つは1種類のポジションのみのスピンでなければならない）
- 最大1つのステップ・シーケンス
- 最大1つのコレオグラフィック・シーケンス

ジュニア・ウェルバランス・プログラム

男子の場合、ウェルバランスフリー・スケーティング・プログラムに含まれるべき要素は以下のとおり。

- 最大7つのジャンプ要素（そのうち1つはアクセル系ジャンプでなければならない）
- 最大3つのスピン（そのうち1つはスピン・コンビネーション，1つはフライング・スピンまたはフライング・エントランス・スピン，1つは1種類のポジションのみのスピンでなければならない）
- 最大1つのコレオグラフィック・シーケンス

女子の場合、ウェルバランスフリー・スケーティング・プログラムに含まれるべき要素は以下のとおり。

- 最大7つのジャンプ要素（そのうち1つはアクセル系ジャンプでなければならない）
- 最大3つのスピン（そのうち1つはスピン・コンビネーション，1つはフライング・スピンまたはフライング・エントランス・スピン，1つは1種類のポジションのみのスピンでなければならない）
- 最大1つのコレオグラフィック・シーケンス

2. 総則

競技者はまったく自由にフリー・スケーティング要素を選び、プログラムを構成することができる。

すべての要素は様々な異なる種類のコネクティング・ステップや同等の価値を持ったフリー・スケーティング動作によって、氷面全体を十分に利用するようにつなぎ合わせる（フォワードおよびバックワードのクロスオーバーはコネクティング・ステップとみなさない）。

いかなる余分な要素、または規定された回数を超えた要素も、演技者の結果にカウントされない。最初に試みた（または許された回数に試みた）要素のみが考慮される。

諸注意

シングルのフリー・プログラムには下記事項が適用される。

単独ジャンプ

単独のジャンプはいずれの回転数でもよい。

ジャンプ・コンビネーションとジャンプ・シーケンス

ジャンプ・コンビネーションおよびジャンプ・シーケンスは同じまたは異なったシングル、ダブル、トリプルまたはクワドラプルのジャンプで構成することができる。フリー・プログラムにおいて許される最大数は、ジャンプ・コンビネーション3回あるいはジャンプ・コンビネーション2回とジャンプ・シーケンス1回である。そのうち1回のジャンプ・コンビネーションまたは1回のジャンプ・シーケンスは最大で3つのジャンプを含められるが、残りの2回はそれぞれ2個のジャンプまでとする。

くり返し

シングルのフリー・プログラムでは、ダブル・ジャンプ（ダブル・アクセルを含む）の回数が、合計で2回を超えてはならない（ソロ・ジャンプとして、あるいは、ジャンプ・コンビネーション／シーケンスの一部として）。

トリプルおよびクワドラプル・ジャンプのうち、2回実行できるのは2種類のみである。2回くり返すもののうち、クワドラプル・ジャンプは1種類までとする。少なくとも片方がジャンプ・コンビネーションあるいはジャンプ・シーケンスの中で行われた場合、どちらに対しても、価値尺度および第353条第1項h)とii)に定められている計算方法によって算出した数値そのままが与えられる。

両方ともソロ・ジャンプとして行われた場合、2回目のソロ・ジャンプについては価値尺度を70%に減じた数値が与えられる。同じ名称のトリプル・ジャンプとクワドラプル・ジャンプは種類が異なるジャンプとみなす。トリプル・ジャンプもクワドラプル・ジャンプも、2回を超えて試みることはできない。

余分なジャンプとジャンプ要素

余分なジャンプが行われた場合、規定と異なる単独ジャンプのみを無価値（ノーバリュー）とする。ジャンプは実行順に考慮していく。

スピン

すべてのスピンは異なる性質のものでなければならない。すでに行われたものと同じ性質（略記号）のスピンは削除される（スピン・ボックスは占める）。スピンは必要最少回転数以上を回らなければならない。すなわち、フライング・スピンおよび1姿勢のみのスピンは6回転、スピン・コンビネーションは10回転しなければならない。回転数不足は、ジャッジが採点に反映する。この必要最少回転数とは、スピンに入ったときからスピンの終了まで数えた回転数である（単一姿勢スピンとフライング・スピンではファイナル・ウィンドアップを除く）。スピン・コンビネーションおよび単一姿勢スピンにおいて、足換えは任意である。

ステップ

どのような種類のステップ・シーケンスを行うかは競技者の自由である。ステップ・シーケンスの中には、あらゆる回転数の表外ジャンプや最大1回転の表内ジャンプを減点なく含めることができる。ステップ・シーケンス中に含まれる1回転以内の表内ジャンプはコールされずボックスを占めない。ステップ・シーケンス中には1回転を超える表内ジャンプを含むことはできるが、コールされボックスを占める。ステップ・シーケンスは氷面を十分に活用しなければならない。短すぎてやっとそれと分かるようなものはステップ・シーケンスの要件を満たすとはみなされない。

コレオグラフィック・シーケンス

コレオグラフィック・シーケンスは、スパイラル、アラベスク、スプレッド・イーグル、イナ・バウアー、ハイドロブレーディング、最大2回転までのあらゆるジャンプ、スピンなど2つ以上の異なるムーブメントから構成される。2つ以上のムーブメントのつながりにはステップやターンを使うことができる。コレオグラフィック・シーケンスに含まれるリストにある要素はコールされずボックスを占めない。パターンは制限されないが、シーケンスがはっきりと分かるものでなければならない。

テクニカル・パネルは、コレオグラフィック・シーケンスが最初のスケートイング動作で始まり（そのコレオグラフィック・シーケンスがプログラムの最後の要素でない場合）次の要素の準備により終了したと判断する。コレオグラフィック・シーケンスは、ステップ・シーケンスの前後いずれに行ってもよい。

この要素には固定された基礎値があり、ジャッジのGOEのみで評価される。

第613条～第618条（予備）

C. ペア・スケーティング

第619条

ペア・スケーティングにおける要素の要件

総則

ペア・スケーティングは2人が個々にシングル・スケーティングをしているのではなく、純粋にペア・スケーティングを行っている印象を与えるように釣り合いの取れた動作で調和して滑走するものである。適切なパートナーを選ぶよう、注意を払うべきである。

すべての要素は、変化のある姿勢やホールドを伴った種類の異なるコネクティング・ステップや他の匹敵するフリー・スケーティングの動作によって繋ぎ、氷面の全部を利用して滑走すべきである。

- a) 両パートナーは常に同じ動作を行う必要はない。ときには離れてもよいが、プログラム構成およびスケートの滑走において調和と一致の印象を与えなければならない。また、完全に両足で行う動作は最小限にとどめなければならない。
- b) これらの規定においてリフトとは、そのリフトの種類で必要とするならば、支持腕の完全な伸ばしを伴うものを含む完全なリフトを意味する。昇り降りあるいは回転動作のいずれかの動きを有し、男子が両手を肩の高さより上げない小さなリフトおよび女子の足を持って支える動作を行ってもよい。
- c) デス・スパイラルを行っている間、女子の片方のスケートは常に氷面に接していなければならない。どちらのスケートも氷面に付いていない動作がプログラム中でくり返し行われた場合には減点となる。
- d) プログラムを通じて、音楽に合った調和のよいステップやつなぎの動作を維持しなければならない。

リフト

ペアのリフトは下記のように分類される。

グループ1 - アームピット・ホールド・ポジション

グループ2 - ウェスト・ホールド・ポジション

グループ3 - ハンド・ツウ・ヒップまたは大腿部（膝より上）ポジション

グループ4 - ハンド・ツウ・ハンド・ポジション（プレス・リフト・タイプ）

グループ5 - ハンド・ツウ・ハンド・ポジション（ラッソー・リフト・タイプ）

リフトのグループは、女子が男子の肩を通る時のホールドによって分類する。グループ3～5においては、リフトする腕／両腕が完全に伸びていることが必須である。

男性が少なくとも1回転しなければならない。

パートナーが互いに補助できるのは、手と手、手と腕、手と胴体、手と大腿部（膝より上）のグリップのみである。ホールドの変更とは、これらのグリップのうちの1つから別のものへの変更か、ワン・ハンド・ホールドにおいて一方の手から他方の手への変更を指す。リフト中のホールド変更は許される。

女子の姿勢は以下のように分類する——アップライト（女子の上半体が氷面と垂直）、スター（女子の姿勢が横向きで、上半体が氷面と平行）、プッター（女子の姿勢が仰向けあるいはうつ伏せで平らとなり、上半体が氷面と平行）。姿勢変更とは、これらのうちの1つの姿勢からもう1つの姿勢への移行である（各姿勢で完全に1回転すること）。

リフトが終わったとテクニカル・パネルが判定するのは、男子が腕を完全に伸ばした後に腕を曲げ始め、結果として女子が下降し始めたときである。（踏み切りまたは着氷に関するものを除いた）レベルの特徴が考慮されるのは、男子の腕が完全に伸びきった時からリフトの終わりの瞬間までである。ジャッジは、踏切から着氷までリフトの全体を評価する。

ツイスト・リフト

女子が着氷する前に男子は女子のウェストを空中で受けとめ、片足のバックワード・アウトサイド・エッジでスムーズに着氷できるよう補助しなければならない。

スロウ・ジャンプ

スロウ・ジャンプは踏切の時にパートナーが補助をするジャンプで、男子が女子を空中に投げ上げる。着氷は男子の補助なしに、女子が片足のバックワード・アウトサイド・エッジで行う。

ソロ・ジャンプ、ジャンプ・コンビネーション、ジャンプ・シーケンス

ソロ・ジャンプやジャンプ・コンビネーション、ジャンプ・シーケンスにおいてパートナーが行ったジャンプの回転数が異なる場合、このジャンプは両者が行ったうちの少ない方の回転数のジャンプとしてコールされる。

デス・スパイラル

女子がデス・スパイラルを行っている最終ポジションでは、男子は膝をはっきりと曲げた完全なピボット姿勢で、男子、女子の両者とも最低1回転しなければならない。高いレベルを獲得するには、男子が低いピボット・ポジションでいるべきである（男子の尻の下部がピボット・フットの膝の上部よりも高くない）。女子は同時にクリーンなエッジで滑走し、体と頭を氷面近く保たなければならないが、氷が頭に触れても、フリー・ハンドや体の他の部分で支えてもいけない。女子の体の重みは、らせん状に滑走しているエッジと男子のホールドの力により支える。

男子は、十分に腕を伸ばした状態で中心に位置しなければならない。
どのような姿勢もスケーターのホールドが少なくとも1回転続いた時点で特徴とみなす。

ステップ・シーケンス

両パートナーが組んで、または近接して一緒に行わなければならない。ステップ・シーケンスは、氷面を十分に利用したものではない。ステップ・シーケンスの中で位置やホールドを変更したり難しいスケーティング動作を一緒に行ったペアに対して高い評価が与えられる。より高いレベルとみなされるためには、両パートナーの仕事量が均等であることが欠かせない。

第620条

ペア・スケーティングのショート・プログラム

1.
 - a) ペア・スケーティング（シニアとジュニア）のショート・プログラムは、7つの規定された必須要素で構成する。必須要素の演技順序は任意である。
 - b) プログラムは、各ペアが選んだ音楽に合わせて滑ること。歌詞を伴うボーカル音楽も選ぶことができる。
 - c) 必須要素（実行されていない）を規定されていない要素や余分な要素（実行された）で代替した場合、当該ボックスはブロックされ、実行された要素は必須要素ではないとみなす（ノーバリュー）。
 - d) ジャンプ、スピン、ステップ、失敗した要素であってもくり返しなど、リストアップされていない要素や余分な要素は採点されず、よって、種類の異なる要素の「ボックス」（スポット）をブロックすることもない。
2. シニアのショート・プログラムは、下記の必須要素により構成され、3つのグループがある。各年の7月1日に発効するグループは以下のとおり。

2022～2023

- a) ラッソー・リフト踏み切り（グループ5）
- b) ツイスト・リフト（ダブルまたはトリプル）
- c) スロウ・ジャンプ（ダブルまたはトリプル）
- d) ソロ・ジャンプ（ダブルまたはトリプル）
- e) 足換えを1回のみ行うソロ・スピン・コンビネーション
- f) デス・スパイラル・バックワード・インサイド
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

2023～2024

- a) ヒップ・リフト踏み切り（グループ3）
- b) ツイスト・リフト（ダブルまたはトリプル）
- c) スロウ・ジャンプ（ダブルまたはトリプル）
- d) ソロ・ジャンプ（ダブルまたはトリプル）
- e) 足換えを1回のみ行うソロ・スピン・コンビネーション
- f) デス・スパイラル・フォワード・インサイド
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

2024～2025

- a) ハンド・ツウ・ハンド・リフト踏み切り（グループ4）
- b) ツイスト・リフト（ダブルまたはトリプル）
- c) スロウ・ジャンプ（ダブルまたはトリプル）
- d) ソロ・ジャンプ（ダブルまたはトリプル）
- e) 足換えを1回のみ行うソロ・スピン・コンビネーション
- f) デス・スパイラル・バックワード・アウトサイド
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

3. ジュニアのショート・プログラムは下記の必須要素により構成され、3つのグループがある。各年の7月1日に発効するグループは以下のとおり。

2022～2023

- a) ラッソー・リフト踏み切り（グループ5）
- b) ツイスト・リフト（ダブルまたはトリプル）
- c) ダブルまたはトリプルのトウ・ループあるいはフリップ／ルッツ・スロウ・ジャンプ
- d) ダブル・ループまたはダブル・アクセルのソロ・ジャンプ
- e) 足換えを1回のみ行うソロ・スピン・コンビネーション
- f) デス・スパイラル・バックワード・インサイド
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

2023～2024

- a) ヒップ・リフト踏み切り（グループ3）
- b) ツイスト・リフト（ダブルまたはトリプル）
- c) ダブルまたはトリプルのループ・スロウ・ジャンプ
- d) ダブル・ルッツまたはダブル・アクセルのソロ・ジャンプ
- e) 足換えを1回のみ行うソロ・スピン・コンビネーション
- f) デス・スパイラル・フォワード・インサイド
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

2024～2025

- a) ハンド・ツウ・ハンド・リフト踏み切り（グループ4）
- b) ツイスト・リフト（ダブルまたはトリプル）
- c) ダブルまたはトリプルのサルコウ・スロウ・ジャンプ

- d) ダブル・フリップまたはダブル・アクセルのソロ・ジャンプ
- e) 足換えを1回のみ行うソロ・スピン・コンビネーション
- f) デス・スパイラル・バックワード・アウトサイド
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

4. 諸注意

リフト

- a) 規定された踏切のオーバーヘッド・リフトのみ許される。

ツイスト・リフト

- b) ショート・プログラムにおいて、ツイスト・リフト踏切は、女子のルッツまたはフリップ踏切のどちらかに限られる。女子が男子の支持なしに空中で行う回転数は、シニア、ジュニアともに2回転あるいは3回転である。

スロウ・ジャンプ

- c) シニアでは、すべてのダブルあるいはトリプル・スロウ・ジャンプが許される。ジュニアでは、規定されたスロウ・ジャンプのみが許される。

ソロ・ジャンプ

- d) シニアでは、すべてのダブルあるいはトリプル・ジャンプが許される。ジュニアでは、規定されたジャンプのみが許される。

スピン

ソロ・スピン・コンビネーション

- e) ソロ・スピン・コンビネーションは基本姿勢が2つ以上なければならず、どの基本姿勢も、パートナー2人ともがその姿勢で2回転しなければならない。フルの価値を得るためには、両パートナーとも3種類すべての基本姿勢を含むスピン・コンビネーションとしなければならない。ジャンプから開始してもよい。

ソロ・スピン・コンビネーションは、両パートナーとも、1回のみ足換えが含まれなければならず、各足での回転数は5回転以上でなければならない。足換えは踏み換えでもジャンプでもよい。足換えと姿勢の変更は同時に行っても別々に行ってもよい。

デス・スパイラル

- f) 規定されたデス・スパイラルのみ許される。

デス・スパイラル・バックワード・アウトサイド：

両パートナーともバックワード・アウトサイド・エッジで滑走する。男子はピボットを行い、スケーティング・フットと同じ側の腕をしっかりと伸ばして女子の手をホールドする。女子は氷に近く後方に傾斜し、この姿勢で男子の周囲を回転する間、腕を十分に伸ばす。男子が規定されたピボット・ポジションを保ち、および女子がアウトサイド・エッジで男子の周囲

を回転するかぎり、男子の姿勢、滑走方向、エッジのいかなる変形も認められる。

デス・スパイラル・フォワード・インサイド：

男子はバックワード・アウトサイド・エッジで滑走し、女子はフォワード・インサイド・エッジで滑走する。男子はピボットを行い、スケーティング・レッグと同じ側の腕を差し伸ばして女子の手をつかむ。女子は氷に近く横に傾斜し、この姿勢で男子の周囲を回転する間、腕を十分に伸ばす。男子が規定されたピボット・ポジションを保ち、および女子がインサイド・エッジで男子の周囲を回転するかぎり、男子の姿勢、滑走方向、エッジのいかなる変形も認められる。

デス・スパイラル・バックワード・インサイド：

女子は氷にもたれかかるような姿勢で腕を十分に伸ばし、しっかりとしたバックワード・インサイド・エッジで男子の周囲を回転する。

デス・スパイラル・フォワード・アウトサイド：

デス・スパイラル・フォワード・インサイドと同じであるが、女子はパートナーの周りをしっかりしたフォワード・アウトサイド・エッジで滑走する。

ステップ・シーケンス

- g) ステップ・シーケンスは、組んで、または近接して一緒に行われ、表外ジャンプを含んでもよい。音楽に合った短い停止は許される。

第621条

ペア・スケーティングのフリー・スケーティング

1. ペアのフリー・スケーティングはバランスのよくとれたプログラムで構成され、スケーター自身の選んだ音楽で、定められた時間滑走する。歌詞を伴うボーカル音楽も選ぶことができる。よいプログラムとは、シングル・スケーティングの動作と典型的なペア・スケーティングの動作とが、ステップとその他の動作によって調和よくつながっているものである。この場合のシングル・スケーティング動作とは、2人が同時に対称的（ミラー・スケーティング）か並行的（シャドウ・スケーティング）に滑走するものであり、ペア・スケーティングの動作とはペア・スピンの、スパイラル、リフト、パートナーが補助するジャンプ等である。
2. シニア・ウェルバランス・プログラムには以下の要素が含まれていなければならない。
 - 最大3つのリフト（全部が同じグループであってはならず、リフトする腕が十分に伸びていること）
 - 最大1つのツイスト・リフト

- 最大2つの異なるスロウ・ジャンプ
 - 最大1つのソロ・ジャンプ
 - 最大1つのジャンプ・コンビネーションまたはジャンプ・シーケンス
 - 最大1つのペア・スピン・コンビネーション
 - 最大1つのデス・スパイラル（ショート・プログラムのデス・スパイラルとは異なるもの）
 - 最大1つのコレオグラフィック・シーケンス
3. ジュニア・ウェルバランス・プログラムには以下の要素が含まれていなければならない。
- 最大2つのリフト（全部が同じグループであってはならず、リフトする腕が十分に伸びていること）
 - 最大1つのツイスト・リフト
 - 最大2つの異なるスロウ・ジャンプ
 - 最大1つのソロ・ジャンプ
 - 最大1つのジャンプ・コンビネーションまたはジャンプ・シーケンス
 - 最大1つのペア・スピン・コンビネーション
 - 最大1つのデス・スパイラル
 - 最大1つのコレオグラフィック・シーケンス

余分な要素または規定された数を超える要素は、いかなるものも、ペアの結果にカウントされない。最初に試みた（または許された回数に試みた）要素のみが考慮される。

4. 諸注意

すべてのペア・プログラムに、以下が適用される。

リフト

リフトは、すべて、略記号が異なるものでなければならず、グループ5のリフトを2つ行う場合も、踏切は異なる性質（略記号）のものでなければならない。踏切が異なるものでなければ、略記号が同じ2つ目のリフトは採点されずにリフトのボックスを1つ占める。

キャリー・リフト

- a) 男性が連続的に1回転以上するリフトは、キャリーを含んでよい。リフトは、最初のキャリーのみレベルの特徴としてカウントされる。
- b) 単なる「キャリー」リフトとは回転動作を伴わず単にパートナーをキャリーすることである。ただし、踏み切りおよび／または出で男性が半回転のみすることは許される。キャリー・リフトではどのようなホールドも許される。キャリー・リフトでは、キャリー・リフトはオーバーヘッド・リフトの回数に数えない。考慮はコンポーネンツの「コンポジション」において行う。キャリー・リフトには基礎値がなく、回数は制限されていない。

ツイスト・リフト

フリー・スケートディングにおいて、ツイスト・リフトの回転数に制限はない。踏切は、女子のルッツ、フリップ、トゥ・ループ、アクセル踏切が認められる。

ソロ・ジャンプ、ジャンプ・コンビネーション、ジャンプ・シーケンス ジャンプ・コンビネーションは、2個または3個のジャンプから構成される。

実施された2回転を超えるジャンプ（ダブル・アクセル、すべてのトリプル、クワドラブル・ジャンプ）は、すべて、異なる性質（異なる名称）のものでなければならないが、ジャンプ・コンビネーションあるいはジャンプ・シーケンスには同じ名前のジャンプ2つを含むことができる。余分なジャンプが行われた場合、規定と異なる単独ジャンプのみを無価値（ノーバリュー）とする。ジャンプは実行順に考慮していく。

ペア・スピン・コンビネーション

ペア・スピン・コンビネーションは基本姿勢が2つ以上なければならない、どの基本姿勢も、パートナー2人ともがその姿勢で2回転しなければならない。

ペア・スピン・コンビネーションは、両パートナーによる姿勢変更がなければならない。

ペア・スピン・コンビネーションは、両パートナーによる足換えがなければならないが、足換えが2人同時である必要はない。

両パートナーによる足換えあるいは姿勢変更がない場合、その要素は無価値（ノーバリュー）となる。

ペア・スピン・コンビネーションは8回転以上回らなければならない、これに満たない場合、ジャッジにより採点に反映される。なお、3回転に満たない回転は、スピンではなくスケートディング動作とみなす。要求回転数はスピンに入った時から出たときまでを数える。

デス・スパイラル

アーム・ホールドおよびピボット・ポジション（バックワードまたはフォワード）の変化は可能である。

シニアにおけるフリー・スケートディングのデス・スパイラルは、ショート・プログラムとのデス・スパイラルと異なる種類のものでなければならない。

コレオグラフィック・シーケンス

コレオグラフィック・シーケンスは、スパイラル、アラベスク、スプレッド・イーグル、イナ・バウアー、ハイドロブレーディング、最大2回転までのあらゆるジャンプ、スピン、小リフトなど2つ以上の異なるムーブメントから構成される。2つ以上のムーブメントのつなぎにはステップやターンを使うことができる。コレオグラフィック・シーケンスに含まれるリストにある要素はコールされずボックスを占めない。パターンは制限されないが、シーケンスがはっきりと分かるものでなければならない。

テクニカル・パネルは、コレオグラフィック・シーケンスが最初のスケエティング動作で始まり（そのコレオグラフィック・シーケンスがプログラムの最後の要素でない場合）次の準備により終了したと判断する。この要素には固定された基礎値があり、ジャッジのGOEのみで評価される。

III. 技術規程

アイス・ダンス

A. アイス・ダンスの定義

第701条 アクシス

1. ロング・アクシス — リンクを縦に2等分する直線（中央線，ミッドライン）。
2. ショート・アクシス — リンクを横に2等分する直線。
3. コンティニユアス・アクシス — ダンス・パターン配置の基本となる仮想の線で，リンクを1周する。通常，パターン・ダンスおよびリズム・ダンスにおいて，コンティニユアス・アクシスは，氷面のロング・アクシスに平行で，ロング・アクシスとサイドのほぼ中央を通る2本の直線からなる。これらの直線はリンクの両端でセミ・サークルで結ばれる。このセミ・サークル部分は，ダンスによってはリンク・エンドにほとんど平行の平たい形になることもある。キリアンのような円形のダンスでコンティニユアス・アクシスはほぼ円形となるが，パソ・ドブレのコンティニユアス・アクシスは楕円形である。
4. トランスバース・アクシス — 各部分でコンティニユアス・アクシスと直角に交わる仮想の直線。

第702条 パターン

ダンスのパターンとは，氷上におけるダンスのデザインである。パターン・ダンスのダイアグラムにはそのダンスの1パターン（シーケンス）を完成させるのに必要な情報がすべて含まれている。

1. セット・パターン・ダンス — 滑走すべきエッジの配置，方向，カーブの深さがすべてダイアグラムに明示されているパターン・ダンス。このダイアグラムに可能なかぎり正確に従わなければならない。
2. オプショナル・パターン・ダンス — 本来のステップの順番，ポジション，タイミングが維持されているならば，カップルによるパターンの変更が許されるパターン・ダンス。変更したパターンは毎回同じようにくり返さなければならない，またくり返しは同じ場所から始めなければならない。

3. ロープ — コンティニュー・アス・アクシスの片側で行なわれる連続したステップであり、ほぼ半円型をなす。

第703条 一連のステップ

1. 助走 — パターン・ダンス（パターン・ダンス要素には適用しない）は、いずれも、任意の助走から開始してよい。
2. パターン・ダンスのスタート — 助走が終わり、最初に踏むパターン・ダンスのステップ。
3. シークエンス（系列） — 順序と内容が定められた複数のステップ／ターンのことで、パターン・ダンスの1パターン（シークエンス）を構成する。
4. ステップ・シークエンス（ステップ系列） — リズム・ダンスまたはフリー・ダンスにおける定められた、または特に定めのない一連のステップ、ターンおよび動作。ステップ・シークエンスは以下のタイプ、グループ、スタイルに分けられる。
 - a) ステップ・シークエンスには以下の**タイプ**があり、いずれも、ホールドを組んで（イン・ホールド）もしくは互いに触れあわないで（非接触、ノット・タッチング）滑る。
 - i) ホールドを組んで行うステップ・シークエンスは、既知のダンス・ホールドまたはその変形のホールドで滑らなければならない（アイス・ダンス技術委員会の指定が別途ある場合を除く）。ホールド変更のために互いが離れる場合、音楽の1小節を超えてはならない。
 - ii) ノット・タッチング・ステップ・シークエンスはミラー（互いに対称）および／またはマッチング（互いに同じ形状）のフットワークを組み入れなければならない。パートナー同士は互いのトレースを横切ることができ、マッチング・フットワークからミラーに、またはその逆に切り替えてもよい（アイス・ダンス技術委員会の指定が別途ある場合を除く）。パートナー同士は可能なかぎり近接し続けなければならないが、互いに触れてはならない。パートナー同士の距離は概して両手間隔を超えてはならない。ただし、パートナー同士がエッジおよびターンの互いに反対方向に行う場合の短い距離は除く。
 - b) ステップ・シークエンスの**種類**は以下の**グループ**に分けられる。
 - i) グループA：ストレート・ライン・ステップ・シークエンス
 - ミッド・ライン — ロング・アクシスまたはショート・アクシス上を氷面の全長にわたって滑る。
 - ダイアゴナル — リンクのコーナーから対角のコーナーにできるかぎりその全長を滑る。
 - ii) グループB：カーブド・ステップ・シークエンス
 - サーキュラー — ショート・アクシス方向に氷面の全幅を使う（進行方向は時計回りでも反時計回りでも良い）。
 - サーペンタイン — リンクの一端の中央軸（ロング・アクシス）

上から（時計回りあるいは反時計回りに）開始し、3つのはっきりとしたカーブもしくは2つのはっきりとしたカーブ（S字）を滑り、リンクの逆端の中央軸（ロング・アクシス）上で終わる。氷面の全幅を使った図形であること。

iii) グループC：パーシャルステップ・シーケンス

- パターン・ダンス・タイプのステップ・シーケンス — 任意の氷面において行うか、アイス・ダンス技術委員会が指定した方法で行う。

c) ステップ・シーケンスのスタイル

スタイルという形で整理するステップ・シーケンスのレベルの特徴は、その時点で有効な技術的要件であり、ISUコミュニケーションで発表する。

グループのバリエーションや組み合わせ、またはここに定める以外のステップ・シーケンスのグループをアイス・ダンス技術委員会が定めた場合、ISUコミュニケーションに記載し、発表する。

5. セクション — パターン・ダンスのシーケンスの一部を意味する。

6. パターン・ダンス要素 — リズム・ダンスにおいて、ステップとターンと動作が指定されたひと続きのもので、以下の種類がある。

- a) 第707条に定められたパターン・ダンスのシーケンス
- b) 第707条に定められたパターン・ダンスのセクション
- c) 第707条に定められたパターン・ダンス内のステップ／ターンの組み合わせ

第704条

ステップ，ターン，動作

1. ステップ — 片足によって行われた、氷上における目に見える軌跡（トレース）。1つのエッジ、チェンジ・エッジ、スリー・ターンやカウンター等の片足でのターン、あるいはフラット（通常これは許されない）によって構成される。
 - a) エッジ — 片足のブレードによる目に見える軌跡で1つのカーブをなすもの。
 - b) チェンジ・エッジ — 片足のブレードによる目に見える軌跡で、ある1つのカーブとエッジから別のカーブとエッジに変わるもの。
 - c) フラット — 片足のブレードによる目に見える二重の軌跡で直線状のもの。
2. オープン・ストローク — スケーティング・フットのすぐそばから、前にも後ろにもクロスすることなく開始されるステップ。フォワードのエッジでは、必ず、次のステップのためスケーティング・フットに近付けるまで、フリー・レッグが後方に保たれることに注意しなければならない。バックワードのエッジでは、必ず、次のステップのためスケーティング・フットに近付けるまで、フリー・レッグが前方に保たれる。

3. クロス・ストローク — 両足がクロスしてスタートするステップで、次にフリー・フットとなる足のアウトサイド・エッジから推進力を得る（注—脚は膝よりも上でクロスする）。
4. クロスト・ステップ・イン・フロント — フリー・レッグがスケーティング・レッグの前でタイトにクロスし、スケーティング・フットのアウトサイド・エッジ側の氷上にフリー・フットが置かれるステップ（注—脚は膝よりも下でクロスする）。
5. クロスト・ステップ・ビハインド — フリー・レッグがスケーティング・レッグの後ろでタイトにクロスし、スケーティング・フットのアウトサイド・エッジ側の氷上にフリー・フットが置かれるステップ（注—脚は膝よりも下でクロスする）。
6. シャッセ
 - a) シンプル・シャッセ — 連続する2つのエッジのこと（一般にアウト→イン）。2つめのエッジにおいて、フリー・フットはスケーティング・フットのすぐそばに置くのであって、スケーティング・フットの前後でも後ろでもない。またその際、フリー・フットはブレードを氷面に対して平行に保ったまま持ち上げる。
 - b) クロス・シャッセ — 基本的にシンプル・シャッセと同じだが、2つめのステップにおいてフリー・フットをスケーティング・フットにクロスさせる点が異なる。前進時は後ろでクロスし（クロス・ビハインド）、後進時は前でクロスする（クロス・イン・フロント）。
 - c) スライド・シャッセ — 基本的にシンプル・シャッセと同じだが、2つめのステップにおいてフリー・フットを前後にスライドさせながら氷から離す点が異なる。前進時は前方にスライドさせ、後進時は後方へスライドさせる（例：スターライト・ワルツ、男性のステップ32）。
7. プログレッシブ（またはランまたはクロスオーバー） — フリー・フットを氷に下ろす前にスケーティング・フットを通り越すステップまたはステップの連続。その結果、新しいフリー・フットは新しいスケーティング・フットのトレース上で氷から離れる。
8. ロール — フォワードまたはバックワードのエッジ。短い場合も長い場合もある。
 - a) スウィング・ロール — 音楽の数拍にわたる長いロール。バックワード滑走の場合には、フリー・レッグを上げ、はじめ前方、続いてスケーティング・フットを通り越して後方にスウィングし、次のステップのためにスケーティング・フットの横に戻す。フォワード滑走の場合フリー・レッグははじめ後方に、それから前方にスウィングする。脚のスウィングから「ローリングする動き」が感じられる。
 - b) クロス・ロール（フォワード／バックワード） — フリー・フットをスケーティング・フットに横から近づける動作で開始し、フリー・フットがそのまま、氷に触れているスケーティング・フットの横を通り、次のアウトサイド・カーブに入るロール。このとき同時に、体重が最初の

アウトサイド・カーブから次のアウトサイド・カーブへ移るので、「ローリングする動き」となる。その後は、アウトサイド・エッジに乗っていなければならない。

9. スリッパ・ステップ ― 両足のブレードをフラットな状態で氷面に置き、直線上を滑走するステップ。体重はスケーティング・レッグの上にある。膝はよく曲げるか伸ばすかし、フリー・フットは完全に伸びるまで氷に接したまま前方にスライドさせる。
10. トウ・ステップ ― スケーターが片足のトウから他の足のトウヘジャンプせずに移行するステップ。
11. ターン
 - a) ワン・フット・ターン ― スケーターが前進から後進、または後進から前進へと片足で変化する回転動作。
 - i) スリー・ターン ― アウトサイド・エッジからインサイド・エッジあるいはインサイド・エッジからアウトサイド・エッジへと、片足で行うターンで、入りのカーブと同じローブで出のカーブへと続く。スケーターはカーブと同じ回転方向へターンする。
 - ii) アメリカン・ワルツ型スリー・ターン (or スウィング・スリー・ターン) ― スリー・ターンの一種。ターンを始める際、エッジはアウトサイドで、フリー・レッグは遠くに伸ばした状態でつま先と腰をしっかりと外旋させてトレース上に保つ。そして、フリー・フットの甲をスケーティング・フットの踵まで引き寄せた瞬間にターンを行う。ターン後、インサイド・エッジに乗っている間、フリー・フットは伸ばしてトレース上に保つ。その後、次のステップの踏み出しに間に合うようにスケーティング・フットのそばまで引き寄せる。
 - iii) ヨーロピアン・ワルツ型スリー・ターン ― ii)と同じように始まるスリー・ターン。ターン後、バック・インサイド・エッジで1拍滑ってから、次のスケーティング・フットになるフリー・フットへ体重を移す。
 - iv) ラベンスバーガー・ワルツ型スリー・ターン ― i)やii)と同じように始まるインサイド・スリー・ターンでフリー・レッグをトレース上に伸ばした形で回転中も後方に残しておき、回転後にトレース前方へスウィングさせる。その後次のステップに踏み出す際にフリー・フットをスケーティング・フットのそばに引き寄せる（例：ラベンスバーガー・ワルツの男性のステップ1）。
 - v) タッチダウン・スリー・ターン ― 体重がほとんどすぐにフリー・フットに移るスリー・ターン。この足は次のステップのスケーティング・フットになる。ターンは、フォワード・アウトサイド・スリーからもう一方の足のバックワード・アウトサイド・エッジへと行われる。この際、完全な体重移動は行わず、スケーターはすばやく元の足のフォワードに踏み出す（例：オーストリア

ン・ワルツのステップ1から2) . このような動作は、フォワード／バックワード、インサイド／アウトサイドのスリー・ターンのいずれでもあり得るし、1人で滑ることもあればカップルがサイド・バイ・サイドで行うこともありうる。

- vi) ウォーク・アラウンド・スリー・ターン — カップルが同じ軸の周りで同時に何度か行うスリー・ターン。ワルツ・ホールド（例：オーストリアン・ワルツのステップ29から31，ラベンスバーガー・ワルツのステップ39から40），または横にずれたタンゴ・ホールド（ゴールデン・ワルツのステップ1から5）で行う。
 - vii) ブラケット — アウトサイド・エッジからインサイド・エッジあるいはインサイド・エッジからアウトサイド・エッジへと片足で行うターンで、ローブを変えることなく入りのカーブから出のカーブまで滑る。
 - viii) ロッカー — アウトサイド・エッジからアウトサイド・エッジ、またはインサイド・エッジからインサイド・エッジへ片足で行なうターンで、入りのカーブと出のカーブは異なるローブとなる。スケーターは入りのカーブの方向にターンする。
 - ix) カウンター — アウトサイド・エッジからアウトサイド・エッジ、またはインサイド・エッジからインサイド・エッジへ片足で行なうターンで、入りのカーブと出のカーブは異なるローブとなる。スケーターは入りのカーブの逆の方向（即ち出のカーブの方向）にターンする。
 - x) スウィング・ロッカーまたはカウンター — ターンの前にフリー・フットがスケーティング・フットのすぐそばをスムーズにスウィングされて通り、ターン後のフリー・フットは、スケーティング・フットを通り越して後方トレース上に保たれるか、前方にスウィングされるようなロッカーまたはカウンター。
- b) ツー・フット・ターン — 回転しつつ一方の足からもう一方の足へと乗り換える動きで、スケーターの滑る向きがフォワードからバックワードあるいはバックワードからフォワードへ変化する。
- i) モホーク — 一方の足から他方の足へと行うターンで、入りのカーブと出のカーブは一続きで同じ深さのカーブである。足換えは、アウトサイド・エッジからアウトサイド・エッジあるいはインサイド・エッジからインサイド・エッジへと行う。
 - オープン・モホーク — フリー・フットの踵をスケーティング・フットの内側で氷に置くモホーク。両足の角度は自由である。体重移動の後、新しいフリー・フットの最初の位置は、新しいスケーティング・フットの踵の後ろになる（例：フォーティーンステップの男性のステップ8から9および女性のステップ12から13）。
 - クローズド・モホーク — フリー・フットの甲をスケーティ

ング・フットの踵へ寄せ、スケーティング・フットの踵の後ろでフリー・フットを氷に置くモホーク。体重移動の後、新しいフリー・フットの最初の位置は、新しいスケーティング・フットの前になる（例：ロッカー・フォックストロットのステップ11から12）。

- スウィング・モホーク — スケーティング・レッグのすぐそばを通してフリー・レッグを前方にスウィングし、スケーティング・フットのそばに戻してターンを行うオープンまたはクローズドのモホーク（例：タンゴのステップ20から21）。

ii) チョクトウ — チョクトウは片方の足からもう片方の足に踏み換えるターンで、その際に出のエッジのカーブが入りのエッジのカーブと反対になるものである。足換えは、アウトサイド・エッジからインサイド・エッジあるいはインサイド・エッジからアウトサイド・エッジへと行う。ダンスの説明で別段の指定がない限り、フリー・フットはスケーティング・フットのすぐそばで氷に置く。入りのエッジと出のエッジの深さは等しい。

- オープン・チョクトウ — スケーティング・フットの内側でフリー・フットが氷に置かれるチョクトウ。体重移動の後、新しいフリー・フットの最初の位置は、新しいスケーティング・フットの踵の後ろになる。
- クローズド・チョクトウ — フリー・フットの甲をスケーティング・フットの踵に寄せ、スケーティング・フットの踵の後ろでフリー・フットを氷に置くチョクトウ。体重移動の後、新しいフリー・フットの最初の位置は、新しいスケーティング・フットの前になる（例：ブルースのステップ12から13）。
- スウィング・チョクトウ — スケーティング・レッグのすぐそばを通してフリー・レッグを前方にスウィングし、スケーティング・フットのそばに戻してターンを行うオープンまたはクローズドのチョクトウ（例：クイックステップのステップ5から6〔始めの部分〕）。
- クロスト・オープン・チョクトウ — フリー・フットのアウトサイドをスケーティング・フットの前方、直角に構えるチョクトウ。ターン後のヒップはオープンなポジションとなる。ワイド・ステップで行うこともある。（例：ルンバのステップ11から12）

c) ツイズル — 1回転以上、すばやく連続的に（途切れることなく）回転しながら進む片足ターン。体重はスケーティング・フット上に保ち、フリー・フットはターン中どのようなポジションでもよいが、次のステップの滑り出しに備えてスケーティング・フットの近くに戻す。チェックのある（回転を止める）スリー・ターンを続けて行うことは、連続した動きでないで、ツイズルとみなされない。ツイズルの実行中に移動が止まった場合は、ソロ・スピン（ピルエット）となる。

ツイズルは、以下のように、入りのエッジで4種類がある。

- フォワード・インサイド
- フォワード・アウトサイド
- バックワード・インサイド
- バックワード・アウトサイド

- d) ツイズル・ライク・モーション — 上半身は途切れることなく完全に1回転しているが、スケーティング・フットが完全に1回転しないうちにステップ・フォワードを行うもの。

12. ターン・シーケンス

a) セット・オブ・ツイズル

- i) a) セット・オブ・シンクロナイズド・ツイズル — パートナーのそれぞれが、最大4ステップを間に挟んで2つのツイズルを行なうこと。
- ii) b) セット・オブ・シーケンシャル・ツイズル — パートナーのそれぞれが、最大1ステップを間に挟んで2つのツイズルを行なうこと。
a)とb)のいずれにおいても各ツイズルは、少なくとも完全な1回転を両パートナーが同時に片足で行うこと。

b) ワン・フット・ターン・シーケンス

パートナーのそれぞれが指定されたターンを同時に片足で行うこと。イン・ホールドでも離れてでもよい。

13. ソロ・スピン（ピルエット） — パートナーの一方のみが（他のパートナーによる補助の有無にかかわらず）1点で、あるいは両パートナーが同時に（別々の軸で）、片足で行なうスピン動作。

14. ダンス・スピン

- a) ダンス・スピン — カップルが任意のホールドで組み、一緒に行なうスピン。1本の共通軸のまわりを片足で回転しなければならない。足換えはあってもなくてもよく、ある場合はパートナーの片方だけでも両方でもよい。

b) ダンス・スピンの基本姿勢

- i) アップライト姿勢 — スケーティング・レッグは真直ぐかやや曲げ、上体は直立（垂直軸の近く）であるか弧状に後方へ反らずか横へ曲げるかした姿勢で、片足で行う。
- ii) シット姿勢 — スケーティング・レッグは片足でしゃがんだ姿勢とし、フリー・レッグを前、横または後ろにして行う。
- iii) キャメル姿勢 — スケーティング・レッグは真直ぐかやや曲げ、上体は前に倒し、フリー・レッグは水平以上に伸ばしてもしくは曲げて、片足で行う。

15. 脚および足のポジション

- a) クペ — オープン・ヒップ・ポジションからスケーティング・レッグ

に接する形でフリー・フットを持ち上げ、フリー・フットがスケーティング・フットの脚に直角となるように構える。

- b) パッセー — クローズド・ヒップ・ポジションからスケーティング・レッグの横に接する形でフリー・フットを持ち上げ、フリー・フットがスケーティング・レッグに平行となるように構える。
- c) アディテュード — フリー・レッグを曲げ、スケーティング・レッグの後方外側に90度となるように持ち上げる。

16. ダンス・リフト — パートナーの一方が他方の能動的および／または受動的な支えにより許される高さまで持ち上げられ、その高さに保持され、氷面に降ろされる動作のこと。リフト中どのような回転、姿勢、姿勢変更を行ってもよい。リフトは選んだ音楽を高め曲想を表現するものでなければならない。優雅に行われるべきであり、あからさまに力を誇示するものであったり、人に気まずい思いをさせるような品のない動きやポーズであったりしてはならない。ダンス・リフトには以下の種類がある。

ショート・リフト — 7秒を超えてはならない。

- a) ステーションナリー・リフト — 1箇所（静止した場所）で行われるリフトで、リフトするパートナーは回転してもしなくてもよい。
- b) ストレート・ライン・リフト — リフトするパートナーが直線上を移動しながら行うリフトで、リフトするパートナーはいかなるポジションをとってもよく、また片足で滑走しても両足で滑走してもよい。
- c) カーブ・リフト — リフトするパートナーが1つの曲線（ローブ）上を移動しながら行うリフトで、リフトするパートナーはいかなるポジションをとってもよく、また片足で滑走しても両足で滑走してもよい。
- d) ローテーション・リフト — リフトするパートナーが氷上を移動しながら1方向（時計回りまたは反時計回り）に回転して行うリフト。

コンビネーション・リフト — 以下の組み合わせのリフトで、12秒を超えてはならない。

- e) 2つのローテーション・リフト（上述第d)項に定められたもの）を異なる回転方向で行う。
- f) 2つのカーブ・リフトを異なるカーブで行い、S字曲線（サーペンタイン）パターンを描く
- g) 2種類のショート・リフト（上述第a), b), c), d)項に定められたもの）

17. ジャンプ

- a) ダンス・ジャンプ — 1回転を超えないジャンプ。
- b) ジャンプ エントリー — 必須要素のエントリーとして、パートナーの片方が行う1.5回転以下のジャンプ（ISUコミュニケーションで別段の定めがある場合を除く）。
- c) ジャンプ・エグジット — 必須要素のエグジットとして、パート

ナーの片方が行う1.5回転以下のジャンプ（ISUコミュニケーションで別段の定めがある場合を除く）。

- d) ホップ — 回転を伴わない小さなジャンプ。

18. 動作の種類

- a) クラウチ — 両足を一定の角度に曲げて氷上を滑る両足動作。
- b) イナ・パウアー — 片足はフォワードのエッジ／トレース，もう一方の足は平行な別のトレース上を同じようにバックのエッジ／トレースで氷上を滑る両足動作。
- c) ランジ — 片足を曲げ，もう一方の足はそのスケート靴／ブレードを氷に接したまま後方に伸ばして氷上を滑る動作。
- d) ピボット — 片足のトゥ・ピックを氷に突き刺して中心点とし，もう一方の足でその周りを円形状に滑る両足動作。
- e) シュート・ザ・ダック — 片足の膝を深く曲げた姿勢で，もう一方の足を氷面に平行となるよう前方に伸ばして氷上を滑る片足動作。
- f) スプレッド・イーグル — 片足はフォワードのエッジ／トレースで，もう一方の足は同じトレース上をバックの同等のエッジ／トレースで氷上を滑る両足動作。

19. コレオグラフィック要素 — アイス・ダンス技術委員会が定めた表内／表外の動作または一連の動作

20. アイス・ダンス技術委員会が承認し，その旨ISUコミュニケーションで公表したターン／ステップ／動作／スピン／リフトの変種やコンビネーション（該当する場合）

21. 違反要素／違反動作／違反ポーズ — 以下の要素，動作，ポーズは，助走部や最終部も含め，リズム・ダンス，フリー・ダンス，パターン・ダンスにおいて違反となる（ISUコミュニケーションで別段の定めがある場合を除く）。

- a) パートナーの頭に座る
- b) パートナーの肩に立つ
- c) リフトされるパートナーが倒立開脚姿勢をとる（両大腿部の保持角度が45度を超える）。
- d) 完全に伸ばした腕のみで，ブレード／スケート靴や脚を持ち，リフトするパートナーがリフトされるパートナーを振り回す。

- e) リフトされるパートナーがリフトするパートナーの首に足を絡ませただけの形で、手／腕を補助にすることなくリフトするパートナーがリフトされるパートナーを振り回す。
- f) 腕が完全に伸びており、リフトするパートナーのリフトする手／腕とリフトされたパートナーの身体との接触点がリフトするパートナーの頭より継続的に高い位置にある（補助の腕は、完全に伸びた状態で継続的に頭より高い位置にあってもよい）。
- g) ジャンプ・エントリーおよび／またはジャンプ・エグジット以外で1回転を越えるジャンプをする。
- h) 氷上に横たわる。

確立（継続）しない、あるいは、姿勢を変更するためにのみ用いる場合、a)項～f)項のポーズをさっと経由することは許される。

第705条 ダンス・ホールド

1. ハンド・イン・ハンド・ホールド

- a) 同一方向を向く場合 — 両パートナーは同じ方向を向いて横または前後に並び、腕を伸し手を握り合って滑走する。このポジションのバリエーションとしてサイド・バイ・サイドのアーム・イン・アーム（腕を組むもの）がある。
- b) 反対方向を向く場合 — 両パートナーは、通常、向き合って腕を伸し、一方がフォワード、他方がバックワードに滑走するが、背中合わせの場合もある（例：チャ・チャ・コンゲラードのステップ22から25）。

2. クローズド・ホールド／ワルツ・ホールド — 両パートナーは互いに正面に向き合う。一方が前方を向き、他方は後方を向く。男性の右手は、肘を上げて女性の背中の肩甲骨の所にしっかりと置き、女性を自分の近くに保てるように十分に腕を曲げる。女性の左手は男性の右肩に置き、腕は肘と肘を重ねて男性の上腕の上に楽に置く。男性の左腕と女性の右腕は肩の高さで楽に伸ばす。2人の肩は平行している。

- 3.a) オープン・ホールド／フォックストロット・ホールド — 手と腕の位置は、クローズド・ホールド／ワルツ・ホールドと同様である。両パートナーは同じ方向を向くように、わずかに向きだけを変える。

- b) クロスト・フォックストロット・ホールド — 両パートナーの位置関係は上記a)と同じだが、男性は右腕を女性の背中に回し右手を女性の右腰に置く。女性は左腕を男性背中に回し左手を男性の左腰に置く。
4. アウトサイド・ホールド／タンゴ・ホールド — 両パートナーは互いに反対を向く。すなわち、一方が前進滑走ならば他方は後進滑走となる。ただし、クローズド・ホールドとは異なり、男性が女性の右あるいは左側にずれ、男性の腰の前面が対応する女性の腰の前面と同一のラインに並ぶ。流れを損ねることになるので、タイトなヒップ・トゥ・ヒップ・ポジションは望ましくない。
5. a) キリアン・ホールド — 女性が男性の右側にいて両パートナーは同じ方向を向き、男性の右肩は女性の左肩の後ろにある。女性の左腕は男性の体の前を通して伸ばし、男性の左手と組む。男性の右腕は女性の体の後ろを通して女性の右手を握る。右手は両者とも女性の腰骨の上に楽に置く。
- b) リバース・キリアン・ホールド — このホールドはキリアン・ホールドと同じであるが、女性が男性の左側に位置する。
- c) オープン・キリアン・ホールド — 男性は左手で女性の左手をホールドし、右手を女性の左腰または背中に置く。女性の右腕は伸ばす。このホールドにもリバース・ホールドがある。
- d) クロスト・キリアン・ホールド — 女性の左腕は男性の体の前を通して伸ばし、男性の左手と組む。一方、男性の右腕は女性の体の前を通して伸ばし、両パートナーが右手同士を握った形で女性の腰の上に楽に置く。このホールドにもリバース・ホールドがある。
- e) ハイ・キリアン・ホールド — キリアン・ホールドの変形で、つないだ手の一方を肩よりやや高く上げ、ひじをやや曲げる（例：ヤンキー・ポルカのステップ3から12）。
6. リーディング・ハンド — 男性のリーディング・ハンドはリバース・ホールドの場合を除き右手である。リバース・ホールドでは左手である。
7. プロムナード — プログレッシブの一種で、オープン・ホールドを組んだ状態で、カップルが同じ足（例：ブルースのステップ9から11）または逆の足（例：タンゴのステップ16から19）で滑る。ボールルーム・ダンスに見られる、前方に歩く動作を取り入れたものである。

注記）上記のダンス・ホールドは、いずれも、写真が『ISUハンドブッケー・アイス・ダンス2003』に掲載されている。標準的な説明では定義しきれないポジションも存在する。

第706条

音楽用語の定義

1. **ビート** — 音楽の規則正しくくり返される区切りを決定する音.
2. **テンポ** — 毎分の拍数あるいは小節数で表される音楽のスピード.
3. **リズム** — 音楽にその性格を与える強拍と弱拍のパターンの規則正しいくり返し.
4. **小節（バー）** — 強勢の周期的なくり返しによって決定される音楽の単位. 各単位は同じビート数を持つ.
5. **強拍** — 小節あるいはグループとなる2小節の最初のビートで、リズムのスケーティング・カウントを支える.
6. **弱拍** — 2小節で1スケーティング・カウントとなるリズムの場合、第2小節の最初のビート（例：クイックステップのスケーティング・カウント3, アメリカン・ワルツのスケーティング・カウント4）. 各リズムのスケーティング・カウントについては、『ISUアイス・ダンス・リズム・ブックレット&コンパクト・ディスク』に説明がある.

B. パターン・ダンス

第707条 イントロダクション

1. パターン・ダンスは、定められたリズムでテンポ一定の音楽に合わせて規定のパターン、ステップ、ターンを滑走するものである。
2. パターン・ダンスのある国際競技会において、滑走するパターン・ダンスは以下から選定される。

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. フォーティーンステップ | 18. ヤンキー・ポルカ |
| 2. フォックストロット | 19. クイックステップ |
| 3. ロッカー・フォックストロット | 20. フィンステップ |
| 4. ティータイム・フォックストロット | 21. パソ・ドブレ |
| 5. スウィング・ダンス | 22. ルンバ |
| 6. ダッチ・ワルツ | 23. ルンバ・ダムール |
| 7. ウィロー・ワルツ | 24. チャ・チャ・コンゲラード |
| 8. ヨーロピアン・ワルツ | 25. シルバー・サンバ |
| 9. アメリカン・ワルツ | 26. タンゴ・フィエスタ |
| 10. ウェストミンスター・ワルツ | 27. タンゴ・キャナスタ |
| 11. ヴィニーズ・ワルツ | 28. タンゴ |
| 12. オーストリアン・ワルツ | 29. アルゼンチン・タンゴ |
| 13. スターライト・ワルツ | 30. タンゴ・ロマンチカ |
| 14. ラベンスバーガー・ワルツ | 31. リズム・ブルース |
| 15. ゴールデン・ワルツ | 32. ブルース |
| 16. キリアン | 33. ミッドナイト・ブルース |
| 17. メープルリーフ・マーチ | |

上記パターン・ダンスのステップ・シーケンスについては、『ISUハンドブッカーアイス・ダンス2003』に説明、表およびダイアグラムが掲載されている。男性は男性のステップを、女性は女性のステップを滑走しなければならない。追加パターン・ダンスの説明は、ISUコミュニケーションで公表する。

3. パターン・ダンスは、上述第2項の順番に滑らなければならない。アイス・ダンス技術委員会がISUコミュニケーションを通じて別段の指示をしていないかぎり、各パターン・ダンスはカップルごとに氷上で以下のように滑走しなければならない。

a) 2シーケンスのダンス：

スウィング・ダンス	オーストリアン・ワルツ	シルバー・サンバ
ダッチ・ワルツ	ゴールドデン・ワルツ	アルゼンチン・タンゴ
ウィロー・ワルツ	ヤンキー・ポルカ	タンゴ
ヨーロッパ・ワルツ	フィンステップ	タンゴ・ロマンチカ
アメリカン・ワルツ	チャ・チャ・コンゲラード	ミッドナイト・ブルース
スターライト・ワルツ		
ラベンスバーガー・ワルツ		
ウェストミンスター・ワルツ		

b) 3シーケンスのダンス：

タンゴ・フィエスタ
タンゴ・キャナスタ
ヴィニーズ・ワルツ
リズム・ブルース
ブルース
パソ・ドブレ

c) 4シーケンスのダンス：

フォーティーンステップ クイックステップ
フォックストロット ルンバ
ロッカー・フォックストロット

d) 6シーケンスのダンス：

キリアン

e) シーケンス数はシーズンによって異なることがあり得る。その場合は、ISUコミュニケーションで発表する。

ルンバ・ダムール
メープルリーフ・マーチ
ティータイム・フォックストロット

- アイス・ダンス技術委員会からISUコミュニケーションを通じて別段の指示がないかぎり、パターン・ダンスは、パターン前半部分のステップがジャッジ席側で滑走されるようにスタートしなければならない。
- 国際競技会のパターン・ダンス競技には現行のISU公式アイス・ダンス音楽を使用するものとする。ただし、アイス・ダンス技術委員会が1つまたは複数のパターン・ダンスについて、ISUコミュニケーションで発表された要件を満たす音楽をカップルが提出すると決定した場合を除く。この場合、要件に従わないパターン・ダンス音楽は減点により罰せられる（第353条第1項n)を参照）。

現行のISU公式アイス・ダンス音楽を使用する場合、国際競技会においては、ISUコミュニケーションによる別段の指示がないかぎり、各パターン・ダンスに対してISU課題曲1番から5番までの5曲を用いる。音楽は滑走グル

ープごとに上記の番号順で演奏される。各ダンスに用意されている6番の曲は、滑走グループごとのウォームアップ中のみ使用する。

6. パターン・ダンスの最終ステップを完了後、カップルは、20秒以内に最終姿勢を取らなければならない。この制限時間を超えた場合、第353条第1項n)の減点が適用される。
7. パターン・ダンスで中断が起きた場合、ステップ・シーケンス中の技術的に実行可能な最も近い場所から続けるものとする。ただし、その再開地点は中断の起こった地点よりも後ろでなければならない。中断によって行ない損ねたステップを滑走することは許されない。

第708条 **要求事項と採点**

1. パターン・ダンス全般の要求事項

- a) **正確さ** — ステップ、エッジ、要素／動作、およびダンス・ホールドは、各ダンスの説明と規程に従わなければならない。全体として最低限の要件に従っているならば、その範囲内でカップル独自のスタイルを示すことは許される。これは通常腕や脚の動作に変化をつけることによって行われる。要求されているダンス・ホールドの説明と異なる腕や手の動作や位置も、男性のリードする手が定められた位置にあるならば許される。
- b) **ブレースメント（配置）** — 各ダンスのパターンは規程に従わなければならない。氷面は最大限に有効利用することが望ましい。そのためにはディープ・エッジと十分な流れが必要である。フラット・エッジや浅い（シャロウ）エッジによる滑走で大きなパターンを滑走してはならない。正規サイズのリンク（第342条）では、リンクのロング・アクシスを横切ってはならない。正規のサイズより小さいリンクでは、小さくなったリンクの幅に比例する分だけロング・アクシスを横切ってもよい。
- c) **スケーティング・スキル** — 基本的なスケーティング・スキルの質がよいことが要求される。

スピードや流れ、滑らかさを失わず、また無駄な力なく楽々とディープ・エッジで滑ること、ステップ、エッジ、およびローブの移り変わりははっきりとわかるくらいに正確かつ確実でなければならない。スケーターはスケーティング・フット上に自身の体重を保たなければならない。フットワークは乱れることなく、かつ正確でなければならない。両足滑走は要求されている場合以外、行ってはならない。両パートナーには等しく高い技術力が求められる。スケーティング・レッグの膝の動きはリズムカルな屈伸運動を伴った柔軟なものでなければならない。シャッセやプログレッシブにおいては、氷面からの距離がなるべく小さくなるようにフリー・フットを持ち上げなければならない。

- d) **タイミング** — ダンスは厳密に音楽に合わせて滑走しなければならない。また（パターン・ダンスの説明で別段の指定がないかぎり、またはアイス・ダンス技術委員会が別段の指定を行いISUコミュニケーションで発表しないかぎり）第1歩はその曲の第9小節の第1拍に踏み出さなければならない。各ステップ／動作にあてる拍数は規程に定められたとおりとしなければならない。すべてのステップが流れを中断せず行えるように、あらゆる動作は音楽のリズムに合っていないなければならない。
- e) **スタイル** — 姿勢はまっすぐで、硬直しておらず、頭を上げていなければならない。すべての動作は無理なく流れのあるもので、かつ優雅に行われるべきである。ダンス・ホールド（第705条参照）はしっかりとしているべきであり、指を広げたり、握りしめたりするべきではない。スピードを得るために努力しているのが明らかにわかるのは避けるべきで、よいスタイルを犠牲にしてまでスピードを得るべきではない。フリー・レッグは伸ばし、つま先は外側下向きにすべきである。
- f) **ユニゾン** — カップルはできるだけ互いに接近して滑走し、互いの距離を一定に保つべきである。脚のスウィング、膝の曲げ、体の傾け具合などすべての動作は等しく、かつ、よく調和しているべきで、またその出来映えもバランスが取れているべきである。パートナー同士は一体となって動作すべきである。男性はリードする能力を、女性はフォローする能力を示すべきである。
- g) **プレゼンテーション（演技）** — ダンスはその音楽の特徴を正しく表現できる形で、スムーズかつリズムカルに滑走しなくてはならない。音楽の解釈はダンス動作に変化を付けることによって示す。音楽のリズム・パターンはダンス動作に反映されるからである。全体として、各パターン・ダンスがはっきりと違う特色を持つように演技しなくてはならない。パートナーは互いに関連し合うべきである。

2. パターン・ダンスの必須セクション

各パターン・ダンスのパターンは、一定数のセクションに分割することができる（ISUコミュニケーションで公表・更新する）。あるダンスの分割セクション数は、その長さ（ステップ数）とシーケンス数によって異なる。

3. パターン・ダンスの採点

a) 技術点

i) 価値尺度表（SOV、スケール・オブ・バリュー）

パターン・ダンスのセクションごとの価値尺度表は、ISUコミュニケーションで公表・更新する。この価値尺度表（SOV）には、各パターン・ダンスのあらゆるセクションに対する基礎値（BV）およびその出来の正確さと質に対する調整点が記されている。

ii) セクションのレベル

ノービス競技会および要項においてそのように指定された競技会では、テクニカル・スペシャリストがパターン・ダンスのセクションごとにレベルを決定する（ISUコミュニケーションでパターン・ダンスのセクションに対するレベルの記述とその価値尺度表が与えられている場合）。

セクションのレベルを決める特徴の説明はISUコミュニケーションで公表・更新する。

iii) 実施要素の出来栄え (GOE)

各ジャッジは、パターン・ダンスのセクションごとに出来の質を採点する。採点は、エクセキューションのよい点と悪い点およびエラーに応じて、11段階すなわち+5, +4, +3, +2, +1, 基礎値, -1, -2, -3, -4, -5で採点する。+あるいは-の各段階には価値尺度表に示す固有の+あるいは-の点数がある。この点数がセクションの基礎値に加点または減点される。

セクション／シーケンスの採点基準はISUコミュニケーションで公表・更新する。

b) プログラム・コンポーネンツ・スコア（演技構成点）

i) プログラム・コンポーネンツ（演技構成）の定義

各ジャッジは、総要素点に加えて、カップルの演技全体を3つの構成要素に分けて採点する。パターン・ダンスの3つの構成要素とは、タイミング、プレゼンテーション、スケーティング・スキルのことである（ISUコミュニケーションで別段の定めがある場合を除く）。

タイミング

定義：

音楽に厳密に合わせて滑る両パートナーの能力。

評価項目：

- 音楽に対する感受性
- 音楽に合わせた滑走
- 強拍に合わせた滑走
- 第1ステップの開始が第1拍。

プレゼンテーション

定義：

両スケーターが関わることで、ダンスの説明や特有のスタイルが要求する正しいリズムやスタイルを示すこと。

評価項目：

- 表現と投射
- ユニゾンと空間認識

スケーティングスキル

定義：

パワー、バランス、深いエッジ、片足またはローブから次の踏み換えまたはローブへの楽々とした移行、グライド、フローなどにより、ダンスの説明に従ったダンス・ステップやムーブメントを正確に行うカップルの能力

評価項目：

- エッジ、ステップ、ターン、動作の精度
- 全体的なスケーティングの質
- バランスとなめらかな滑り
- 流れ
- パワーとスピード
- 氷面の十分な利用

ii) プログラム・コンポーネンツ（演技構成）の採点

演技構成点は、ダンス終了後、0.25から10まで0.25刻みの点数でジャッジが採点する。1未満：きわめて劣る，1：非常に劣る，2：劣る，3：弱い，4：まあまあ，5：平均的，6：平均以上，7：よい，8：非常によい，9～9.75：卓越，10：傑出。0.25の刻みは、ある特徴は1つの段階にあり，他の特徴はその上の段階にあるというような演技を評価する際に用いる。

採点基準はISUコミュニケーションで公表・更新する。

c) 減点

特定の違反に対しては、第353条に従い減点が適用される。

C. リズム・ダンス

第709条

1. リズム・ダンス全般の要求事項

リズム・ダンスは、アイス・ダンス技術委員会がシーズンごとに指定するリズムおよび／またはテーマに即したダンス音楽に合わせ、カップルが創作するダンスである。リズム・ダンスには、以下のことが求められる。

- i) 音楽、選んだダンスリズムおよび／またはテーマの特徴を反映していること
- ii) バランスとなめらかな滑り、フロー、パワーとスピード、ユニゾンのほか、多様なステップ、ターン、動作を正確・完全に行うことで技術力を示し、氷上の演技へと昇華されていること
- iii) 調和と空間把握により、ユニゾンをもって演技されていること
- iv) 音楽のフレーズに合っていること

カップルは、基本的に、リズムを刻むビートに合わせて滑走しなければならない。リズム・ダンスは、次の段落で指定された必須要素のリストの中から、アイス・ダンス技術委員会が選んだ要素を含むものとする。コンセプトや振り付けからダンスらしい一体感が感じられるように、要素はダンスの構成に統合すべきである。リズム（または複数のリズム）および／またはテーマ、さらにはそのガイドラインや、指定された要素を含むジュニアとシニアのプログラムの技術的要件は、アイス・ダンス技術委員会が毎年決定し、ISUコミュニケーションで発表する。

リズム・ダンスの演技時間は第502条第3項に示す。

- c) リズム・ダンスの音楽は、指定されたパターン・ダンスが要件に入っている場合その音楽も含めて、カップルが用意する。ボーカル音楽でもよいが、スポーツ競技としてのアイス・ダンスに適したものでなければならない。音楽は以下の特徴を備えていなければならない。
- i) 使用できるのは、リズムカルなビートが聞こえるダンス音楽のみである。プログラムの冒頭10秒までは、リズムカルなビートが聞こえなくてもよい。
 - ii) 音楽は指定されたリズムおよび／またはテーマに沿ったものを選ばなくてはならない。

- iii) テンポは一定でなければならず、また、指定されたものでなければならぬ（該当する場合）。

上記指定に従わないリズム・ダンス音楽は減点により罰せられる（第353条第1項n）を参照）。音楽を提出する際、カップルは、選んだ音楽の名前、タイトルそしてプログラムのリズムやテーマもレフェリーおよびジャッジへの情報として提出しなければならない。

- d) パターンはほぼ一定方向に進行しなければならず、またロング・アクシスを横切ってよいのはリンクの各エンド（フェンスから20メートルを超えない範囲）で1回のみである。ループはロング・アクシスを横切らないかぎり、回転方向によらず許される（別途アイス・ダンス技術委員会が指定し、ISUコミュニケーションで発表した場合を除く）。
- e) 指定されたリズムと選んだ音楽に合っているかぎり、いかなるダンス・ステップ、ターン、回転、ポジション変更を用いてもよい。ステップ、ターン、動作のくり返しは許される。難しく独創的、多彩で複雑なフットワークが両パートナーに求められる。
- f) ダンス・ホールド（とその変形）に制限はない。腕を完全に伸ばしたハンド・イン・ハンド・ホールドも選んだリズムの特徴に合うときには許されるが、過度に使ってはならない。
- g) 両パートナーは、ホールドの変更、分離が必要な必須要素、つなぎ要素としてのターン、および許されたストップ中の動き以外に離れてはならない。このような分離において、パートナー間の距離は、両手間隔を超えてはならない。ホールドの変更およびつなぎ要素としてのターンは音楽の1小節を超えないこと。演技の最初および／または最後における分離は10秒まで許され、その距離にも制限がない（ISUコミュニケーションで別段の定めがある場合を除く）。
- h) 最初の動きで計時が開始された後、カップルは、プログラムの最初および／または最後において10秒を超えて1箇所に留まってはならない。プログラム中、完全なストップは、必須要素で必要な場合以外に2回まで許される（1回あたり5秒を超えてはならない）。ただし、別途ISUコミュニケーションで指定された場合を除く。
- i) プログラムは、片膝をついての滑走やトウ・ステップを使うなどの非スケーティング動作で構成するのではなく、スケーティングの技術と質によって表現しなければならない。非スケーティング動作を用いるのはそのダンスの特性や選んだ音楽のリズムとニュアンスを反映する場合に限るべきである。観客のために、プログラムはジャッジ側に集中させるのではなく、全方向の観客席に対して演技が向けられるように構成するべきである。

- j) 手で氷に触れることは許されない。ただし、IDTCが許可し、その旨、コミュニケーションで発表した場合を除く。
- k) 氷上に両膝を付くこと、両膝で滑走すること、および／または氷上に座することは許されず、テクニカル・パネルによって転倒とみなされる（ISUコミュニケーションで別段の定めがある場合を除く）。

2. 必須要素

リズム・ダンスに含まれるべき必須要素のリストとこれらの要素に対する詳細な要求事項は毎年のISUコミュニケーションで発表される。

以下が必須要素として含まれ得る選択肢である。

- ダンス・リフト — 第704条第16項参照
- ダンス・スピン — 第704条第14項e)参照
- ターン・シーケンス — 第704条第12項参照
- ステップ・シーケンス — 第703条第4項参照
- パターン・ダンス要素 — 第703条第6項参照（ジュニア・リズム・ダンスの必須要素には、第703条第6項a)または第6項b)のパターン・ダンス要素が含まれる）
- コレオグラフィック要素 — 第704条第19項参照

D. フリー・ダンス

第710条

1. フリー・ダンス全般の要求事項

- a) フリー・ダンスは、選んだダンス音楽の性格（曲想）／リズムを表現しつつ、ダンス・ステップや動作を織り交ぜて創造的なダンス・プログラムをカップルが滑走するものである。

フリー・ダンスは、新規あるいは既知のダンス・ステップおよび必須要素などの動作を含まなければならない。卓越したスケーティング技術に加えて、コンセプトや配置、表現にこめた各カップル独自の独創性を示すことができるバランスのとれたひとまとまりとして構成されていなければならない。プログラムは必須要素を含め音楽に合わせ拍子をそろえて滑走しなければならない。カップルは主としてリズムカルなビートに合わせて滑走しなければならない。メロディのみに合わせてはならない。振り付けは選んだダンス音楽のダンスの性格、アクセント、ニュアンスを明確に反映し、速さやテンポの変化によってパートナーの深い関係性を明確に表現し、雰囲気とペースの明確な変化を表現するべきである。プログラムは氷面の全面を使用しなければならない。フリー・ダンスはペア的またはショー・プログラムのあつてはならない。

- b) フリー・ダンスの演技時間は第502条第4項に示されている。
- c) フリー・ダンスの音楽はボーカルを含んでもよいが、スポーツ種目としてのアイス・ダンスに適したものでなければならない。また、以下の特徴を持たなければならない。
 - i) 音楽はリズムカルなビートとメロディが聞こえるもの、あるいはリズムカルなビート（1種類）のみが聞こえるものでなければならない。メロディのみであってはならない。ボーカルを含んでいてもよい。音楽はプログラムの開始または終了において10秒間まで、さらにプログラム中において10秒間まで、耳に聞こえるリズムカルなビートを含まなくともよい。
 - ii) 音楽はテンポ／リズムおよび表現の変化が最低1回なければならない。この変化は徐々にでも急激にでもかまわない。
 - iii) クラシック音楽を含めすべての音楽は、興味深く、かつ色彩豊かで楽しめ、さらにはさまざまな雰囲気や盛り上がりのあるダンス・プログラムとなるように編集、編曲されていなければならない。

これらの要件に従わないフリー・ダンスの音楽は減点により罰せられる（第353条第1項n参照）。

- d) あらゆるステップとターンが許される。プログラムにはスケーティング技術、難しさ、多様さ、独創性を示し、ダンスのはっきりとした技術的内容を構成するディープ・エッジと複雑なフットワークが含まなければならない。かつ両パートナーによって実行されなければならない。観客のために、プログラムはジャッジ側に集中させるのではなく、全方向の観客席に対して演技が向けられるように構成するべきである。
- e) 音楽の性格にふさわしく、ウェルバランス・プログラムの概念から外れず、かつ第704条の定義に沿っているかぎり、どのような要素も動作も許される。
- f) つなぎのフットワークや動作を行うための分離に回数の制限はない。パートナー間の距離は、両腕間隔を超えてはならない。このような分離は、分離が必要な必須要素における場合を除き、1回あたり5秒を超えてはならない。ISUコミュニケーションで別段の定めがないかぎり、プログラムの最初と最後においては10秒までの分離が許され、その距離にも制限がない。

- g) あらゆるホールド・チェンジが許される。多種多様なホールドにするとプログラムの難度が増すので、多種多様なホールドを含むようにすべきである。フェイス・トゥ・フェイスでの滑走は、サイド・バイ・サイドでの滑走、ハンド・イン・ハンドでの滑走、離れての滑走、あるいは一方が他方の後ろを滑走することに比べて難しいとみなされる。
- h) 最初の動きで計時が開始された後、カップルは、プログラムの最初や最後において10秒を超えて1箇所に留まってはならない。完全なストップは、必須要素で必要な場合以外にも、1回あたり5秒以内であれば許され、そのあいだ、カップルは氷上の位置を保ちつつ、各種の動作やツイスト、ポーズなどを行うことができる（ISUコミュニケーションで別段の定めがある場合を除く）。
- i) プログラムは、片膝をついての滑走やトゥ・ステップを使うなどの非スケーティング動作で構成するのではなく、スケーティングの質によって表現しなければならない。非スケーティング動作を用いるのはそのダンスの特性や選んだ音楽のリズムとニュアンスを反映する場合に限るべきである。
- j) 手で氷に触れることは許されない。
- k) 氷上に両膝を付くこと、両膝で滑走すること、および／または氷上に座ることは許されず、テクニカル・パネルによって転倒とみなされる（ISUコミュニケーションで別段の定めがある場合を除く）。

2. ウェルバランス・フリー・ダンス・プログラム

ノービス、ジュニア、シニアにおけるフリー・ダンスのウェルバランス・プログラムに含まれるべき必須要素およびその要件は、毎年ISUコミュニケーションに発表する。以下が必須要素として含まれ得る選択肢である。

- ダンス・リフト — 第704条第16項参照
- ダンス・スピン — 第704条第14項e)参照
- ステップ・シーケンス — 第703条第4項グループAおよびB参照
- ターン・シーケンス — 第704条第12項参照
- コレオグラフィック要素 — 第704条第19項参照

**E. パターン・ダンスの発表および抽選ならびに
リズム・ダンスおよびフリー・ダンスの要件の発表**

第711条

1. 国際ノービス競技会におけるパターン・ダンス課題は、アイス・ダンス技術委員会からISUコミュニケーションによって毎年6月1日以前に発表され、発表翌年の7月1日から発効する。パターン・ダンス競技部分がある他の国際競技会におけるパターン・ダンス課題は、主催者が決定し要項で発表することができる。抽選が必要な場合は、最初の公式練習の前に、滑走されるパターン・ダンスを抽選して発表する。この抽選は、レフェリーが、可能ならば参加選手1組の立会いを得て行う。
2. a) リズム・ダンスとフリー・ダンスの詳細な要件は、毎年アイス・ダンス技術委員会が決定しISUコミュニケーションに発表する。
b) 発表されたリズム・ダンスとフリー・ダンスの詳細な要件は、発表された年度の7月1日から6月30日までの間、ISU選手権大会と国際競技会のすべてにおいて使われなければならない。
3. 技術的な要求事項に関係するすべてのコミュニケーションは、総会の結果として決定が先送りされたもの、あるいは、必要に応じて発表される明確化および追加事項を除き、6月1日より前に発表されねばならない。

第712条～第799条（予備）

INTERNATIONAL SKATING UNION

Founded: July 23rd, 1892, at Scheveningen (Netherlands)

ISU MEMBERS

AND	Andorra	Federacio Andorrana d'Esports de Gel (Figure)
ARG	Argentina	Argentine Ice Speed Skaters Union (UVEPA) (Speed) Federacion Argentina de Patinaje Sobre Hielo (Figure)
ARM	Armenia	Figure Skating Federation of Armenia (Figure)
AUS	Australia	Australian Ice Racing Inc. (Speed) Ice Skating Australia Incorporated (Figure)
AUT	Austria	Österreichischer Eisschnelllauf Verband (Speed) Österreichischer Eiskunstlauf Verband (Figure)
AZE	Azerbaijan	The Skating Federation of Azerbaijan Republic (Figure)
BEL	Belgium	Fédération Royale Belge de Patinage de Vitesse (Speed) Fédération Royale Belge de Patinage Artistique (Figure)
BIH	Bosnia and Herzegovina	Skating Federation of Bosnia and Herzegovina
BLR	Belarus	Skating Union of Belarus
BRA	Brazil	Brazilian Ice Sports Federation
BUL	Bulgaria	Bulgarian Skating Federation
CAM	Cambodia	Cambodia Ice Skating Federation (Provisional Member Figure)
CAN	Canada	Speed Skating Canada (Speed) Skate Canada (Figure)
CHI	Chile	Chilean National Figure Skating Federation (Provisional Member Figure)
CHN	China	Chinese Skating Association (Speed) Chinese Figure Skating Association (Figure)
COL	Colombia	Federacion Colombiana de Patinaje (Provisional Member Speed)
CRO	Croatia	Croatian Skating Federation
CYP	Cyprus	Cyprus Skating Federation (Figure)
CZE	Czech Republic	Czech Speed Skating Federation (Speed) Czech Figure Skating Association (Figure)
DEN	Denmark	Dansk Skøjte Union
ECU	Ecuador	Ecuadorian Skating Federation (Provisional Member Figure)
<u>EGY</u>	<u>Egypt</u>	<u>Ice Skate Egypt (Provisional Member Figure)</u>
ESP	Spain	Federacion Española de Deportes de Hielo
EST	Estonia	The Estonian Skating Union

FIN	Finland	Suomen Luisteluliitto (Speed) Suomen Taitoluisteluliitto (Figure)
FRA	France	Fédération Française des Sports de Glace
GBR	Great Britain	British Ice Skating
GEO	Georgia	Georgian Figure Skating Federation (Figure)
GER	Germany	Deutsche Eisschnelllauf-Gemeinschaft (Speed) Deutsche Eislauf-Union e.V. (Figure)
GRE	Greece	Hellenic Winter Sports Federation (Figure)
HKG	Hong Kong/ China	Hong Kong Skating Union Ltd
HUN	Hungary	Hungarian National Skating Federation
INA	Indonesia	Federasi Ice Skating Indonesia
IND	India	Ice Skating Association of India
IRL	Ireland	Ice Skating Association of Ireland
ISL	Iceland	Icelandic Skating Association (Figure)
ISR	Israel	Israel Ice Skating Federation
ITA	Italy	Federazione Italiana Sport del Ghiaccio
JPN	Japan	Japan Skating Federation
KAZ	Kazakhstan	National Skating Federation of the Republic of Kazakhstan
KGZ	Kyrgyz Republic	Skating Federation of the Kyrgyz Republic (Figure)
KOR	Rep. of Korea	Korea Skating Union
KUW	Kuwait	<u>Kuwait Figure Skate Federation (Provisional Member Figure)</u>
LAT	Latvia	Latvian Skating Association
LIE	Liechtenstein	Liechtensteiner Eislauf Verband (Figure)
LTU	Lithuania	Lithuanian Speed Skating Association (Speed) Lithuanian Skating Federation (Figure)
LUX	Luxembourg	Union Luxembourgeoise de Patinage de Vitesse (Speed) Union Luxembourgeoise de Patinage (Figure)
MAR	Morocco	Association of Moroccan Ice Sports (Figure)
MAS	Malaysia	Ice Skating Association of Malaysia
MDA	Moldova	Figure Skating Federation of the Republic of Moldova (Figure)
MEX	Mexico	Federacion Mexicana de Patinaje Sobre Hielo y Deportes de Invierno, A. C. (Figure)
MGL	Mongolia	Skating Union of Mongolia
MKD	North Macedonia	Skating Federation of North Macedonia (Figure)
MON	Monaco	Fédération Monégasque de Patinage (Figure)
NED	Netherlands	Koninklijke Nederlandsche Schaatsenrijders Bond
NOR	Norway	Norges Skøyteforbund

NZL	New Zealand	Ice Speed Skating New Zealand Inc (Speed) New Zealand Ice Figure Skating Association (Inc) (Figure)
PER	Peru	Peruvian Ice Skating Federation
PHI	Philippines	Philippine Skating Union
POL	Poland	Polish Speed Skating Association (Speed) Polish Figure Skating Association (Figure)
POR	Portugal	Portuguese Winter Sports Federation (Provisional Member Speed & Figure)
PRK	D.P.R. Korea	Skating Association of the Democratic People's Republic of Korea
QAT	Qatar	Qatar Skating Federation (Speed)
ROU	Romania	Romanian Skating Federation
RSA	South Africa	South African Speed Skating Association (Speed) South African Figure Skating Association (Figure)
RUS	Russia	Russian Skating Union (Speed) The Figure Skating Federation of Russia (Figure)
SGP	Singapore	Singapore Ice Skating Association
SLO	Slovenia	Slovene Skating Union
SRB	Serbia	Serbian Skating Association
SUI	Switzerland	Schweizer Eislauf-Verband Internationaler Schlittschuh-Club Davos (Club Member)
SVK	Slovak Republic	Slovak Speed Skating Union (Speed) Slovak Figure Skating Association (Figure)
SWE	Sweden	Swe-Sports - Svenska Skridsko-, k��lk-och Rullidrottsf��rbundet (Speed) Svenska Konstakningsf��rbundet (Figure) Stockholms Allm��nna Skridskoklubb (Club Member)
THA	Thailand	Figure and Speed Skating Association of Thailand
TKM	Turkmenistan	National Center of Turkmenistan for Winter Sport (Provisional Member Figure)
TPE	Chinese Taipei	Chinese Taipei Skating Union
TUR	T��rkiye	Turkish Ice Skating Federation
UAE	United Arab Emirates	UAE Ice Sports Federation (Figure)
UKR	Ukraine	Ukrainian Speed Skating Federation (Speed) Ukrainian Figure Skating Federation (Figure)
USA	United States of America	US Speedskating (Speed) The United States Figure Skating Association (Figure)
UZB	Uzbekistan	Winter Sports Association of Uzbekistan
VIE	Vietnam	Skating Federation of Vietnam (Figure & Provisional Member Speed)

INTERNATIONAL SKATING UNION

Headquarters: Registered postal address:

Avenue Juste-Olivier 17, 1006 Lausanne, Switzerland, Phone: (+41) 21 612 66 66,
Fax: (+41) 21 612 66 77, E-Mail: info@isu.ch

OFFICE HOLDERS 2022-2026

Council:

President:	<u>Jae Youl Kim</u>	<u>Republic of Korea</u>
1st Vice President:	Tron Espeli	Norway
Vice President:	Figure Skating: <u>Benoit Lavoie</u>	<u>Canada</u>

Members:	Speed Skating:	Suwanna Silpa-Archa Sergio Anesi Stoytcho G. Stoytchev <u>Alexander Kibalko</u> <u>Albert Hazelhoff</u>	Thailand Italy Bulgaria <u>Russia</u> <u>Netherlands</u>
----------	----------------	---	--

Figure Skating:	Patricia St. Peter Tatsuro Matsumura <u>Susanna Rahkamo</u> <u>György Elek</u> Maria Teresa Samaranch	USA Japan <u>Finland</u> <u>Hungary</u> Spain
-----------------	---	---

<u>Athletes</u> <u>Representative:</u>	<u>Eric Radford</u>	<u>Canada</u>
---	---------------------	---------------

Director General:	Fredi Schmid	Switzerland
Treasurer:	Ulrich Linder	Switzerland
Legal Advisors:	Michael Geistlinger	Austria

Figure Skating Sports Technical Director:	Charles Z. Cyr	USA
---	----------------	-----

Speed Skating Sports Technical Director:	Hugo Herrnhof	Italy
--	---------------	-------

Technical Committees:

Single & Pair Skating:	Chair:	Fabio Bianchetti	Italy
	Members:	Leena Laaksonen Yukiko Okabe <u>Emilie Billow</u> Susan Lynch	Finland Japan <u>Sweden</u> Australia
	Appointed Skater:	<u>Cong Han</u>	<u>China</u>
	Appointed Coach:	Patrick Meier	Switzerland

Ice Dance:	Chair:	<u>Shawn Rettstatt</u>	<u>USA</u>
	Members:	Hilary Selby <u>David Molina</u> <u>Ingrid Charlotte Wolter</u>	Great Britain <u>France</u> <u>Germany</u>
	Appointed Skater:	<u>Kaitlyn Weaver</u>	<u>Canada</u>
	Appointed Coach:	<u>Alper Uçar</u>	<u>Türkiye</u>

INTERNATIONAL SKATING UNION

Synchronized Skating:	Chair:	Philippe Maitrot	France
	Members:	Petra Tyrbo	Sweden
		Lois Long	USA
		<u>Nina Bischoff</u>	<u>Switzerland</u>
	Appointed Skater:	<u>Ida Hellström</u>	<u>Finland</u>
Appointed Coach:	Cathy Dalton	Canada	

Speed Skating:	Chair:	<u>Nick Thometz</u>	<u>USA</u>
	Members:	<u>Hanjo Heideman</u>	<u>Netherlands</u>
		Øystein Haugen	Norway
		Alexei Khatylev	Belarus
	Appointed Skater:	<i>Pending</i>	
Appointed Coach:			

Short Track Speed Skating:	Chair:	Nathalie Lambert	Canada
	Members:	Reinier Oostheim	Netherlands
		So Hee Kim	Korea
		Christoph Milz	Germany
	Appointed Skater:	<i>Pending</i>	
Appointed Coach:	Wim de Deyne	Belgium	

Athletes Commission

(elected until March 2026)

Chair	<u>Eric Radford</u>	<u>Canada</u>
Vice Chair	<u>Douwe de Vries</u>	<u>Netherlands</u>
	<u>Evan Bates</u>	<u>USA</u>
	<u>Nathalie Lindqvist</u>	<u>Sweden</u>
	<u>Viktor Knoch</u>	<u>Hungary</u>

Disciplinary Commission:

Chair:	<u>Susan Petricevic</u>	<u>New Zealand</u>
Members:	Allan Böhm	Slovak Republic
	Jean-François Monette	Canada
	<u>Eugen Larasser</u>	<u>Germany</u>
	<u>Keith King</u>	<u>USA</u>

Medical Commission:

Chair:	Jane M. Moran	Canada
Members:	Joel C. Shobe	USA
	Hiroya Sakai	Japan
	Ruben Ambartsumov	Ukraine
	Hannu Koivu	Finland
	Eunkuk Kim	Rep. of Korea
	Marieke Becker	Netherlands

Development Commission:

Coordinator:	<u>Jildou Gemser</u>	<u>Netherlands</u>
	Xu Xun	China

INTERNATIONAL SKATING UNION

Honorary Presidents:

		Year of election
Viktor Gustaf Balck †	Sweden	1925
Emerich von Szent Györgyi †	Hungary	1933
Herbert J. Clarke †	Great Britain	1955
James Koch †	Switzerland	1967
Jacques Favart †	France	1982
Olaf Poulsen †	Norway	1994
Ottavio Cinquanta †	Italy	2016
<u>Jan Dijkema</u>	<u>Netherlands</u>	<u>2022</u>

Honorary Vice Presidents:

Sven Låftman †	Sweden	1971
Hendrik Roos †	Netherlands	1977
John R. Shoemaker †	USA	1980
Hermann Schiechtl †	F.R.G.	1984
Georg Pettersson †	Sweden	1986
Jean Heckly†	France	1992
Josef Dedic †	Czech Republic	1994
Lawrence Demmy M.B.E. †	Great Britain	1998
Gerhard Zimmermann	Germany	2010
David Dore †	Canada	2016
<u>Alexander Lakernik</u>	<u>Russia</u>	<u>2022</u>

Honorary Secretary:

Georg Häsler †	Switzerland	1975
----------------	-------------	------

Honorary Members:

		Year of election
Hans Pfeiffer †	Austria	1939
Gustavus F. C. Witt †	Netherlands	1953
Marcel Nicaise †	Belgium	1959
Friedrich Kachler †	Austria	1959
Walter S. Powell †	USA	1961
Reginald J. Wilkie †	Great Britain	1963
Georg Krog †	Norway	1969
Ernest Labin †	Austria	1969
Harald Halvorsen †	Norway	1969
Ernest J. G. Matthews †	Great Britain	1977
Heinz Dragunsky †	G.D.R.	1980
Oskar Madl †	Austria	1980
George Blundun †	Canada	1980
Emil Skákala †	Czechoslovakia	1980
Viktor Kapitonov †	U.S.S.R.	1984
Arne Kvaalen †	Norway	1984
Icilio Perucca †	Italy	1988
Elemér Tertak †	Hungary	1988
Donald H. Gilchrist †	Canada	1992
Herman J. van Laer †	Netherlands	1992
Benjamin T. Wright †	USA	1992
John Hurdis †	Canada	1992
Charles A. De More †	USA	1994
Hans Kutscher†	Austria	1996
Jean Grenier	Canada	1996

INTERNATIONAL SKATING UNION

Honorary Members: *(continued)*

		Year of election
Jürg Wilhelm †	Switzerland	1998
Lars-Olof Eklund †	Sweden	1998
Jan W.P. Charisius †	Netherlands	1998
Wolfgang Kunz †	Germany	1998
Joyce Hisey	Canada	2002
Walburga Grimm †	Germany	2002
John Hall †	Great Britain	2002
Maria Bialous-Zuchowicz †	Poland	2006
Claire Ferguson	USA	2006
Monique Georgelin	France	2006
Myong-Hi Chang	Rep. of Korea	2010
Courtney J.L. Jones O.B.E.	Great Britain	2010
Ulf Lindén	Sweden	2010
Gerhardt Bubník	Czech Republic	2010
James L. Hawkins	USA	2010
Phyllis Howard	USA	2016
Tjasa Andréa-Proscenc	Slovenia	2016
German Panov	Russia	2016
Lan Li	China	2016
György Martos	Hungary	2016
Peter Krick	Germany	2016
Alexander Gorshkov	Russia	2016
Ann Shaw	Canada	2016
Olga Gilardini	Italy	2016
Junko Hiramatsu	Japan	2018
<u>Marie Lundmark</u>	<u>Finland</u>	<u>2022</u>
<u>Roland Maillard</u>	<u>Switzerland</u>	<u>2022</u>
<u>Volker Waldeck</u>	<u>Germany</u>	<u>2022</u>
<u>Béatrice Pfister</u>	<u>Switzerland</u>	<u>2022</u>

Past Presidents:

		Years of service
Willem H.J. Mulier †	Netherlands	1892–1894
Viktor Gustav Balck †	Sweden	1895–1924
Ulrich Salchow †	Sweden	1925–1937
Gerrit W.A. van Laer †	Netherlands	1937–1945
Herbert J. Clarke †	Great Britain	1945–1953
James Koch †	Switzerland	1953–1967
Ernest Labin †	Austria	1967
Jacques Favart †	France	1967–1980
Olaf Poulsen †	Norway	1980–1994
Ottavio Cinquanta †	Italy	1994–2016
<u>Jan Dijkema</u>	<u>Netherlands</u>	<u>2016–2022</u>

INTERNATIONAL SKATING UNION

Jacques Favart Trophy:

established 1981

Year of award

Irina Rodnina	U.S.S.R.	1981
Eric Heiden	USA	1983
Jayne Torvill / Christopher Dean	Great Britain	1986
Scott Hamilton	USA	1987
Katarina Witt	G.D.R.	1988
Karin Kania	G.D.R.	1990
Natalia Bestemianova / Andrei Bukin	Russia	1992
Tomas Gustafson	Sweden	1993
Gaétan Boucher	Canada	1994
Bonnie Blair	USA	1998
Kurt Browning	Canada	1998
Johann Olav Koss	Norway	1998
Ludmila † & Oleg Protopopov	Switzerland	1998

Georg Häsler Medal:

established 1985

Zoltán Balázs †	Hungary	1987
Willi Zipperlen †	Switzerland	1987
F. Ritter Shumway †	USA	1988
Herbert Kunze†	F.R.G.	1989
Assen Pavlov	Bulgaria	1989
W. Thayer Tutt †	USA	1989
Victor Blinov †	U.S.S.R.	1990
Andrea Ehrig	G.D.R.	1990
Radovan Lipovscak†	Yugoslavia	1990
Courtney J. L. Jones O.B.E.	Great Britain	1991
Milan Duchon	Czechoslovakia	1992
Klaas Schipper	Canada	1992
Lysiane Lauret †	France	1993
Anna Sinilkina †	Russia	1993
George Howie†	USA	1993
Pamela E.L. Davis, M.B.E. †	Great Britain	1994
Jurjen Osinga	Netherlands	1994
Ivan Mauer †	Slovak Republic	1995
Florea Gamulea	Romania	1996
David E. Morgan †	Australia	1996
Beat Häsler	Switzerland	1998
Mitsuo Matsumoto †	Japan	2000
Robert Moir †	Canada	2002
Valentin Piseev	Russia	2002

INTERNATIONAL SKATING UNION

ISU Gold Award of Merit:

established 2004

Lysiane Lauret †	France	2006
Lucy Brennan	USA	2007
Susan Johnson	USA	2007
Joachim Franke	Germany	2008
Ann Shaw	Canada	2008
David Mitchell	Great Britain	2016
Robert Horen	USA	2017
Joseph Inman	USA	2017
Christa Elisabeth Krick	Germany	2017
Erik Ømundset	Norway	2017
Kenneth Pendrey	Great Britain	2017
Gale Tanger	USA	2017
Michel Verrault	Canada	2017
Susan Heffernan	Canada	2019
Joanne Shaw	Canada	2019
Sally Rehorick	Canada	2019
Knut Ludahl	Norway	2019
Jan Marmstål	Sweden	2019